

令和6（2024）年度  
男女共同参画に関するアンケート調査

報告書

令和7（2025）年3月  
四條畷市

## I 調査の概要

1. 調査目的 .....	2
2. 調査方法 .....	2
3. 回収結果 .....	2
4. 調査内容 .....	3
5. 報告書の表示 .....	4

## II 調査結果の概要（抜粋） .....

### 5

## III 調査結果の分析

回答者の属性.....	9
1. 男女平等に関する意識について .....	13
2. 家庭生活について .....	21
3. 就労について .....	28
4. 仕事と生活の調和について .....	35
5. ドメスティック・バイオレンス（DV）について .....	40
6. 男女共同参画社会の実現について .....	47
7. 自由意見 .....	56

# I 調査の概要

---

## 1. 調査目的

第2次なわてあじさいプランの計画期間が令和7(2025)年度末をもって終了することから、これまでの取り組みの成果を把握するとともに、現時点での男女共同参画に関する市民の意識やニーズを把握し、第3次なわてあじさいプランの策定に向けての基礎資料とします。

## 2. 調査方法

調査対象	満18~75歳の市民から1,000人を住民基本台帳データから無作為抽出(令和6年4月1日時点)
調査方法	対象者あてハガキ送付(QRコードまたはURLから回答、紙による回答を希望された方には郵送配布、回収)
調査期間	令和6年5月1日~31日

## 3. 回収結果

有効回答数	188人(女性98人、男性87人、回答しない3人) (Web回答185人、紙回答3人)
回収率	18.9%

### 《前回の調査概要》

#### 調査方法

調査対象	満18~75歳の市民から1,000人を住民基本台帳データから無作為抽出(平成28年4月1日時点)
調査方法	郵送による調査票の配付・回収
調査期間	平成28年5月25日~6月15日

#### 回収結果

有効回答数	316人(女性176人、男性126人、不明14人)
回収率	31.6%

#### 4. 調査内容

		調査項目			
回答者の属性	A.性別		B.年齢	C. 世帯構成	D.職業
	E.同居する子の有無		F.子の年齢	G.結婚の有無	H.世帯収入
男女平等に関する意識について	問 1	男女平等の現状認識			
	問 2	固定的な性別役割分担意識			
	問 2-1	「男は仕事、女は家庭」と思う理由			
	問 2-2	「男は仕事、女は家庭」と思わない理由			
家庭生活について	問 3	家庭の各分野における性別役割分担の意識			
	問 4	仕事、家事、子育ての所要時間			
就労について	問 5	女性が仕事に就くことへの意識			
	問 6	職場における男女平等の認識			
	問 7	女性の今後の就業意向			
	問 7-1	働きたい女性が働けない理由			
	問 8	女性が働き続けるために必要なこと			
	問 9	女性が再就職しやすくなるために必要なこと			
仕事と生活の調和について	問 10(1),(2)	生活の中で優先すること			
	問 11	男性の家事、子育て等への参加に必要なこと			
ドメスティック・バイオレンス(DV)について	問 12	DVの判断基準			
	問 12-1	新) DVにあった経験の有無			
	問 12-2.3	新) DV相談の状況			
	問 13	DV相談窓口の認知度、認知方法			
	問 14	メディアにおける性・暴力表現に関する意見			
男女共同参画社会の実現について	問 15	項目追加) 男女共同参画に関する用語の認知度			
	問 16	新) 困難な問題を抱える女性に関する問題について			
	問 17	新) 性的マイノリティの人のために必要な取り組み			
	問 18	男女共同参画の推進に重要なこと			
自由意見	—	自由意見欄			

## 5. 報告書の表示

- ・グラフ内の数字は小数点以下を四捨五入しているため、合計値が 100%にならない場合があります。
- ・グラフ内の「n」はその集計の有効回答数を意味します。
- ・図及びグラフ内ではスペースの都合上、選択肢の文言を省略して表示している場合があります。
- ・複数回答（マルチアンサー）の設問の場合、集計結果の合計が 100%を超えます。

## II 調査結果の概要(抜粋)

---

### I 男女平等に関する意識について

#### ○【問1】次の分野で、男女間でどの程度平等になっていると思いますか。あなたのお考えに近いものの番号をそれぞれ1つ選んでください。

男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習など」「社会全体」で『男性優遇』とした割合が高く、特に「政治の場」全体で82%(前回66.8%)、「社会通念、慣習」73%(前回68.4%)、「社会全体として」70%(前回69.3%)が続きます。全ての場面において、男女ともに『男性優遇』が『女性優遇』より高くなっています。今後「平等である」の回答割合を増やしていくことが課題と言えます。

「平等である」と感じている割合が高かったのは、前回同様「学校教育の場」で50%(前回53.5%)となっています。前回比較で、「平等である」の割合の伸びが一番大きいのは「職場のなかで」が8.7%の増加となり、職場における認識は改善に向かっていると言えます。

#### ○【問2】「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

『同感する』は23%で前回調査の38.3%から約15%減少しています。一方『同感しない』は60.8%から76%となり、前回より約15%増加しています。

前回と比較して、性別を理由とした考え方に対する否定的な人の割合が増加しています。

### 2 家庭生活について

#### ○【問3】次のことについて、男女の役割分担はどうあるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものの番号をそれぞれ1つ選んでください。

「仕事(収入の確保)」は男性の役割と考えている人が45%と、前回同様に最も高くなっていますが、割合は約20%減少しています。一方で、「家計の管理」「家事」「乳幼児の世話」は、女性の役割と考えている人が、前回はいずれも概ね50%を超えていましたが、今回は「乳幼児の世話」のみが約5割となっています。

「地域活動への参加」以外は、両方同じ程度と回答した割合は前回より増加しており、男女共同参画に向けた意識の醸成が進んできていると言えます。

#### ○仕事、家事、子育ての所要時間(平日)【問4】

【仕事】8時間以上である女性は36%、男性で64%となっており、男性の方が28%高くなっています。

【家事】なしを含む4時間未満は女性56%、男性89%となっており、男性の方が33%高くなっています。

【子育て】男女とも「なし」が最も多く、特に男性は半数以上となります。女性は「10時間以

上」が 22%、男性は「4時間未満」28%が2番目に多くなります。

#### ○仕事、家事、子育ての所要時間（休日）【問4】

【仕事】男女とも「なし」が最も高く女性 60%、男性 48%、次に「4時間未満」が女性 19%、男性 32%となっており、男性の方が仕事時間が長い傾向があります。

【家事】平日と同じく「4時間未満」が男女とも最も多く、女性 34%、男性 51%と男性の方が高くなっています。4時間以上は女性の方が高くなっています。

【子育て】休日は男性は「なし」がもっと多く 46%、次いで「4時間未満」の 26%である一方、女性は「10時間以上」が最も多く、平日より 16%増加、次いで「なし」32%となります。

### 3 就労について

#### ○【問5】女性が仕事に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。

女性の就労に関する意識については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が 45%と最も高く、前回調査の 28.2%を大きく上回りました。女性の方が特にこの回答を選択する割合が高くなっています。

#### ○【問6】あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。

全体で「平等」を回答した割合は「募集・採用」、「研修の機会や内容」がそれぞれ 6 割を超えています。

「男性優遇」と回答した割合が最も高かったのは、「昇進・昇格、管理職への登用」32%、次いで「賃金」28%です。「女性優遇」と回答した割合は「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」で32%と最も高くなっています。特にこれら3項目の「平等」の割合を高めることができます。

前回と比較して、全ての項目で「平等」を回答した割合が増え、「男性優遇」「女性優遇」を回答した割合が減っています。

### 4 仕事と生活の調和について

#### ○【問10】あなたは、生活の中で「仕事」「家庭」「自分の時間」の3つのうち何を優先しますか。

(希望と現実(現状)の比較)

希望では《「家庭」と「自分の時間」をともに優先したい》あるいは《「仕事」と「家庭」と「自分の時間」の3つとも大切にしたい》が、現実では、「仕事」あるいは「家庭」を優先している傾向があり、希望と現実(現状)にギャップが生じています。

#### ○【問11】今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

必要だと思うことは「家事、子育て、介護等へ参加がしやすい職場の環境が整うこと」が 64%で最も多くなります。問 10 の結果も考慮すると、職場の環境の改善を優先する割合が

高くなっていると考えられます。

前回調査で最も多かった「男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改めること」43%は次点で 44%でした。その次に「子どもの頃から男性に家事や育児に関する教育をすること」43%が続きます。前回は次点だった「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと 39.9%は今回は 37%です。

## 5 ドメスティック・バイオレンス(DV)について

○【問12】あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

暴力だと思う事柄について「人とのつきあいの制限」いわゆる社会的暴力以外、どの項目も約6割以上が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識しています。

### 【問12 関連質問】

1 配偶者・パートナーから問12のような行為を受けたことがありますか。

2 受けた行為について相談されましたか。

3「誰にも相談しなかった」を選択した人におたずねします。その理由を教えてください。

最も割合が高かったのは「誰にも相談しなかった」61%です。次いで「知人・友人」22%、「親族」17%と続きます。

男女別で見ると、男性は「誰にも相談しなかった」が100%となりました。女性は「誰にも相談しなかった」「知人・友人」が36%、次いで「親族」となります。

誰にも相談しなかった理由として、女性は「相談できる相手がいなかったから」、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が主な理由です。

## 6 男女共同参画社会の実現について

○【問15】男女共同参画に関する用語の認知度

「ジェンダー」(前回 52.9%)と「男女雇用機会均等法」が(前回 83.9%)がともに94%と認知度が高く、次いで今回の調査で新規追加した「持続可能な開発目標」の 92%となります。

一方、『聞いたことがなく内容も知らない』、は「四條畷市男女共同参画推進計画」72%(前回 68.7%)、次いで「四條畷市男女共同参画推進条例」66%(前回 65.8%)、「ポジティブ・アクション」が 63%(前回 69%)となり、今後、周知や啓発の機会を増やしていく必要があるという結果となります。

★新【問16】あなたが自力では解決できない困難な問題として直面したことがありますか。

女性を対象に質問。「そのような経験はない」と答えた割合は約5割です。困難な問題として直面した割合が多いのが、「心身の健康問題」20%、「家事・育児・介護の負担」18%、「家庭内でのもめごと」16%と続きます。

**★新【問17】性的マイノリティの人が安心して過ごせる社会をつくるために必要だと思われる取り組みは何ですか。**

割合が高かったのは全体では「学校で理解を深めるための教育や、当事者が学びやすい環境を整える」が67%、「法律や制度の整備」47%、「トイレや更衣室などを利用しやすいように整備する」37%の順となります。

男女別で見ると、女性は「相談・支援体制の整備」、男性は「法律や制度の整備」を選択する割合が多い結果となります。

**○【問18】今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要なものは何ですか。**

「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改めること」が6割と前回同様最も高くなっています。

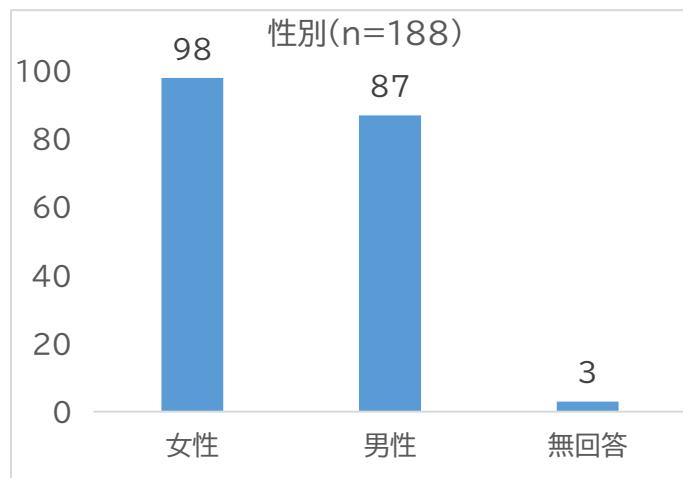
次に同率38%で「法律や制度の上の見直しを行い、性差別につながるもの改めること」「子どもの頃から家庭や学校で男女平等について教えること」が続きます。

前回は2番目に多かった「男性の意識改革」は今回3番目で29%です。また、男女別で見ると、女性は子どもの頃からの家庭や学校での教育が、男性は職場において待遇の差をなくすことがより重要だと考える人が多い結果となります。

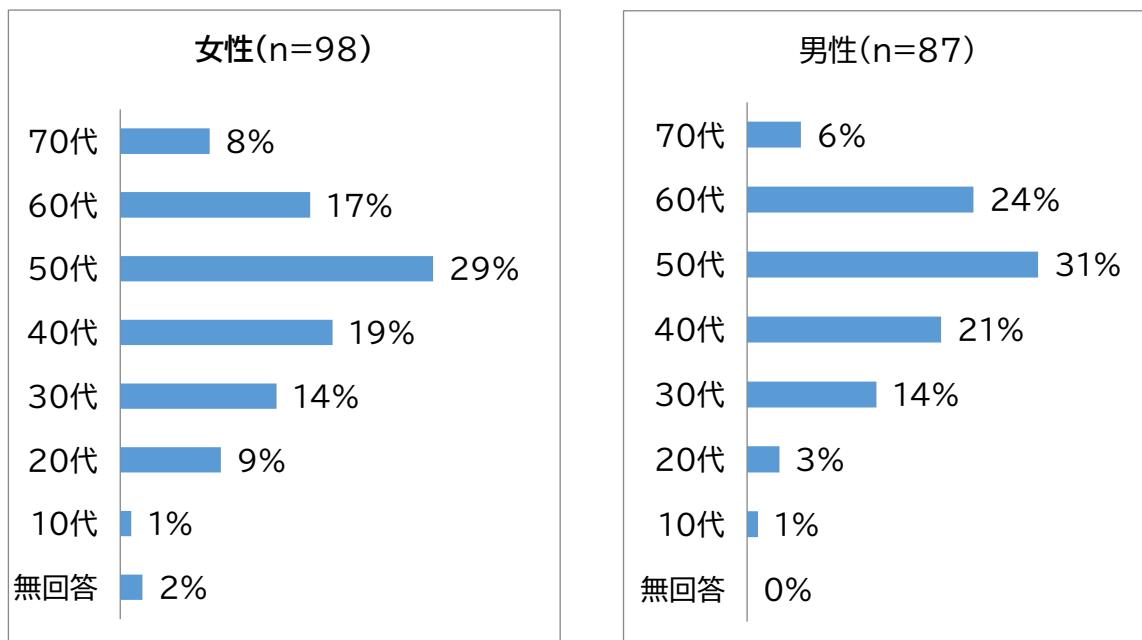
### III 調査結果の分析

#### 回答者の属性

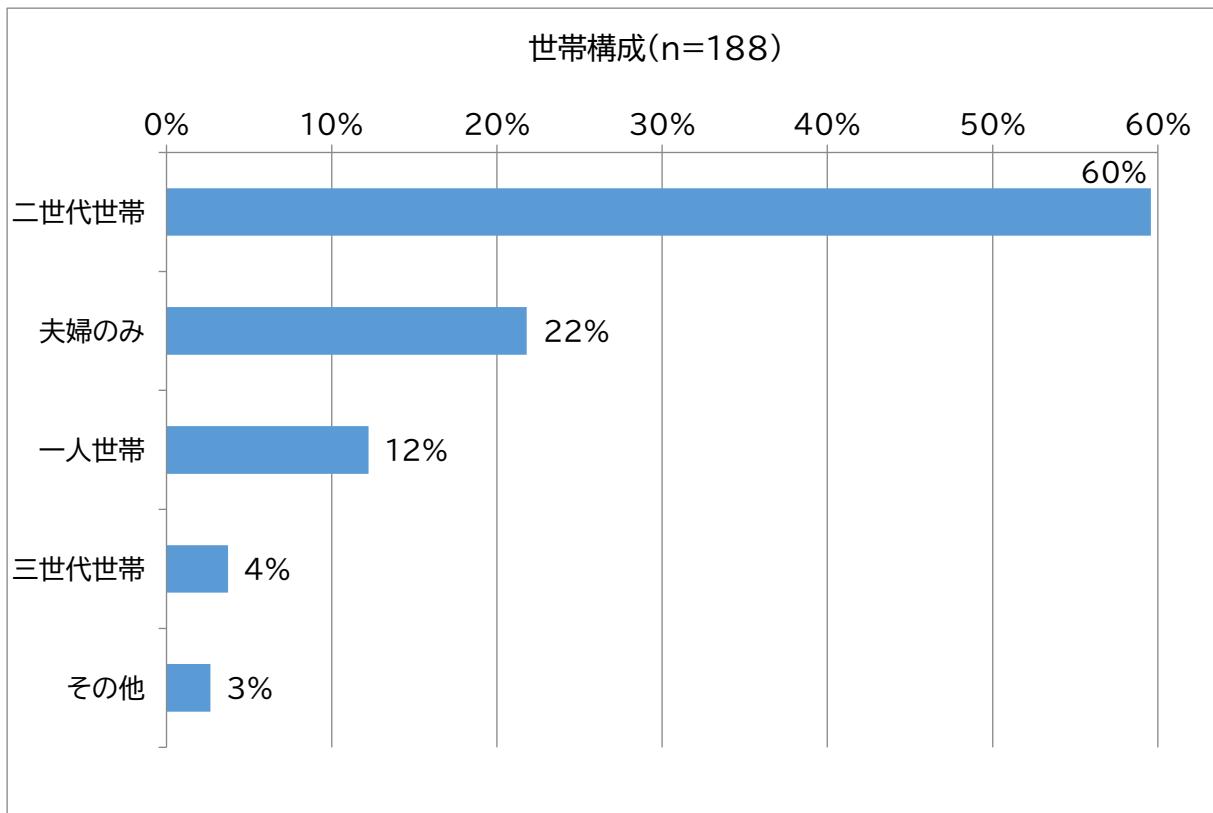
##### A. 性別



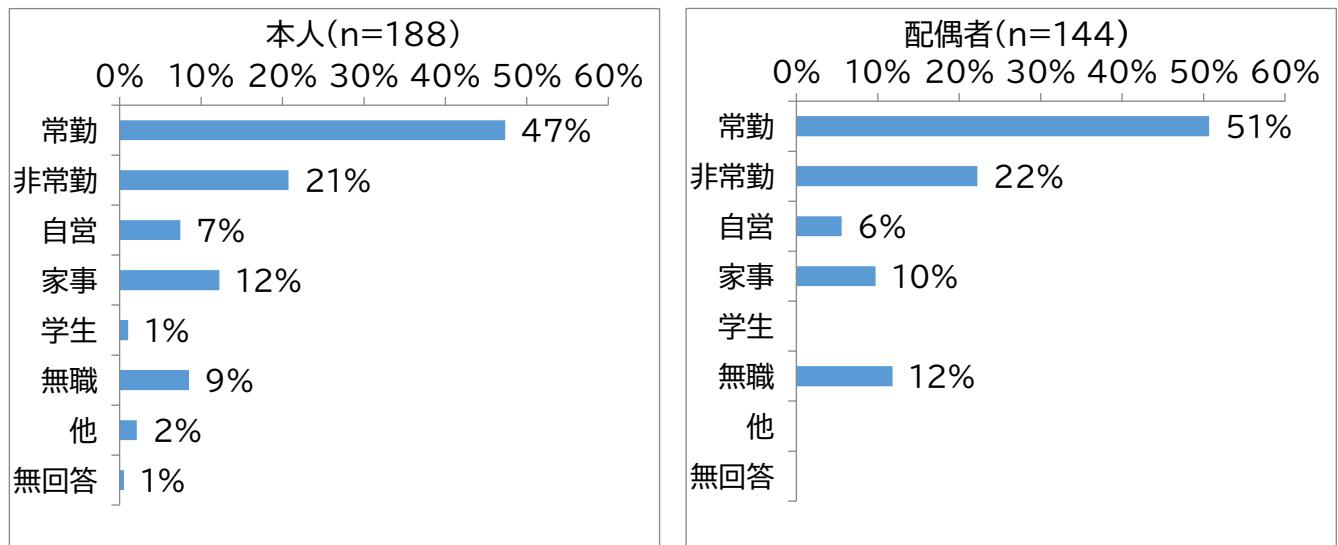
##### B. 年齢(記入日時点)



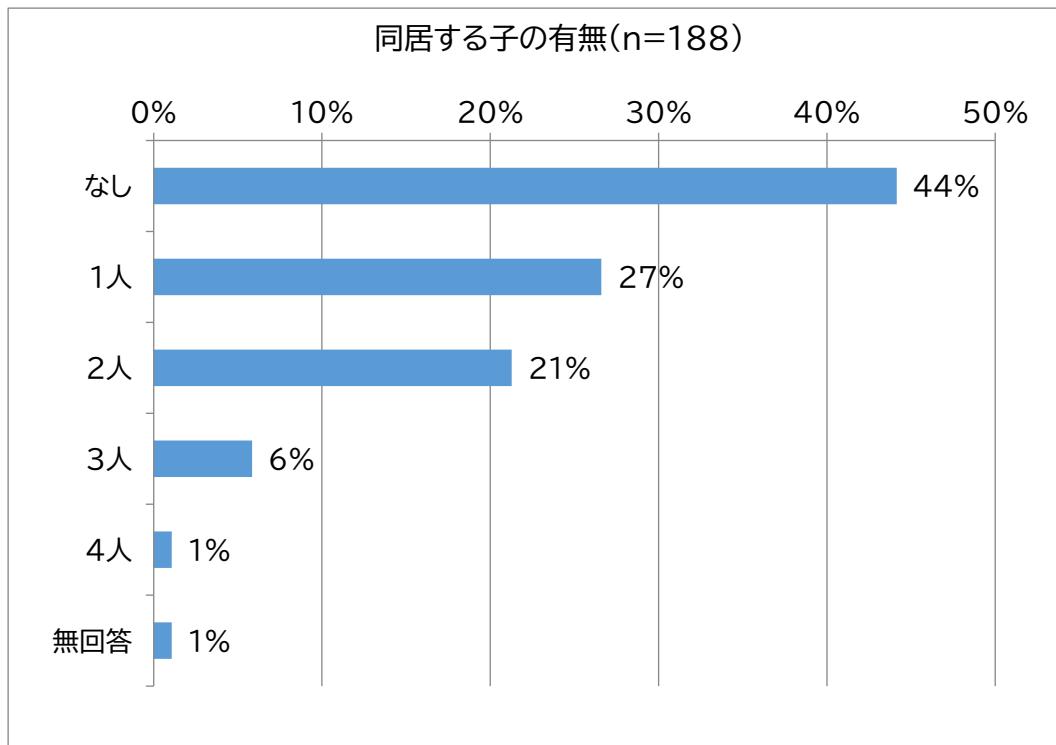
### C. 世帯構成



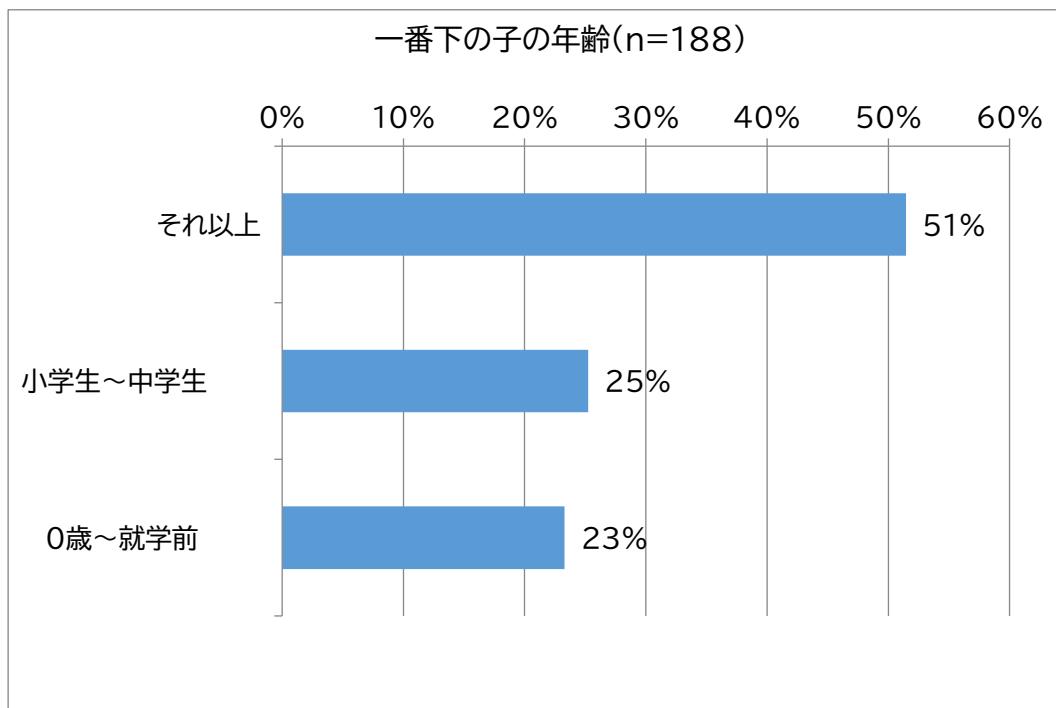
### D. 本人と配偶者(パートナー)の職業



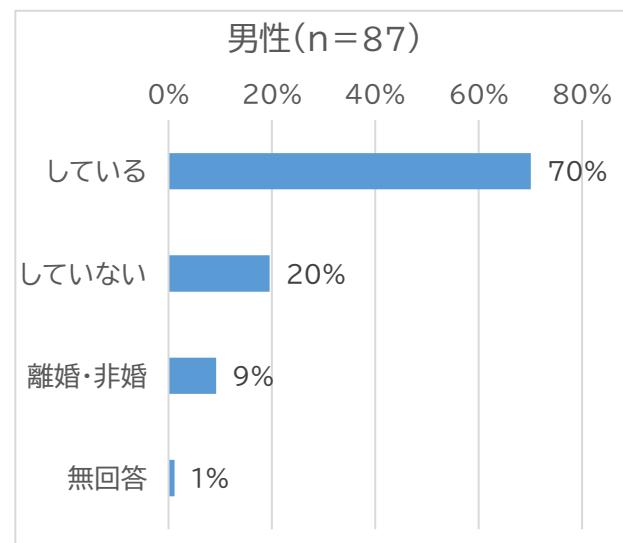
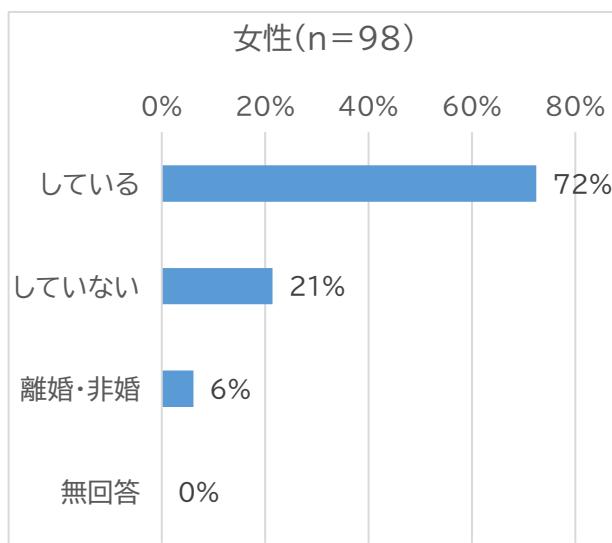
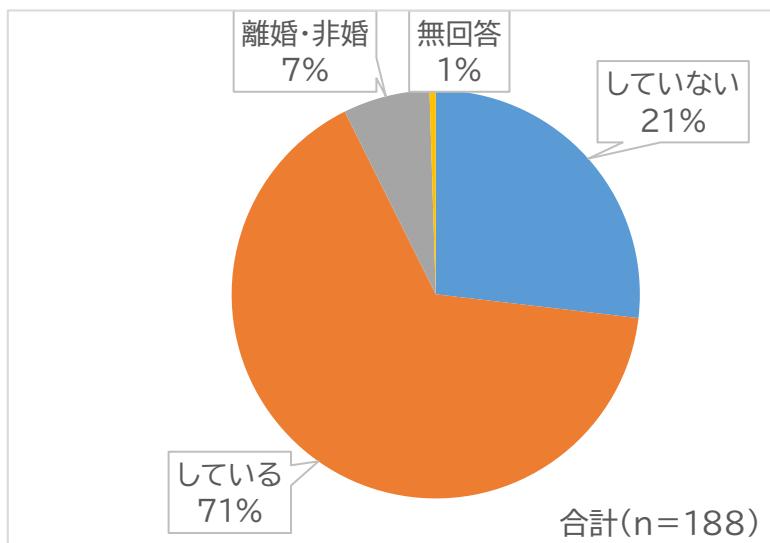
#### E. 同居する子の有無



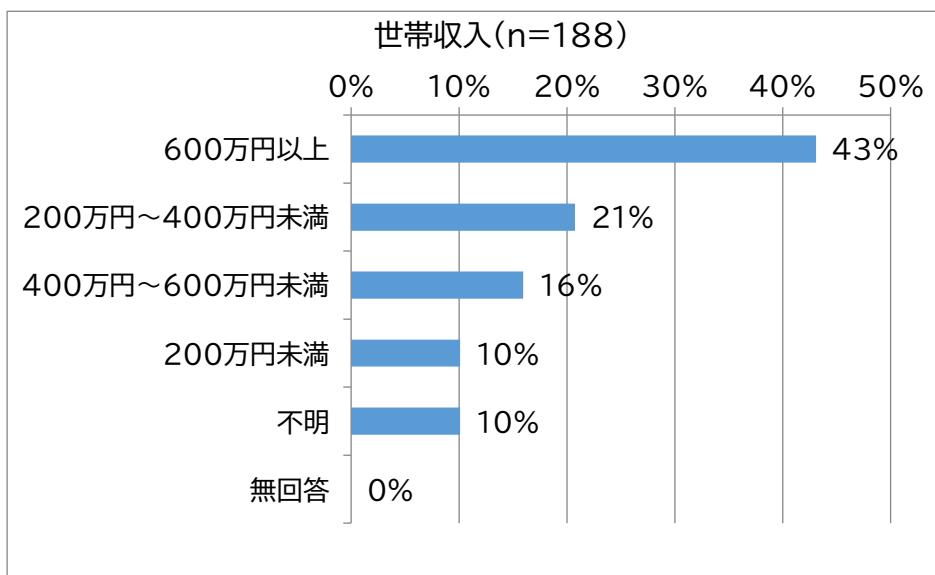
#### F. 一番下の子の年齢



G. あなたは結婚(事実婚を含む)していますか



H. 世帯収入



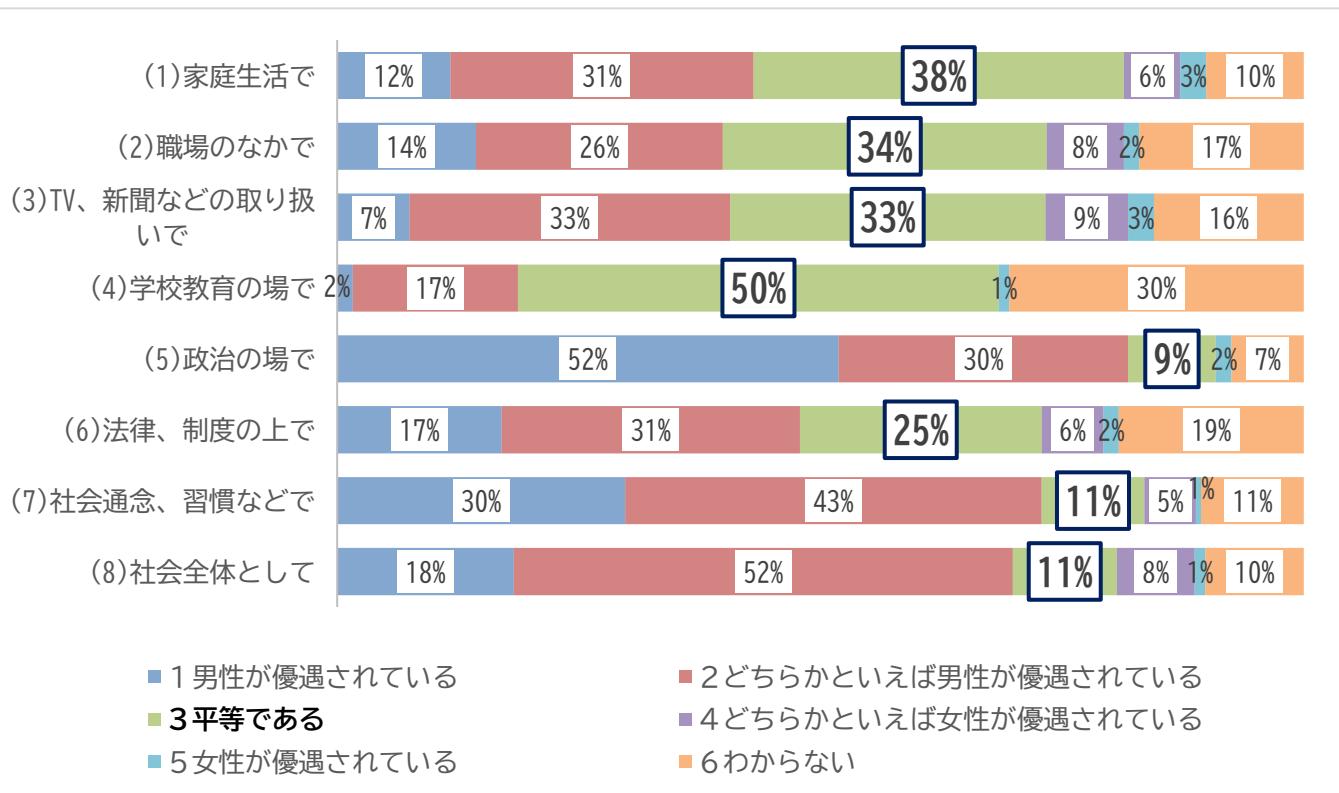
## 1 男女の平等に関する意識について

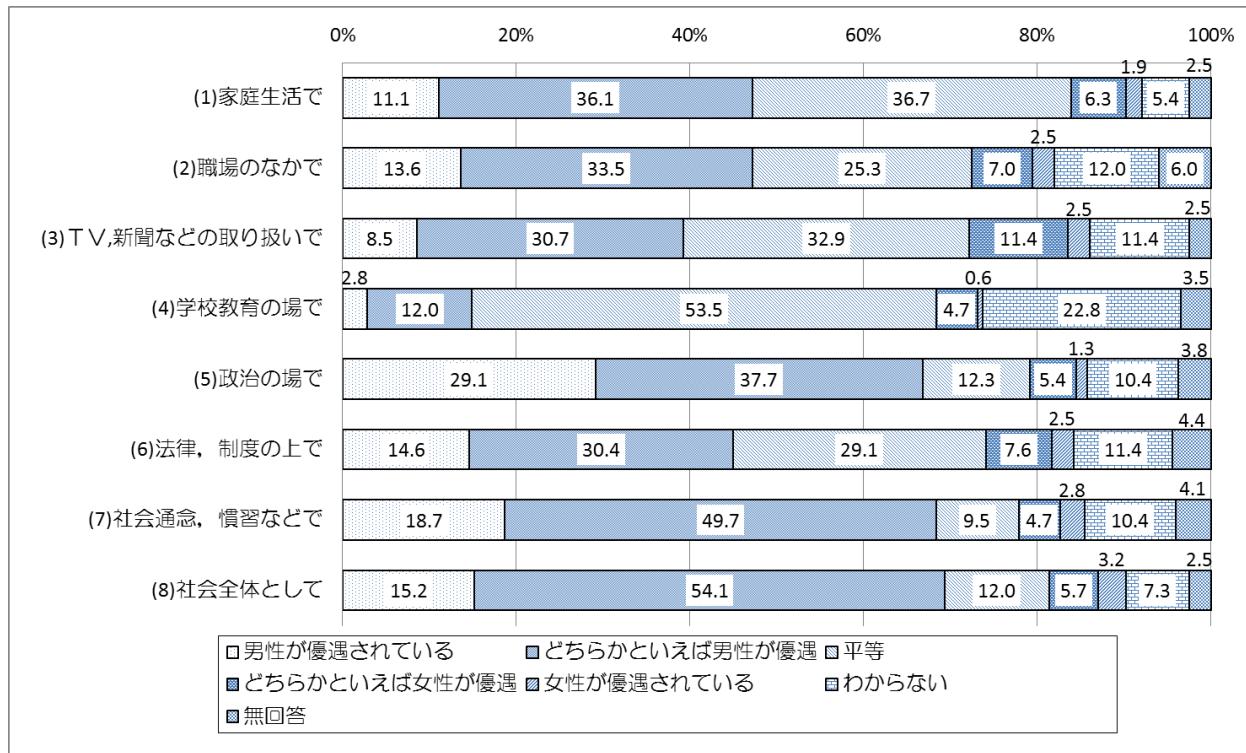
※「男性優遇」「女性優遇」…「どちらかといえば」を回答した人も含む。

問1. 次の分野で、男女間でどの程度平等になっていると思いますか。あなたのお考えに近いものの番号をそれぞれ1つ選んでください。

男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習など」「社会全体」で『男性優遇』とした割合が高く、特に「政治の場」では全体で82%（前回66.8%）、「社会通念・慣習」で73%（前回68.4%）、「社会全体として」70%（前回69.3%）が続けます。また、前回調査よりも男性優遇と答えた人の割合が高くなっています。また、全ての場面において、男女ともに男性優遇が女性優遇より高くなっています。

「平等である」と感じている割合が高かったのは、前回同様「学校教育の場」で50%（前回53.5%）となっています。前回比較で、「平等である」の割合の伸びが一番大きいのは「職場のなかで」となり、8.7%の増加となりました。

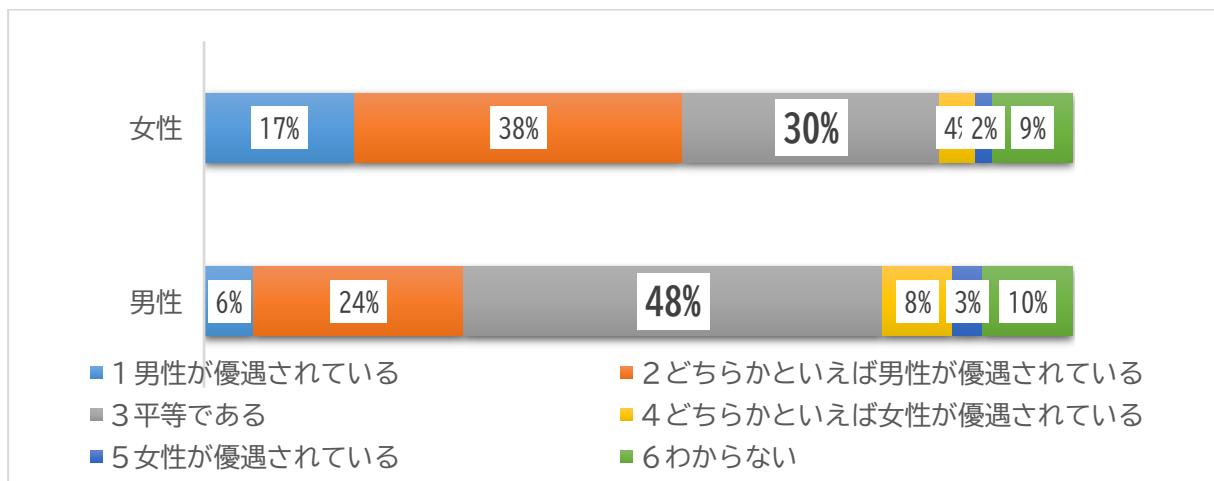




## 《男女別の回答割合》

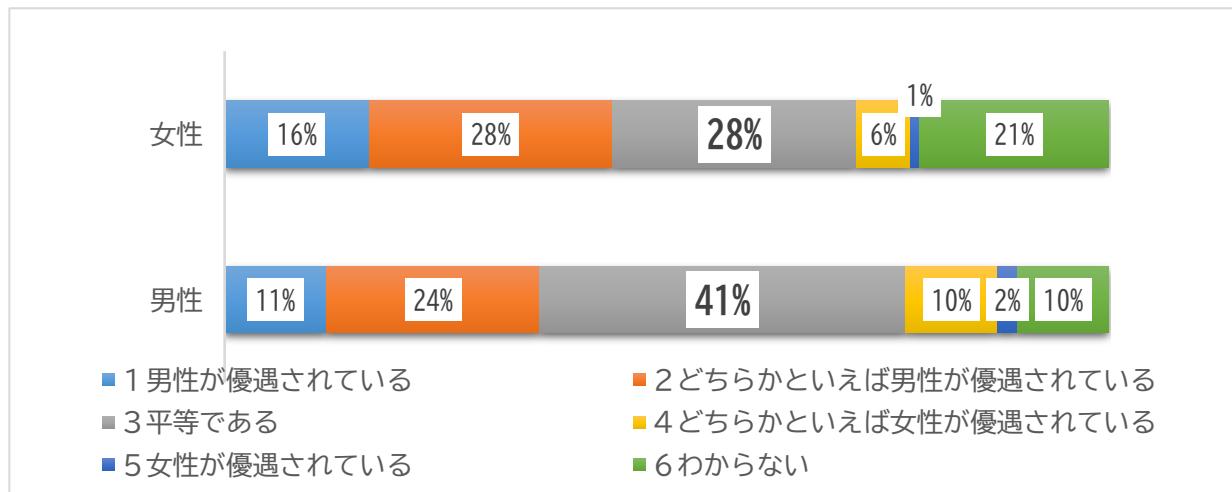
### (1)家庭生活で

『男性優遇』は、女性が55%、男性が30%（前回女性52.0%、男性40.8%）となりました。前回同様、女性のほうが高い割合になります。



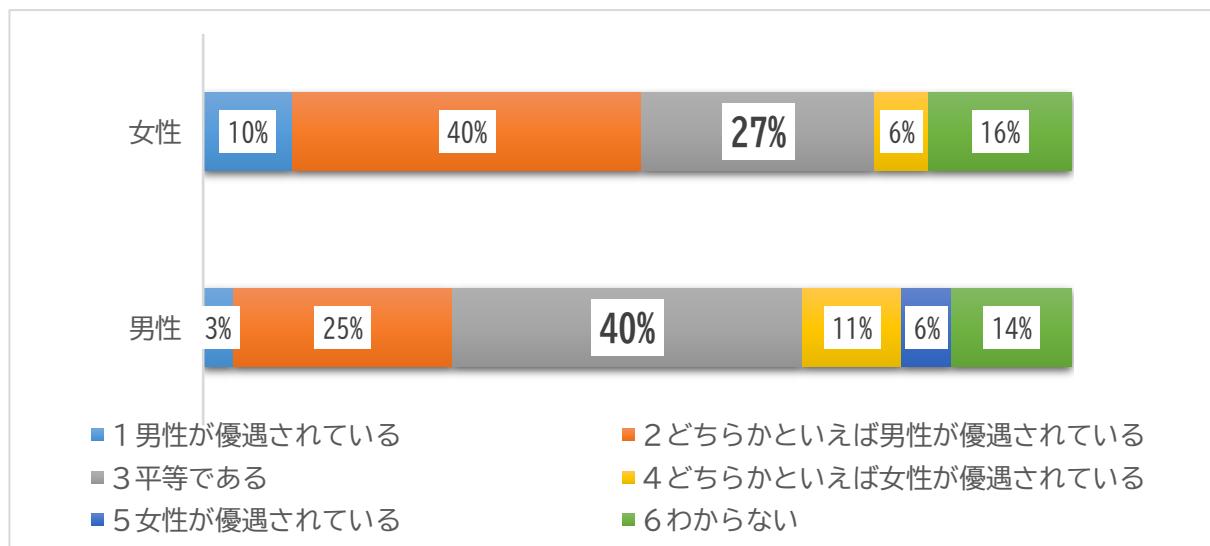
## (2)職場の中で

『男性優遇』は、女性 44%、男性 35%（前回女性 52.0%、男性 39.2%）と前回同様に女性が男性を上回っています。



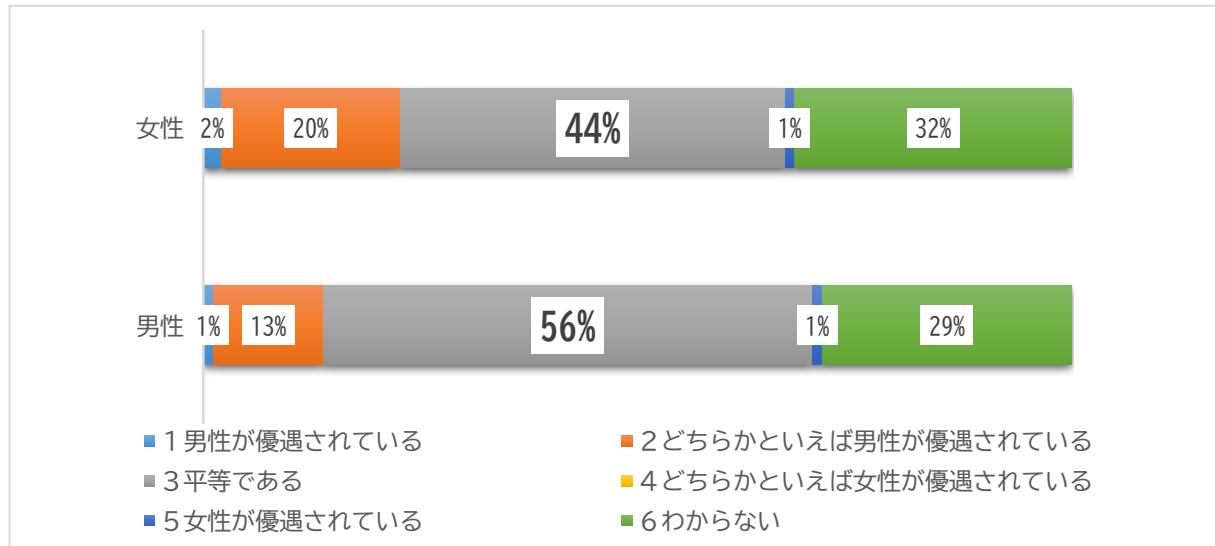
## (3)テレビ・新聞などの取り扱いで

『男性優遇』は、女性が 50%、男性が 28%（前回女性 49.7%、男性は 23.2%）と前回同様に女性が男性を上回っています。



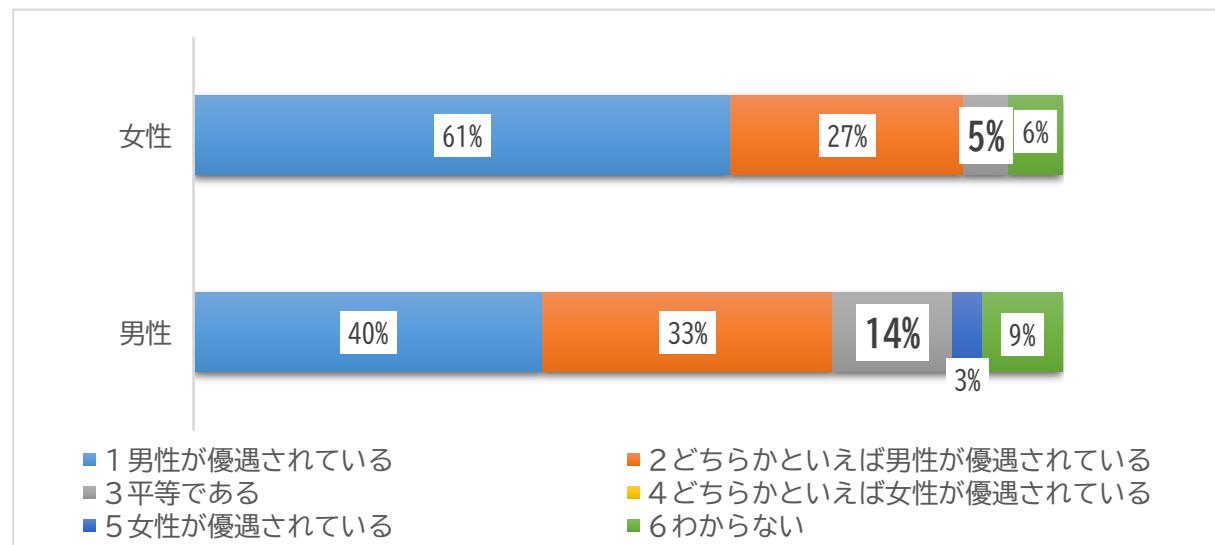
#### (4)学校教育の場で

「平等である」が最も高く、女性44%、男性56%(前回女性60.8%、男性49.1%)と男性が女性を上回っており、前回と逆の結果となります。



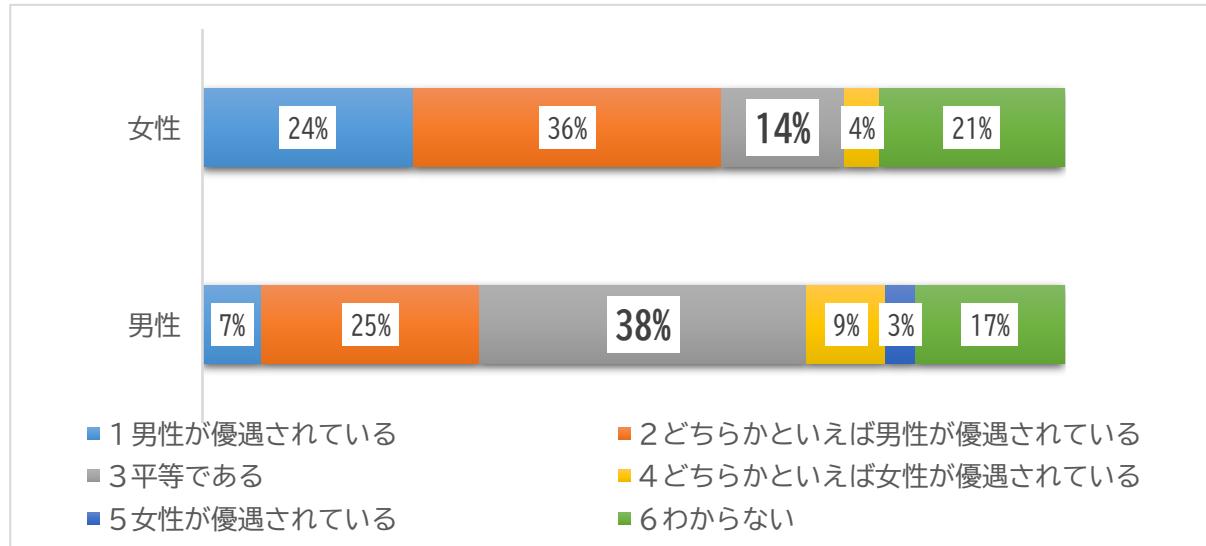
#### (5)政治の場で

『男性優遇』は、女性88%、男性73%(前回女性76.0%、男性55.2%)と前回同様に女性が男性を上回っており、男女ともに割合が大きく増加しました。



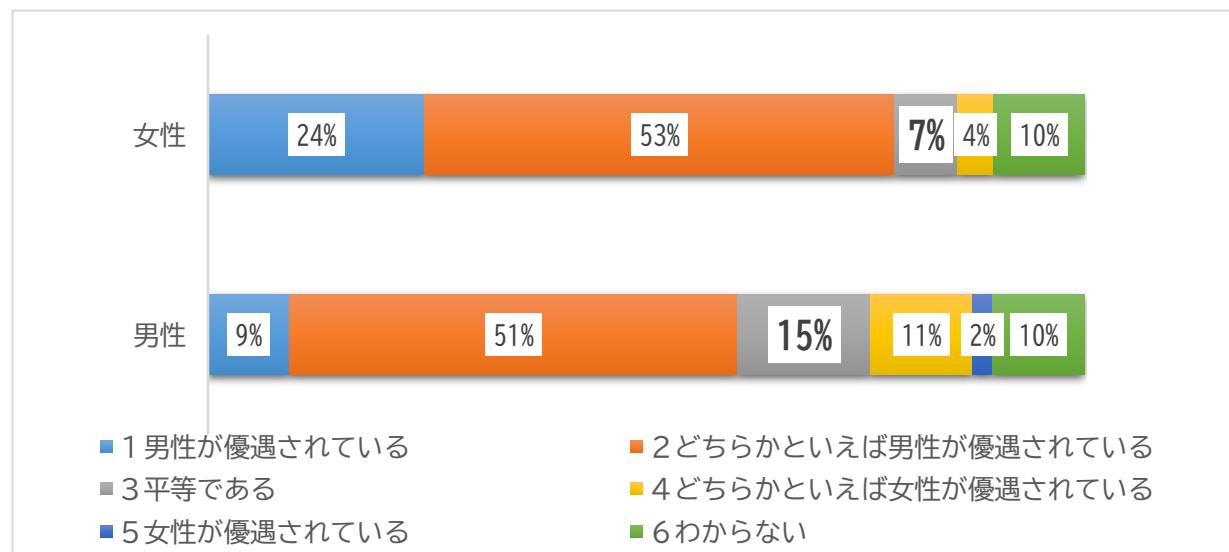
## (6)法律や制度の上で

『男性優遇』は、女性が 60%、男性が 32%（前回女性 55.5%、男性 30.4%）と前回同様に、女性が男性を上回っています。



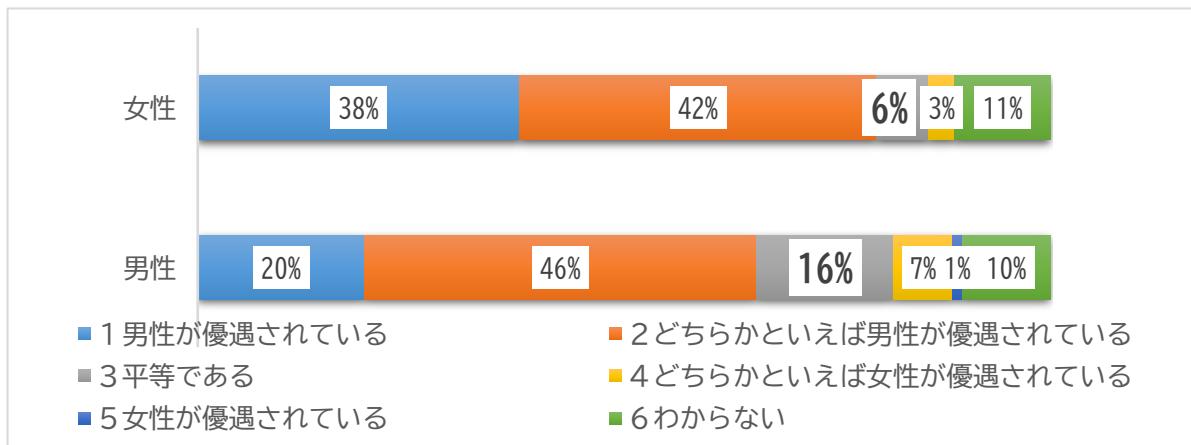
## (7)社会通念・慣習などで

『男性優遇』は、女性 77%、男性 60%（前回女性 74.3%、男性は 60.8%）と前回同様に女性が男性を上回っています。



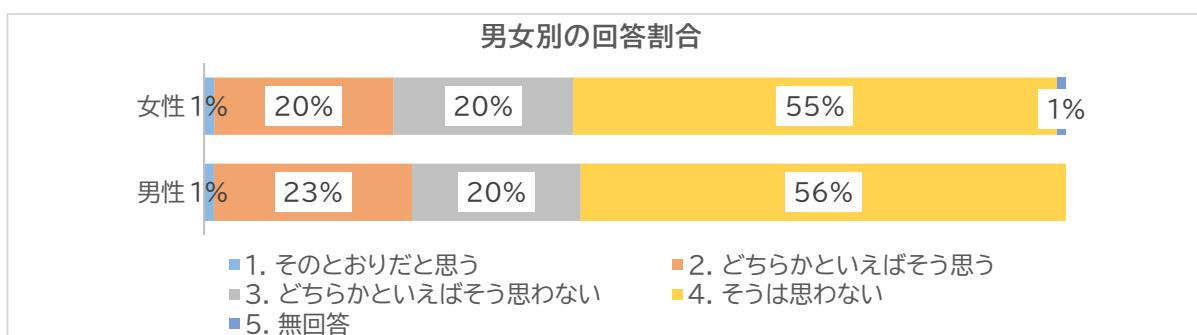
## (8)社会全体として

『男性優遇』は、女性 80%、男性 66% (女性 80.0%、男性 56.0%) と女性が男性を上回っています。前回と比較すると男性の割合が増加していることが分かります。



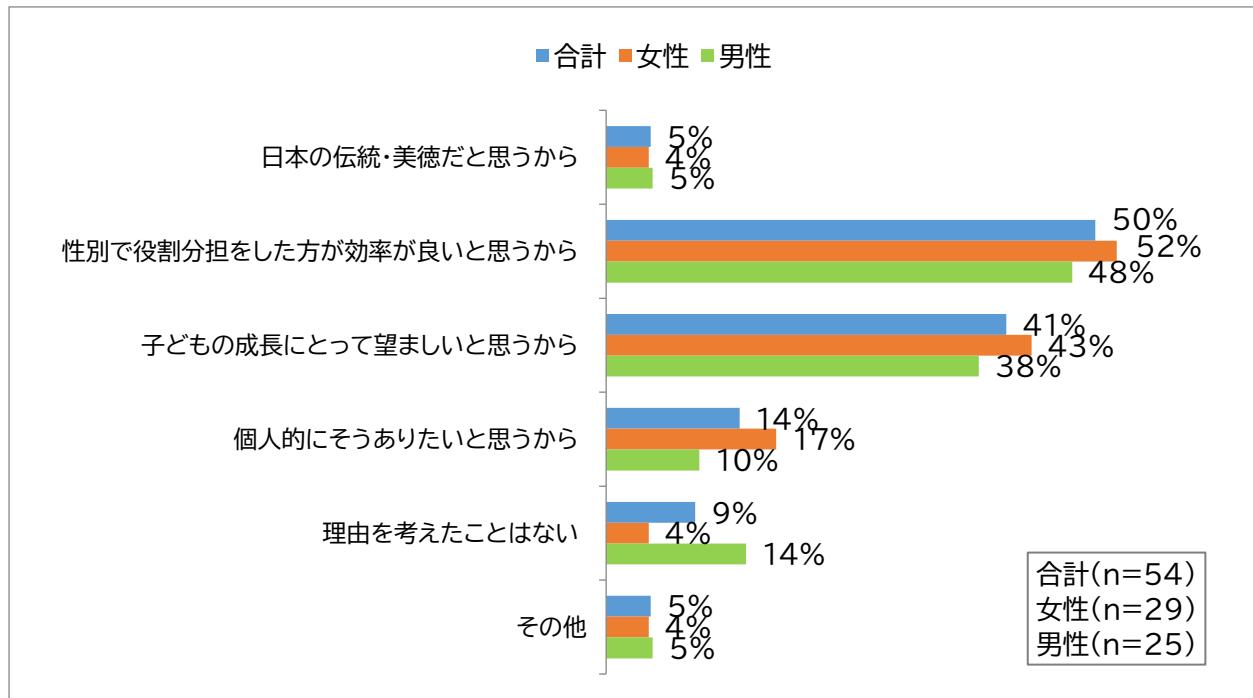
### 問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(□は1つだけ)

『同感する』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)が 23%で前回調査の 38.3%から約 15%の減少。『同感しない』(「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた割合)が 60.8%から 76%となり、前回より約 15%増加しています。

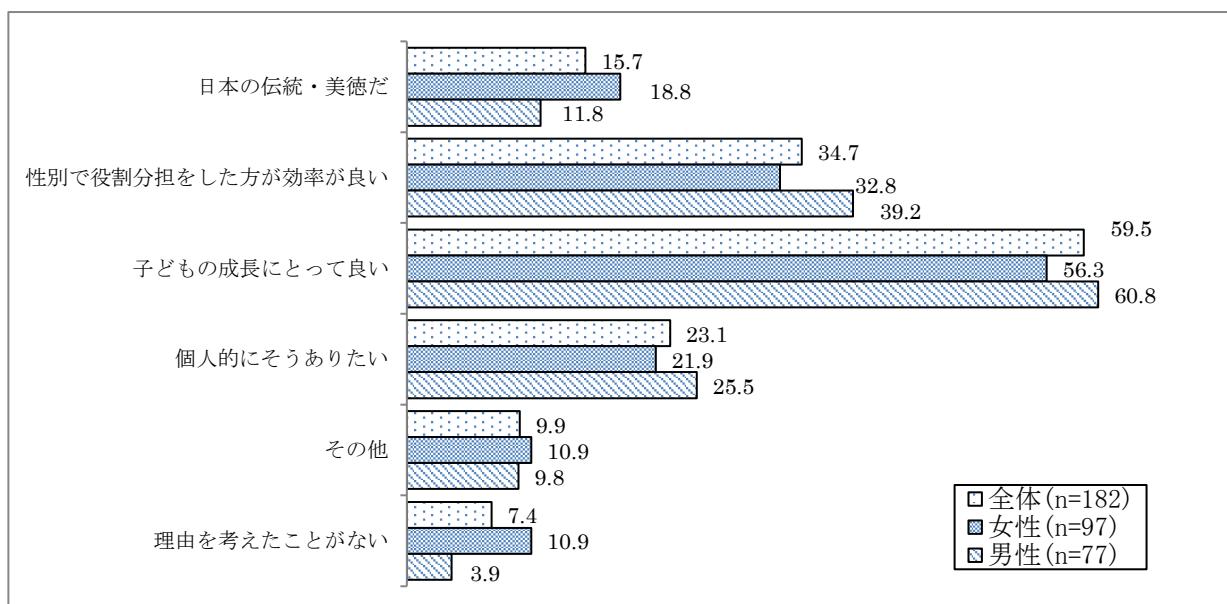


問2-1. 「男は仕事、女は家庭」と思う理由を教えてください。(□はいくつでも)

最も割合が高いのが「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が 50% (前回 34.7%)、次いで前回最も高かった「子どもの成長にとって望ましいと思うから」が 41% (前回 59.5%) となっています。



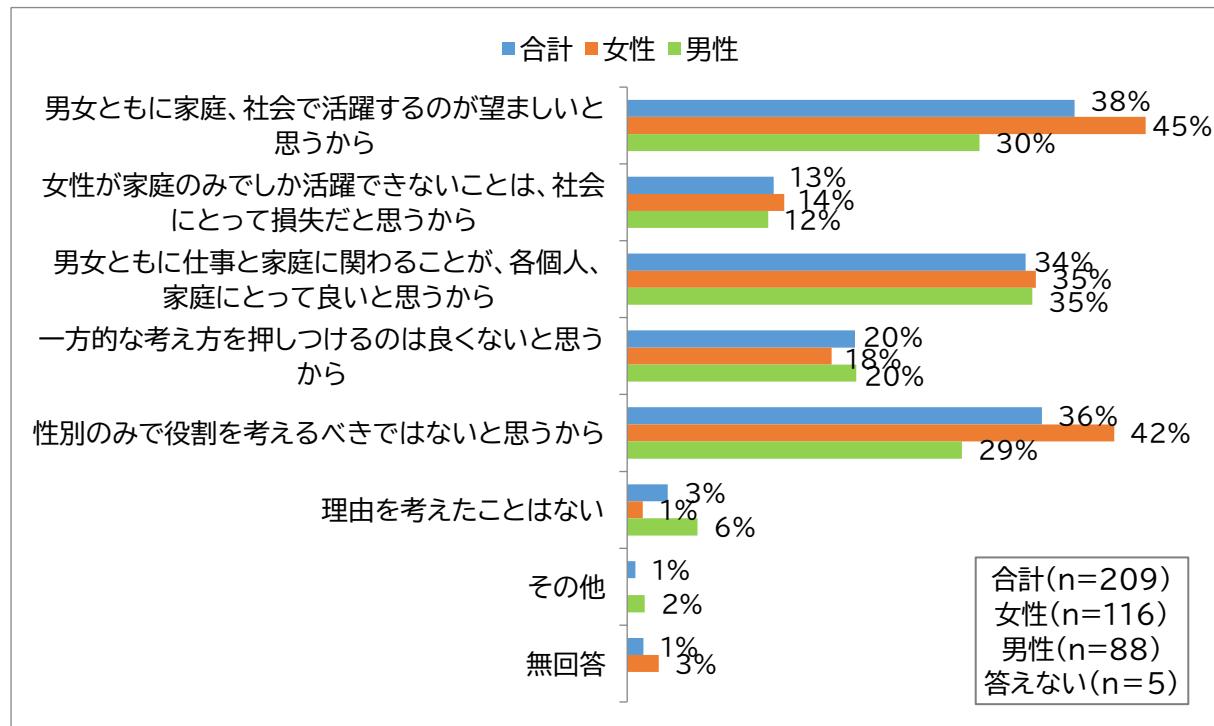
《前回》



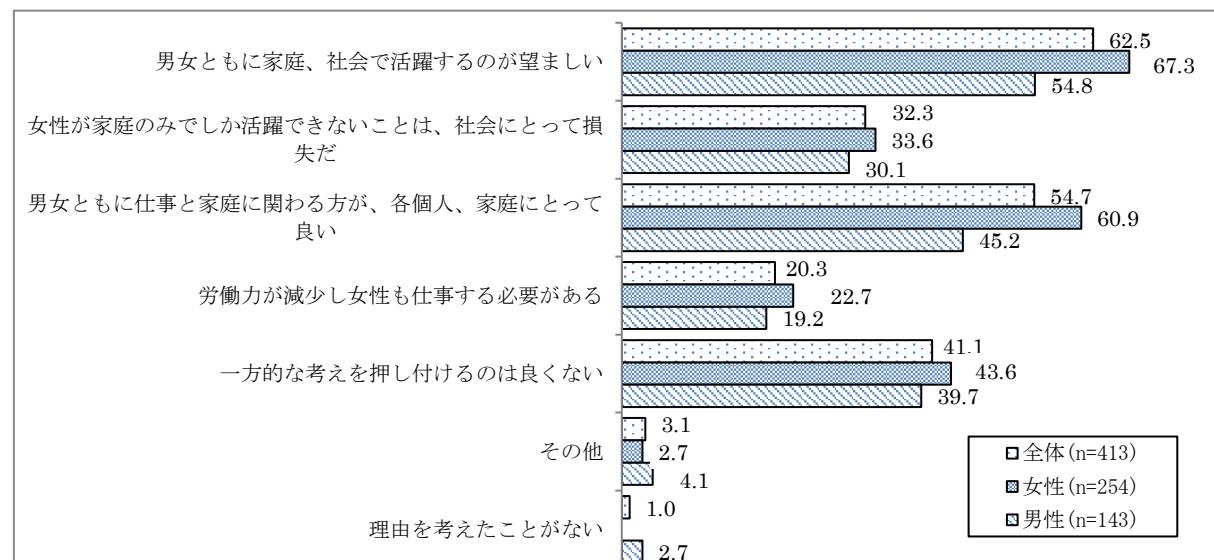
問2-2. 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由を教えてください。(□はいくつでも)

前回同様に「男女ともに家庭、社会で活躍するのが望ましいと思うから」が 38%で最も高くなっています。次に「性別のみで役割を考えるべきではない」36%、「男女ともに仕事と家庭に関わることが、良いと思うから」34%と続きます。

前回は次に「男女ともに仕事と家庭に関わる方が良いと思うから」54.7%、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」41.1%の順でした。



《前回》

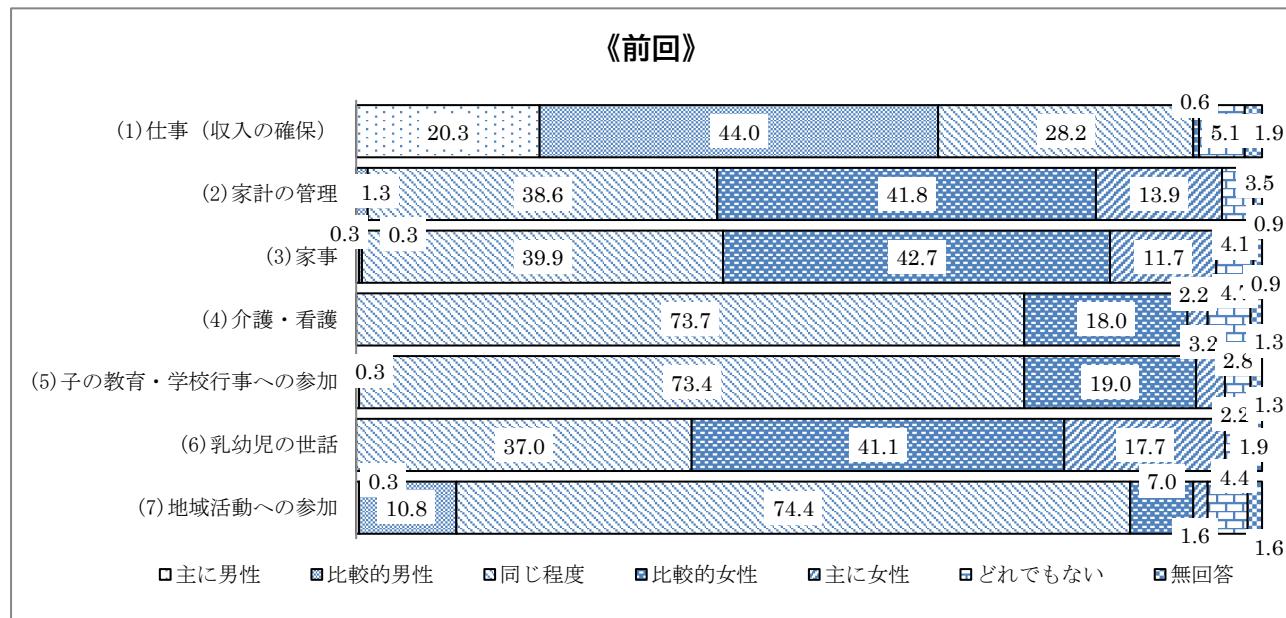
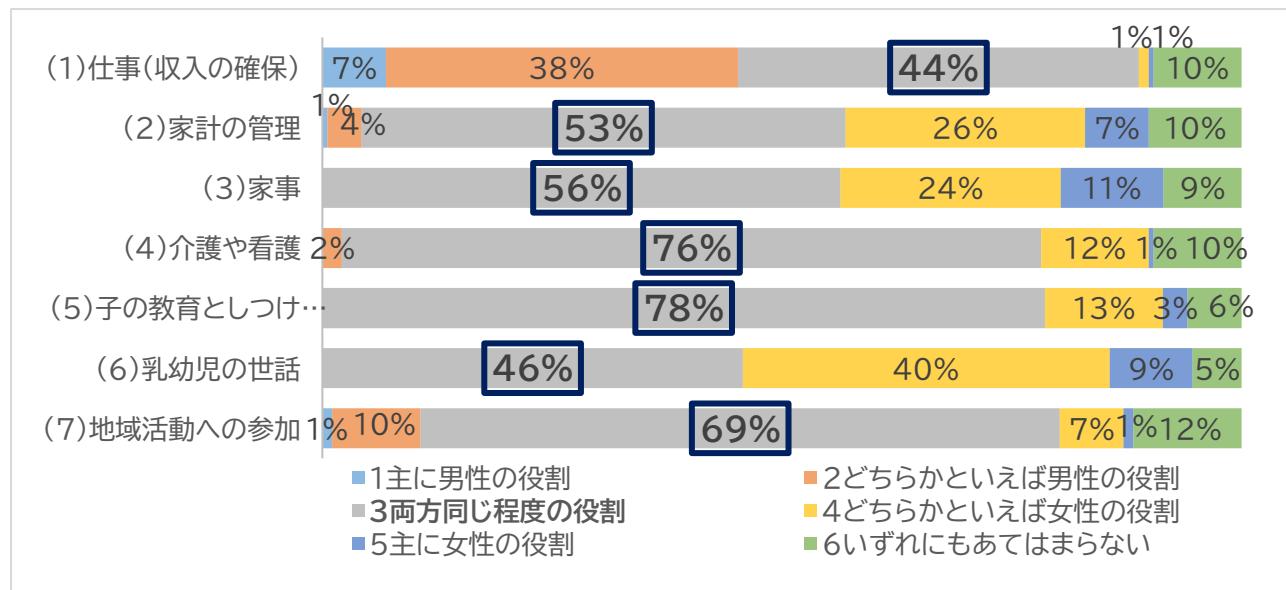


## 2 家庭生活について

※「男性の役割」「女性の役割」…「どちらかといえば」と答えた割合も含む

問3. 次のことについて、男女の役割分担はどうあるべきだと思いますか。(□はそれぞれ1つずつ)

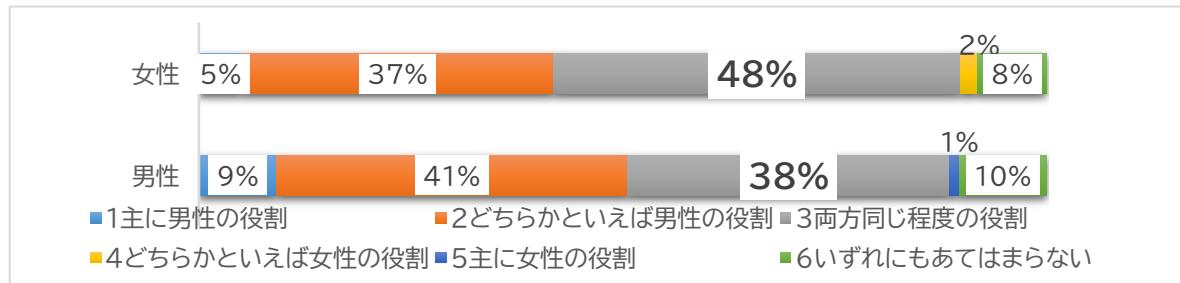
「仕事(収入の確保)」は男性の役割と考えている人が 45%と、前回同様に最も高くなっていますが、割合は約 20%減少しています。一方で、「家計の管理」「家事」「乳幼児の世話」は、女性の役割と考えている人が、前回はいずれも概ね 50%を超えていましたが、今回は「乳幼児の世話」のみが約 50%となっています。「地域活動への参加」以外は両方同程度と回答した割合は前回より増加しており、男女共同参画に向けた意識の醸成が進んできていると言えます。



## 《男女別の回答割合》

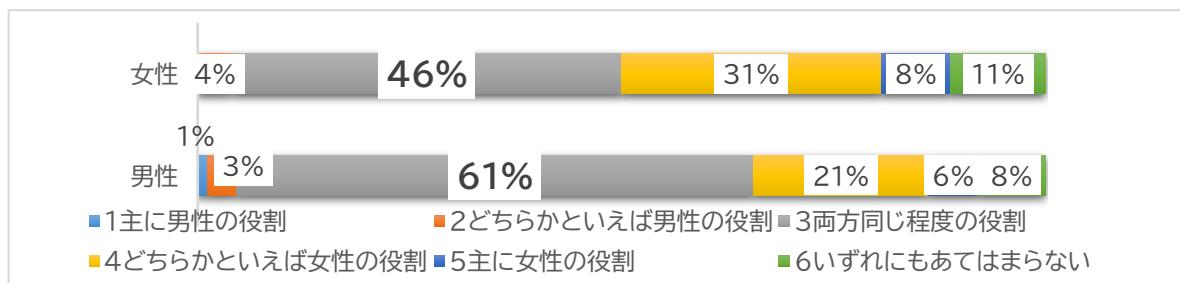
### (1)仕事(収入の確保)

性別でみると男性の役割は女性 42%、男性 50%（前回女性は 60.0%、男性は 71.2%）と男性の方が 8% 高くなっています。女性は同程度と答えた人が男性より 10% 多い結果となります。前回に比べて男性の役割と考える人は減っています。



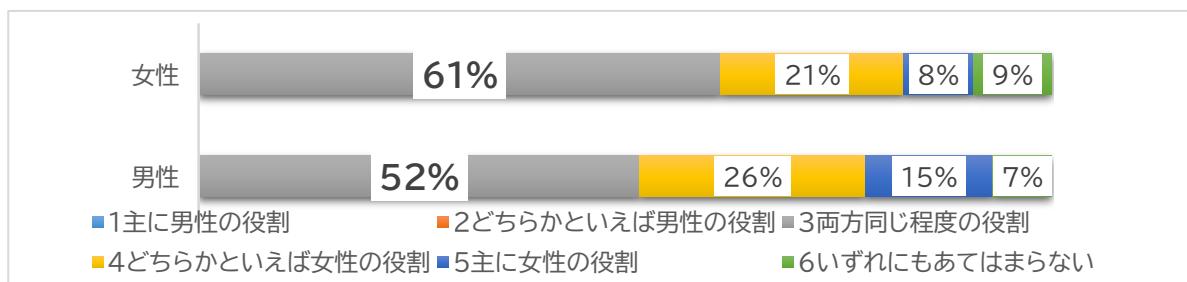
### (2)日々の家計の管理

同じ程度と考える人が特に男性が多い結果となります。前回は女性の役割と回答した人が女性 50.8%、男性は 50.4% でした。前回に比べて女性の役割と考える人が減っています。



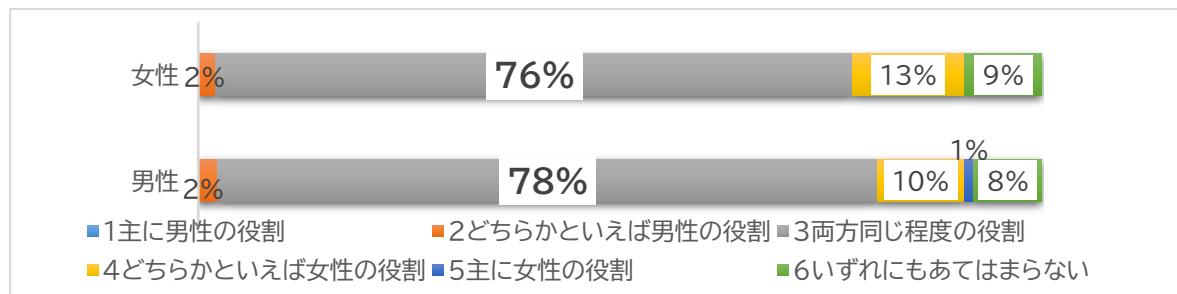
### (3)日常の家事

同じ程度とした人が特に女性で多い結果となります。前回結果では女性の役割が女性 53.7%、男性 55.2% でした。女性の役割と考える人が減っています。



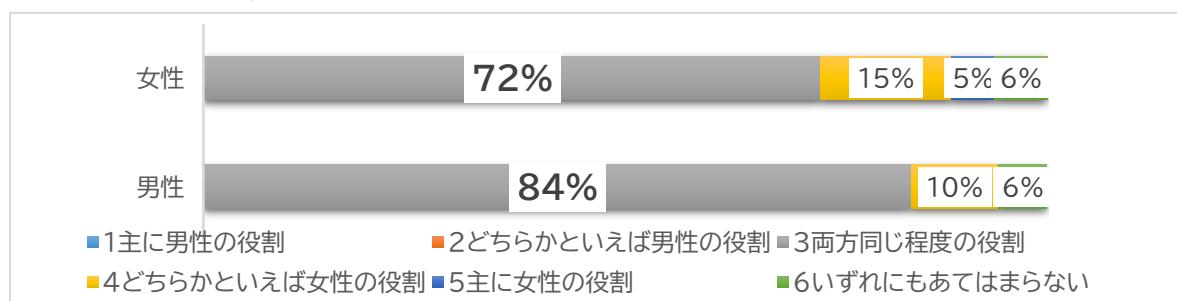
#### (4)老親や病身者の介護や看護

同程度とした人が男女ともに約8割となります。前回調査では女性75.4%、男性69.6%だったため、特に男性の割合が8.4%高くなっています。



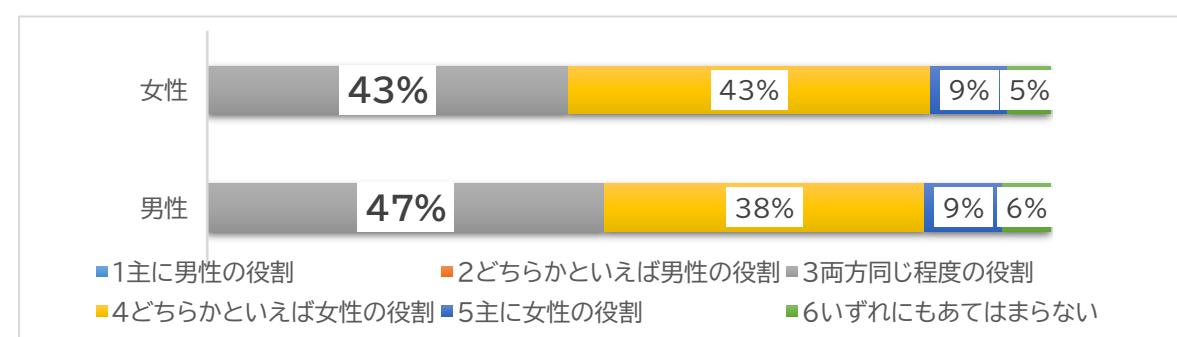
#### (5)子どもの教育としつけ、学校行事への参加

同程度と考える人が特に男性で多い結果となります。前回は女性76.6%、男性70.4%でした。女性の役割と考える人は、女性の方が10%高くなっています。



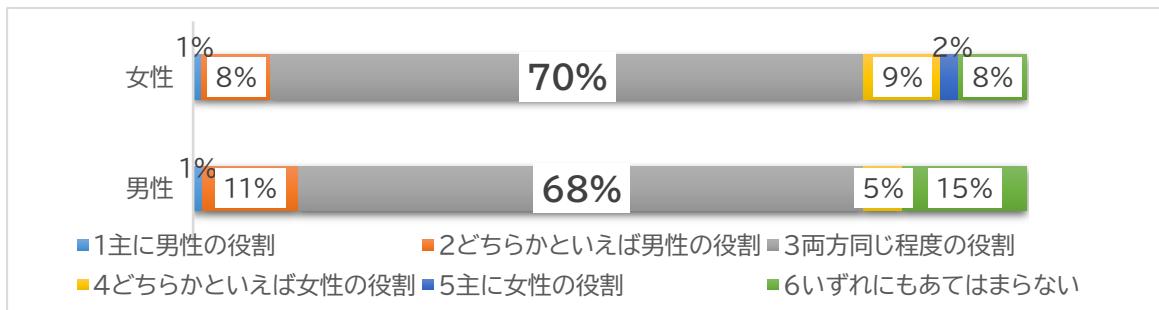
#### (6)乳幼児の世話

男女とも女性の役割と回答する割合が同程度より多く女性52%、男性47%（前回女性61.2%、男性57.6%）で、今回は10%程度減となります。



## (7)自治会、ボランティアなど地域活動への参加

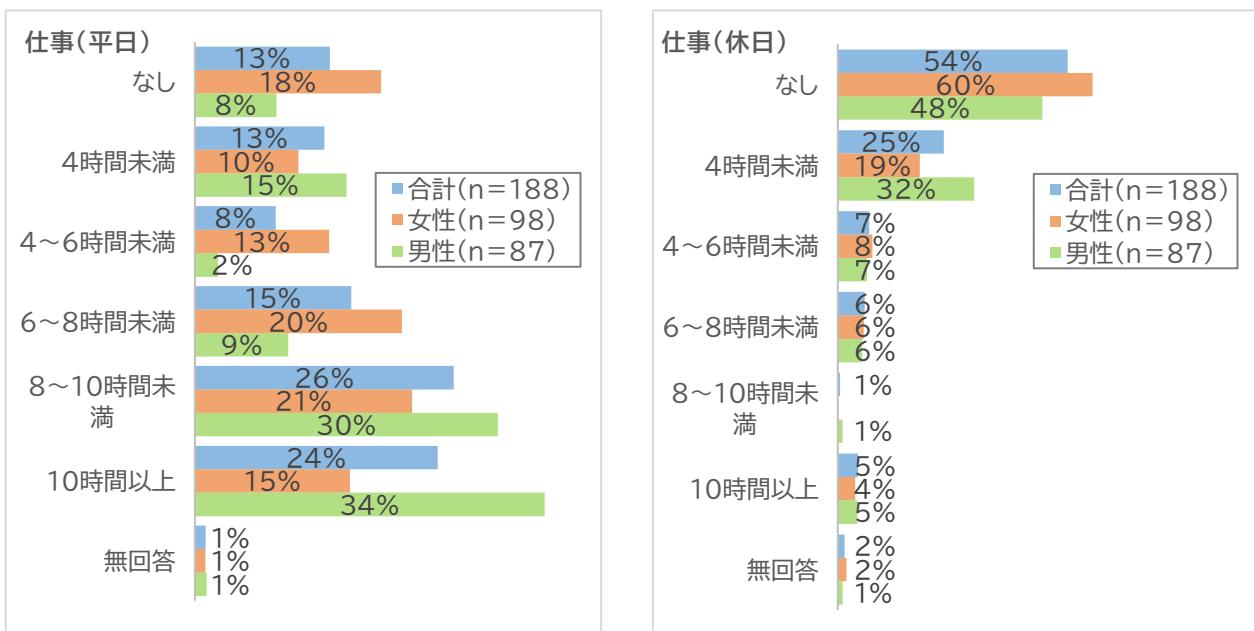
同程度が男女ともに約7割になります。前回は女性80.6%、男性は65.6%だったため、女性は約11%の減となります。



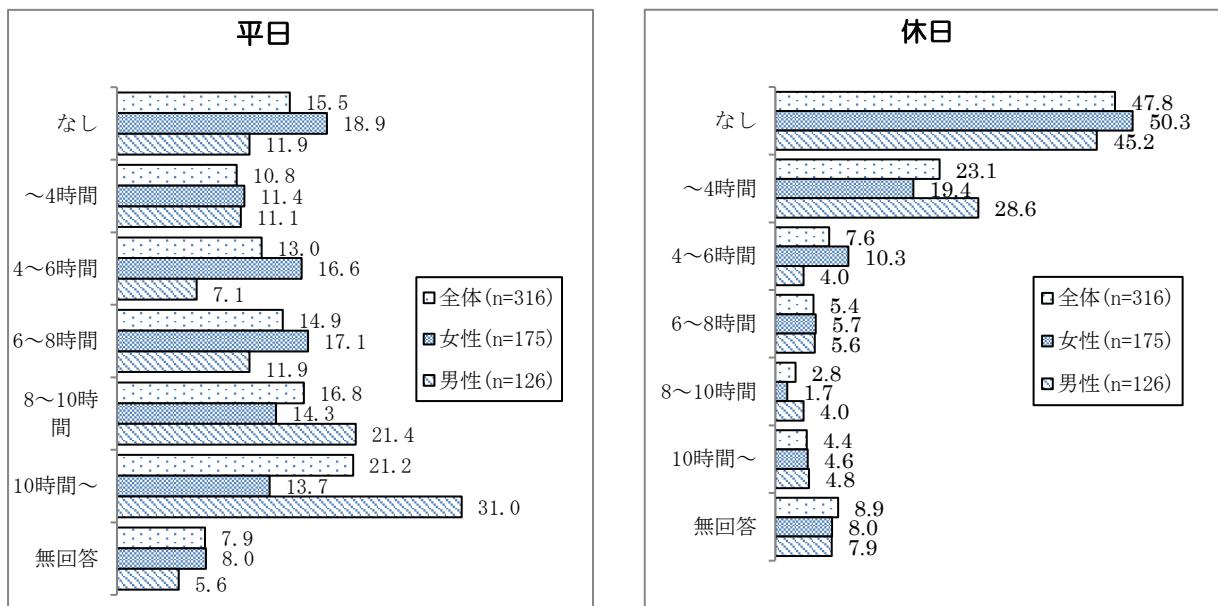
問4. 1日のうちあなたが仕事(在宅就労を含む)や家事(育児、介護等を含む)に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。((□はそれぞれ1つずつ)

#### 【仕事】(通勤時間を含む)

平日は8時間以上である女性は36%、男性で64% となっており、男性の方が28%高くなっています。休日は男女とも「なし」が最も高く女性 60%、男性 48%、次に「4時間未満」が女性 19%、男性 32%となっており、男性の方が休日も仕事をしている割合が高くなっています。前回調査では平日で最も多かったのは、女性は「なし」で18.9%、男性は同じく「10時間以上」で31%でした。休日では女性は「なし」が約10%増加しましたが、男性はほぼ同程度です。

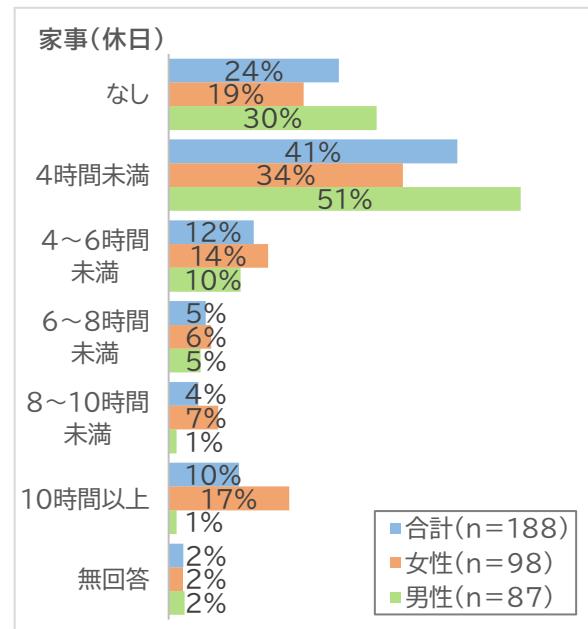
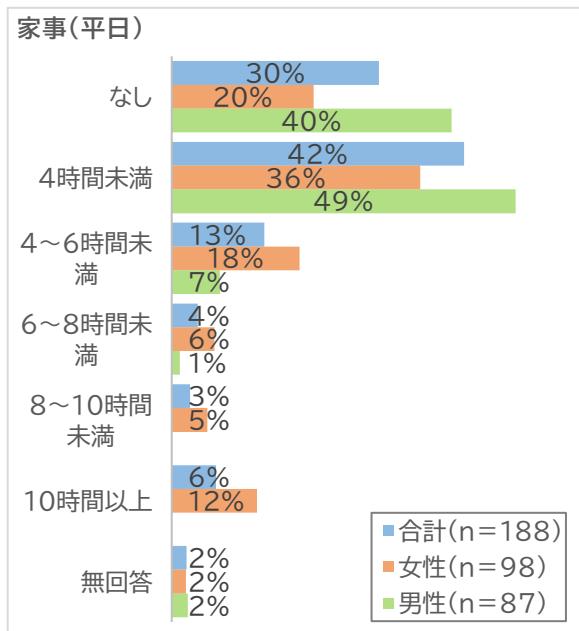


#### 《前回》

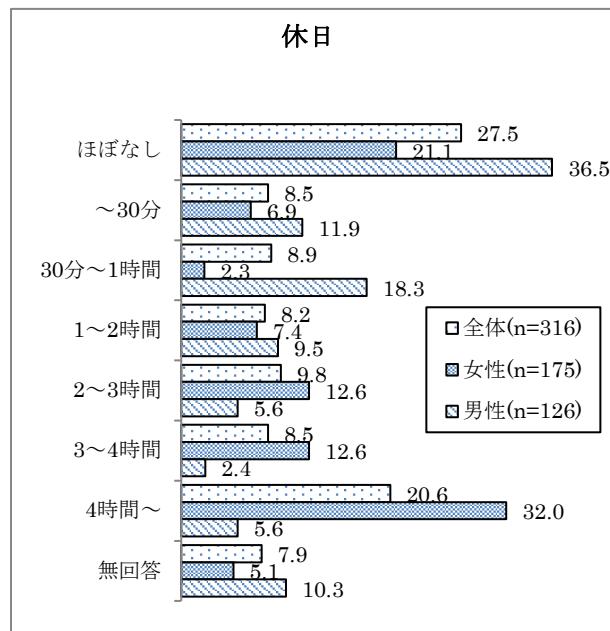
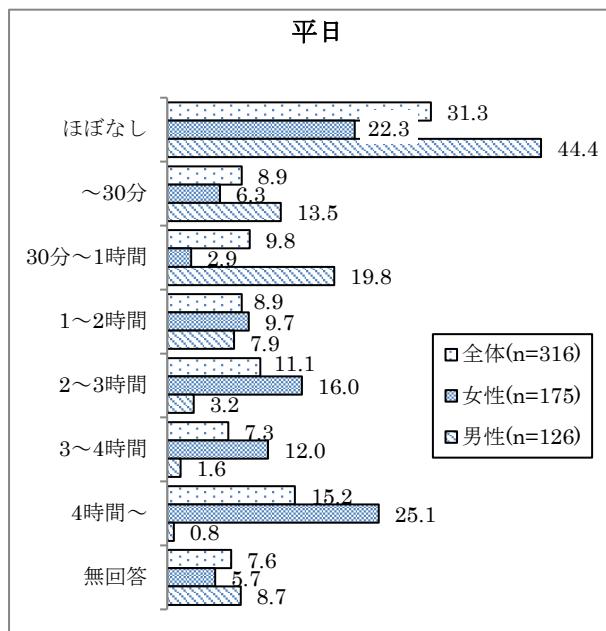


## 【家事】(育児・介護等を含む)※時間区分が前回と変わっています。

平日は、なしを含む4時間未満は女性56%、男性89%となっており、男性が33%高くなっています。休日は平日と同じく「4時間未満」が男女とも最も多く、女性34%、男性51%と男性の方が高くなっています。4時間以上は女性の方が高くなっています。10時間以上を選択した女性は17%となります。



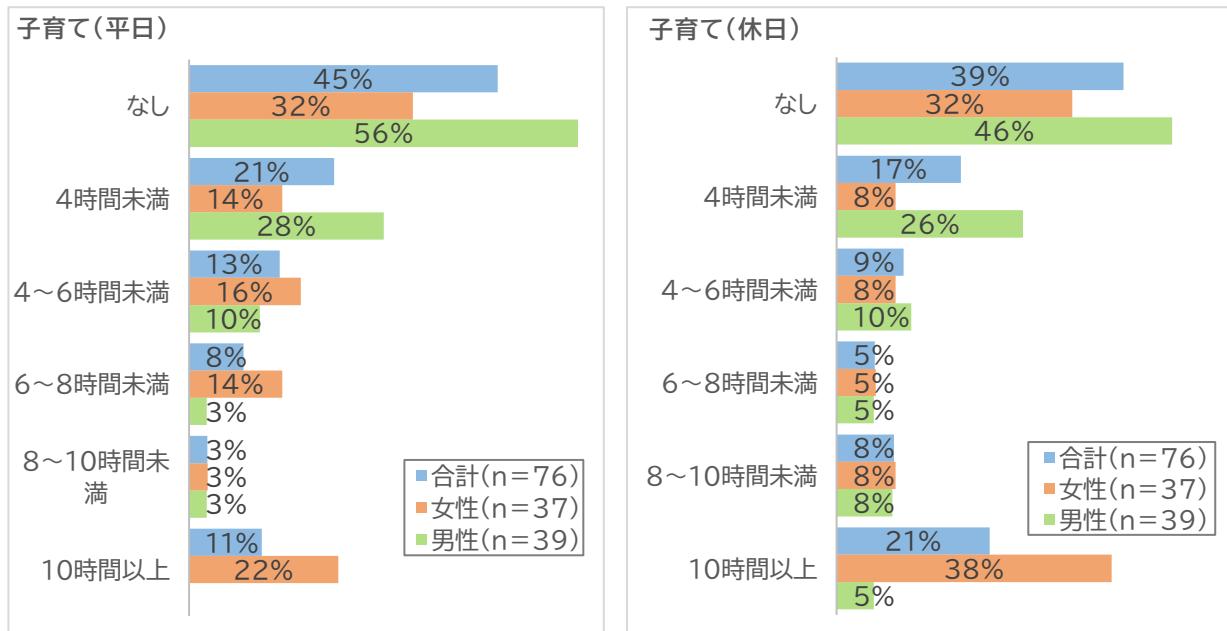
## 《前回》



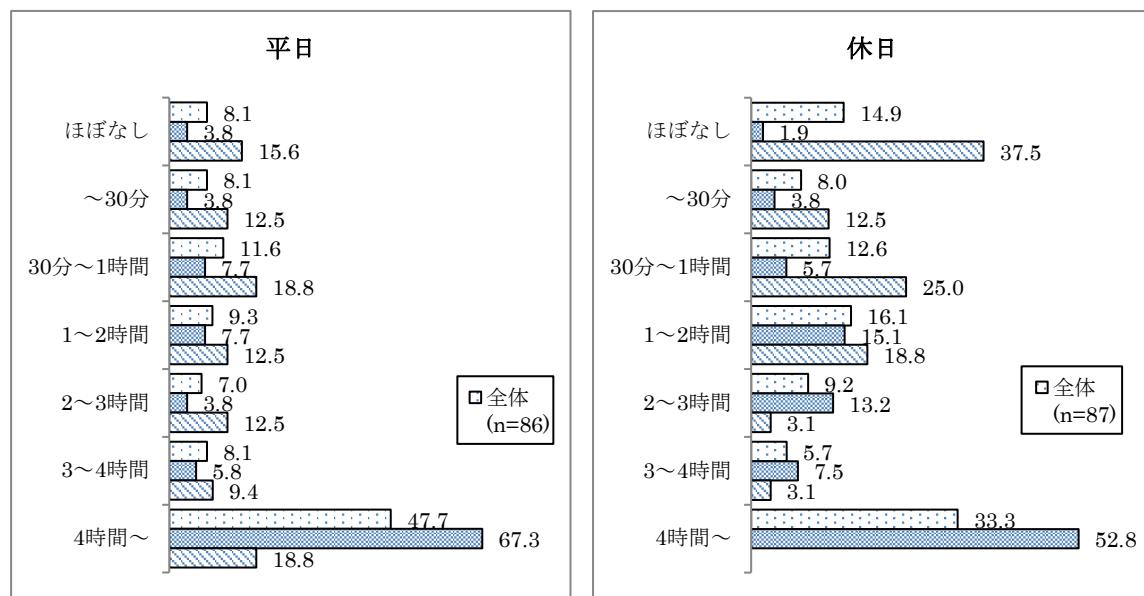
### 【子育て】(中学生以下の子どもがいる世帯)※時間区分が前回と変わっています。

平日は男女とも「なし」が最も多く、特に男性は5割以上となります。次いで女性は「10時間以上」が22%、男性は「4時間未満」28%となります。

休日は男性は「なし」がもっとも多く46%、次いで「4時間未満」の26%である一方、女性は「10時間以上」が最も多く、平日より16%増加、次いで「なし」の32%となります。



### 《前回》

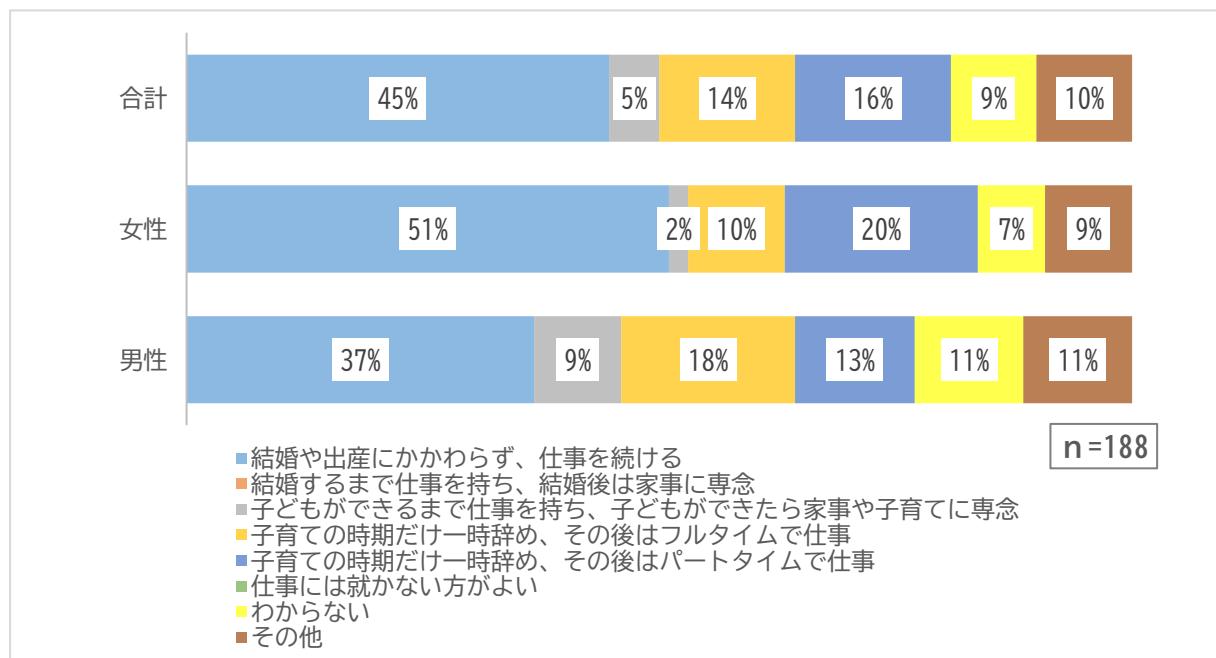


### 3 就労について

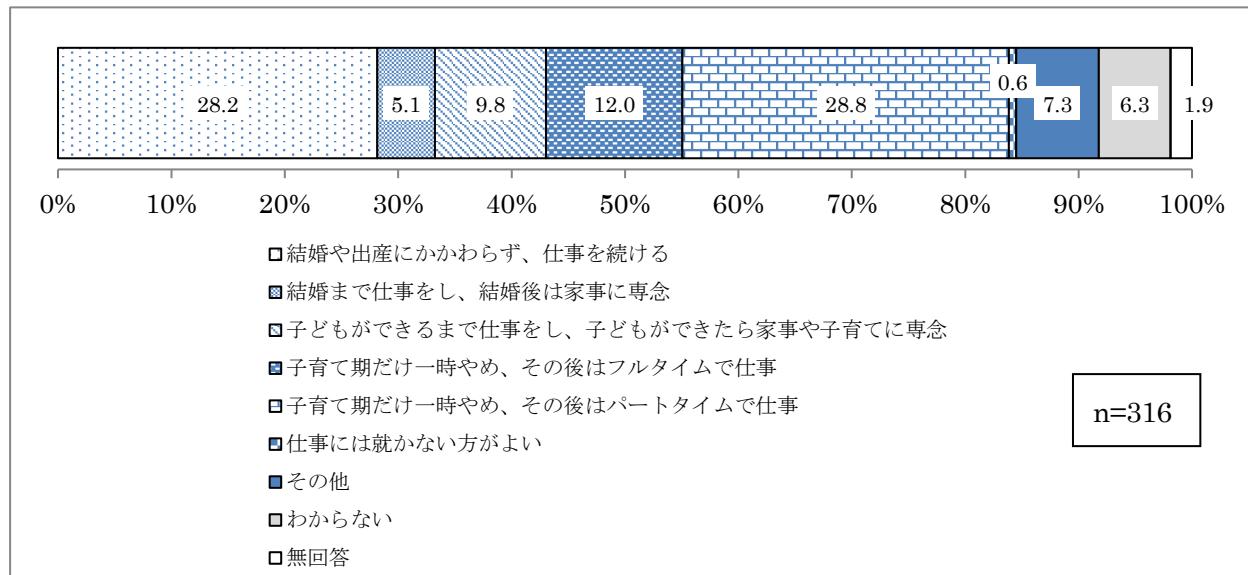
#### 問5. 女性が仕事に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。(□は1つだけ)

女性の就労に関する意識については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が45%と最も高く、前回調査の28.2%を大きく上回りました。男女別に見ると、女性51%、男性37%となり、女性の方がこの選択肢を回答した割合が14%高くなっています。

前回調査で最も高かった「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」28.8%は今回は16%となり、12%減少しています。



#### 《前回》

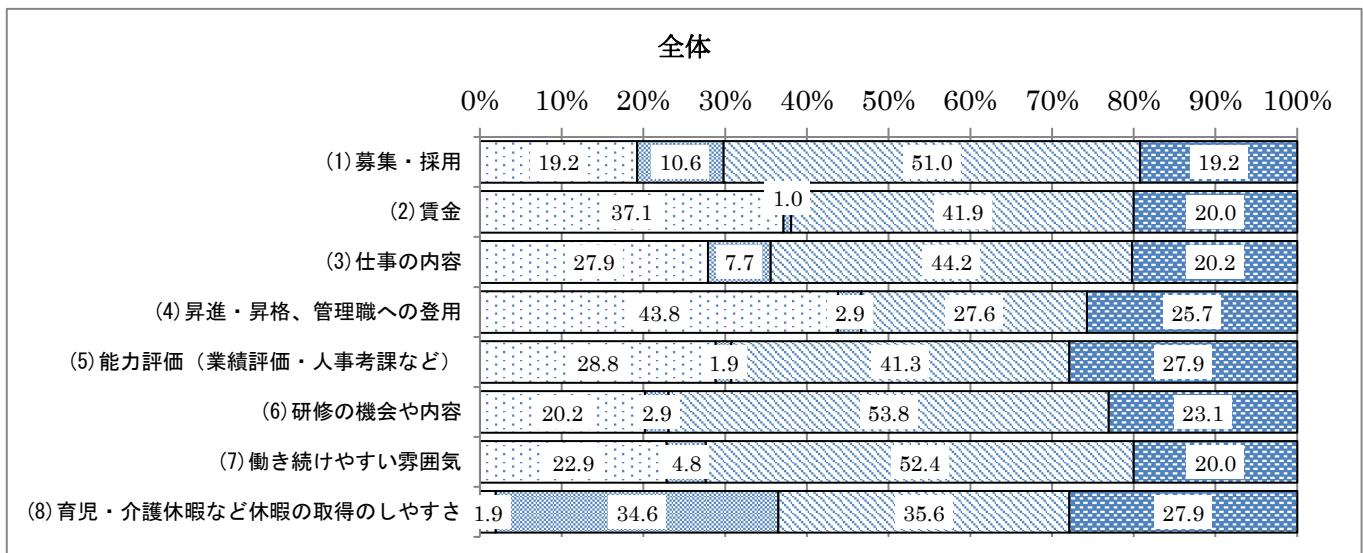
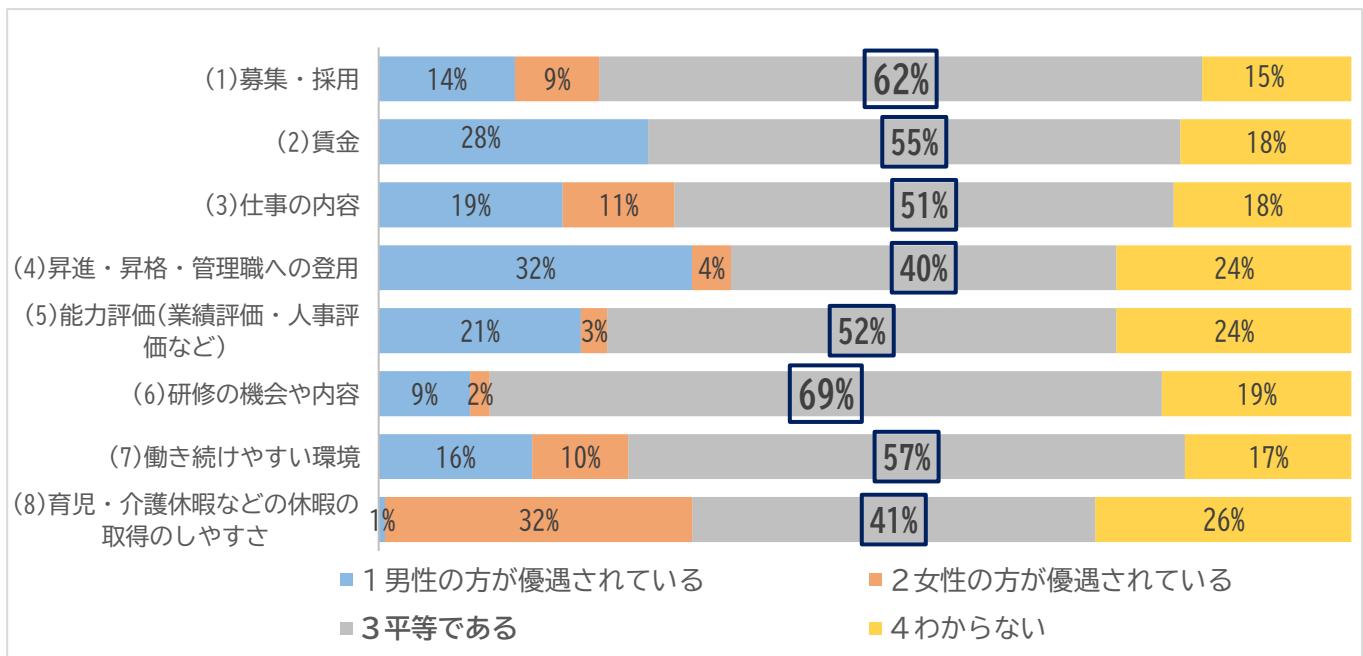


問6. あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。

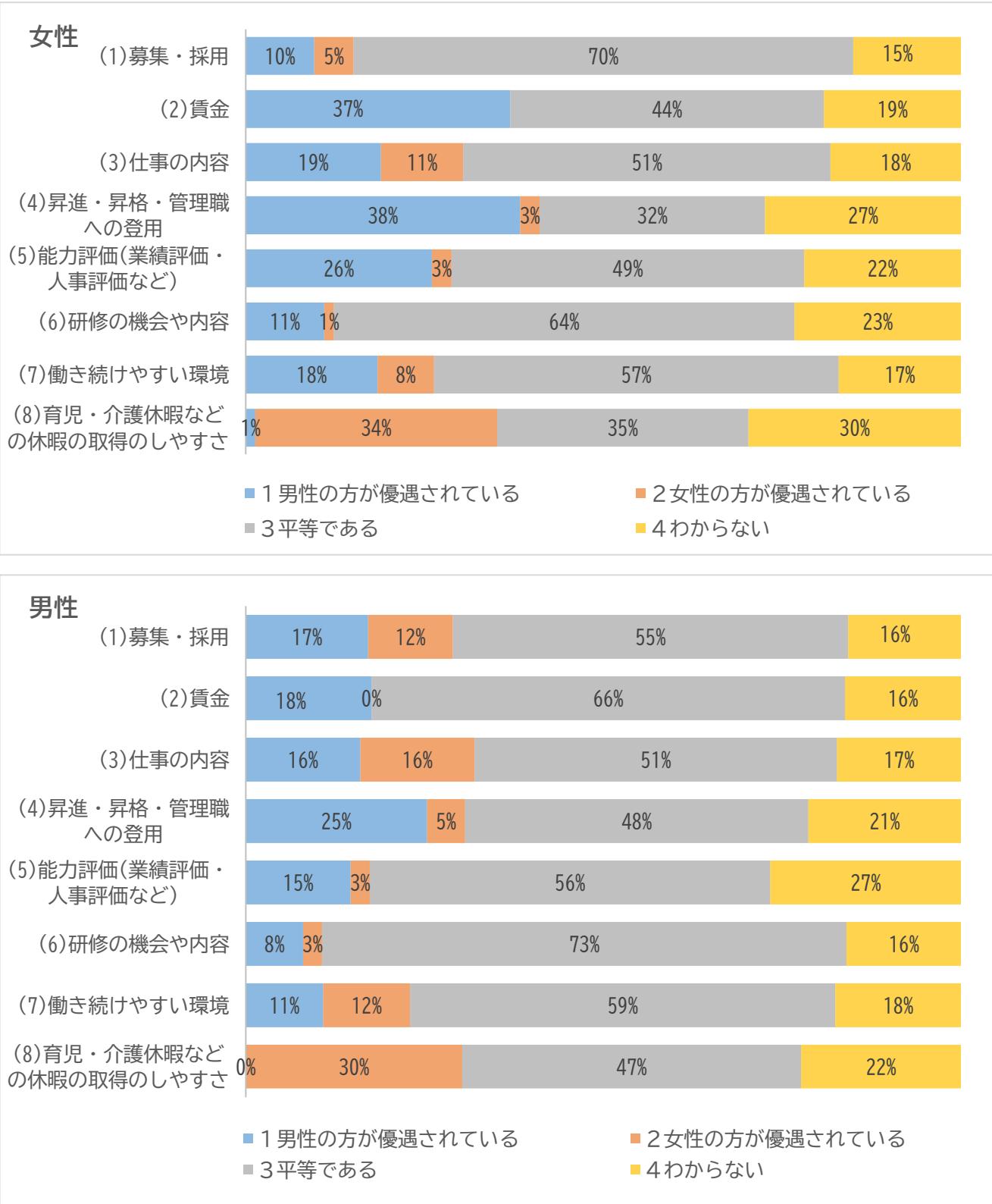
全体で「平等」を回答した割合は「(1)募集・採用」、「(6)研修の機会や内容」がそれぞれ6割を超えていました。

「男性優遇」と回答した割合が最も高かったのは、「(4)昇進・昇格、管理職への登用」32%、次いで「(2)賃金」28%です。男女別で比較しても同じ順位となります。「女性優遇」と回答した割合は、「(8)育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」で32%と最も高くなっています。

前回と比較して、全ての項目で「平等」を回答した割合が増え、「男性優遇」「女性優遇」を回答した割合が減っており、職場における性差は改善していると言えます。

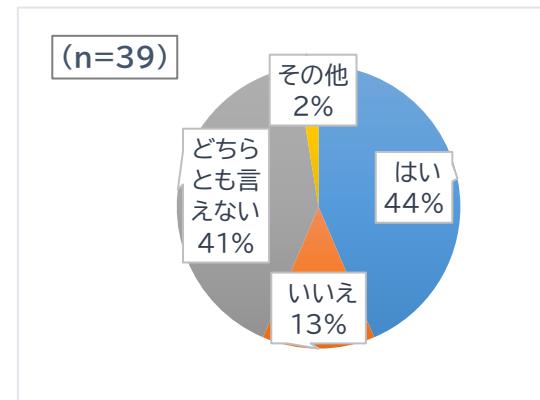


## 《男女別の回答割合》



問7. あなたは今後働きたいとお考えですか。あてまるものの番号を1つだけ選んでください。

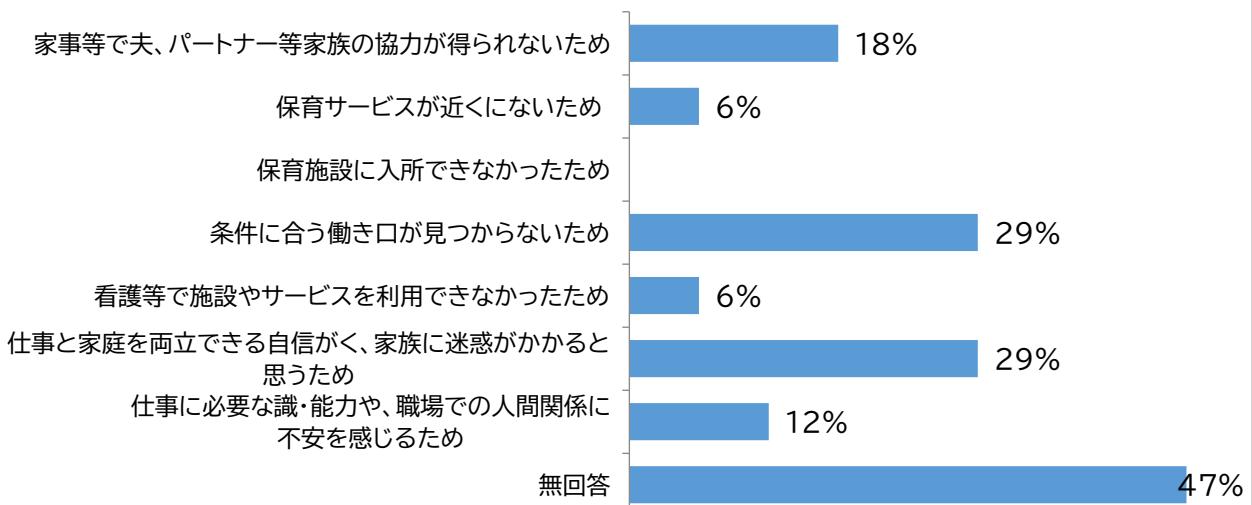
今後働きたいかどうかについては、「はい」が 44% (前回 52.8%) と最も高く、「いいえ」が 13% (前回 25.0%)、「どちらとも言えない」が 41% (前回 22.2%) となっています。



問7-1. 今後は働きたいけれども、現在仕事をしていない理由をお答えください。

(はいくつでも)

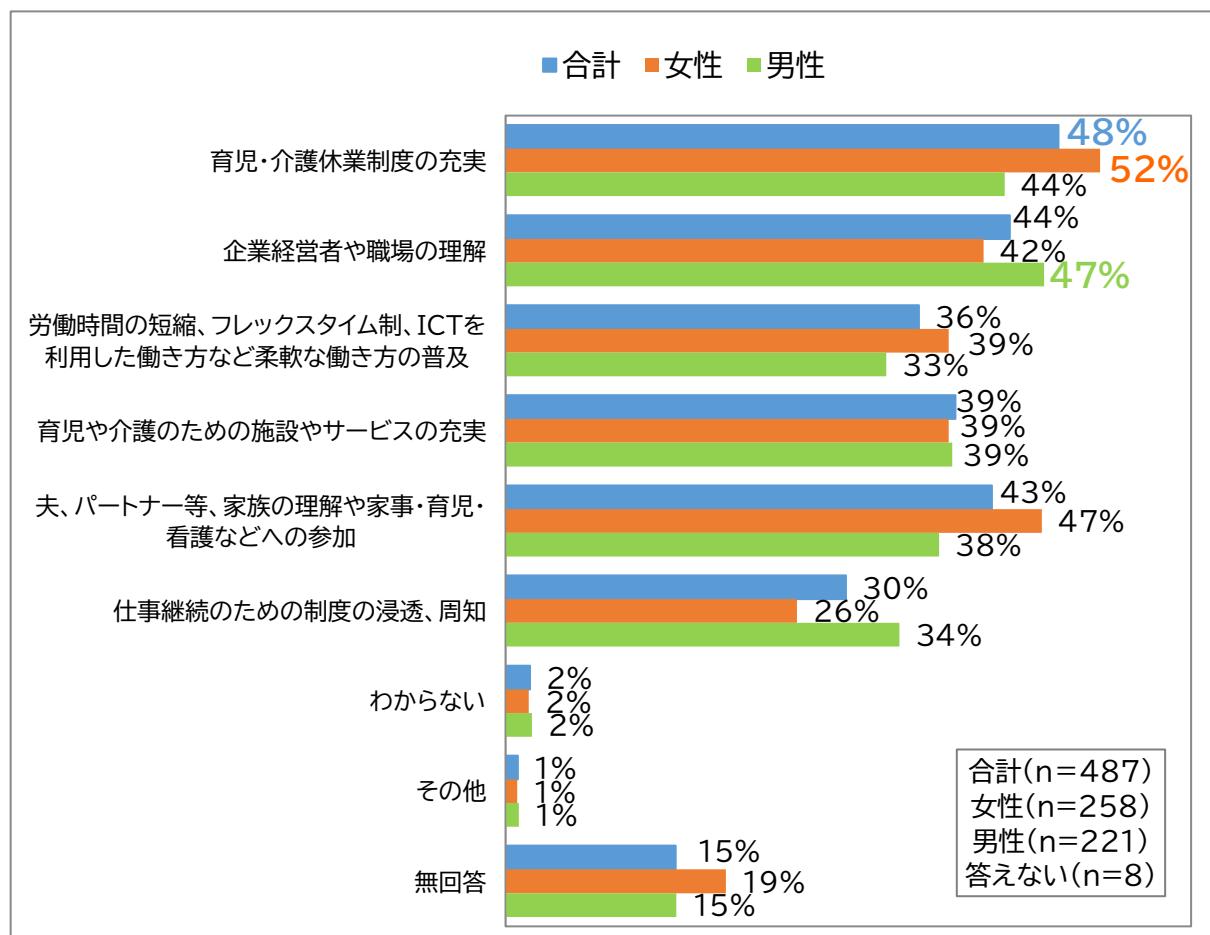
現在働けない理由をみると、無回答が多いものの、「仕事と家庭を両立できる自信がなく、家族に迷惑がかかるため」「条件に合う働き口が見つからなかったため」が同率で 29%、次いで「家事等で夫、パートナー等家族の協力が得られないため」18%の順となっています。前回調査でも「仕事と家庭を両立できる自信がなく、家族に迷惑がかかるため」と「その他」を選択した人が多い結果となりました。



問8. 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(□はいくつでも) ※前回は2つまで

全体では「育児・介護休業制度の充実」が最も高く 48%、次いで「企業経営者や職場の理解」44%、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」43%と続きます。前回は「企業経営者や職場の理解」42.7%が最も高く、次いで「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」37.3%、「労働時間の短縮、柔軟な勤務制度の導入」32%となっています。

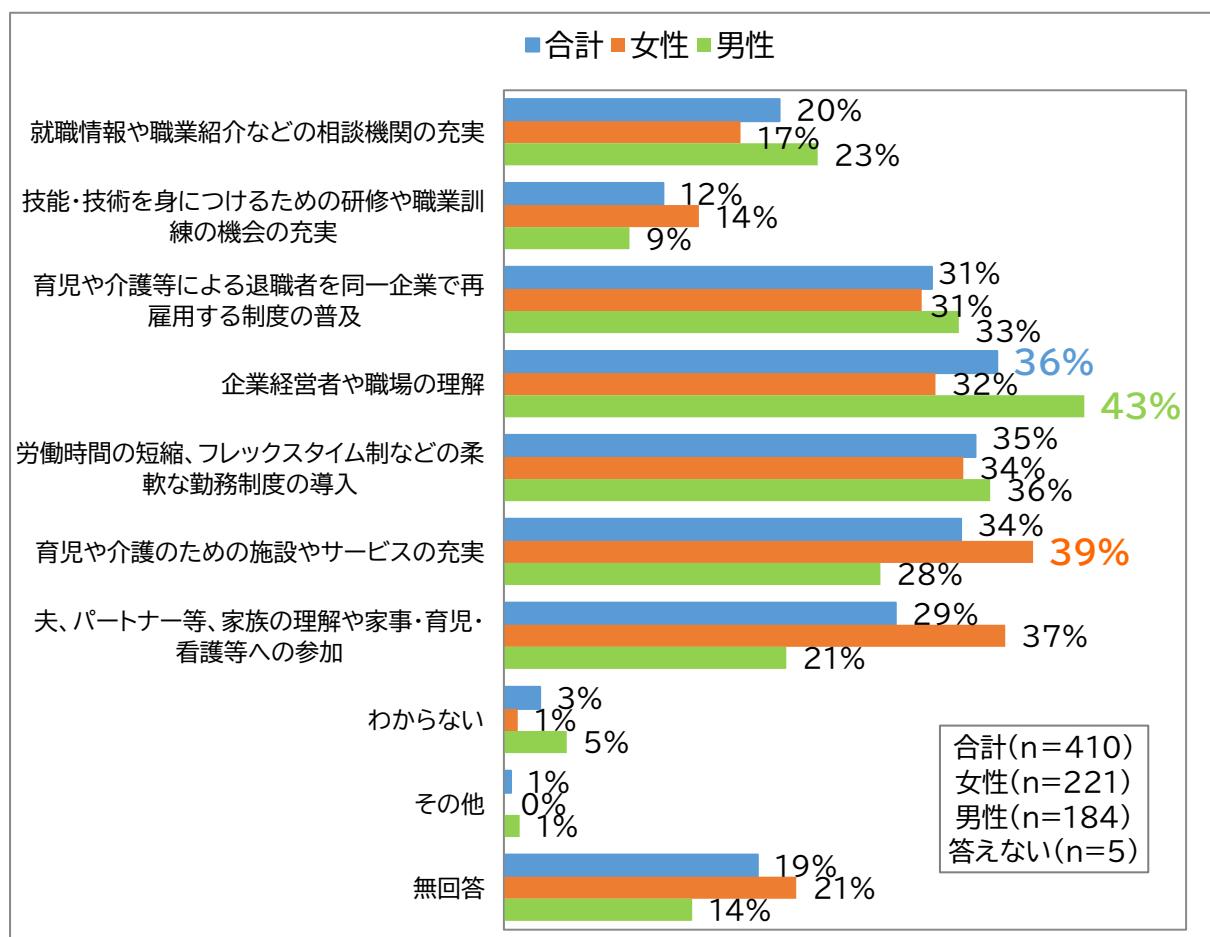
男女別で比較すると、回答した割合が最も高いのは女性は「育児・介護休業制度の充実」52%、男性は「企業経営者や職場の理解」47%となっています。



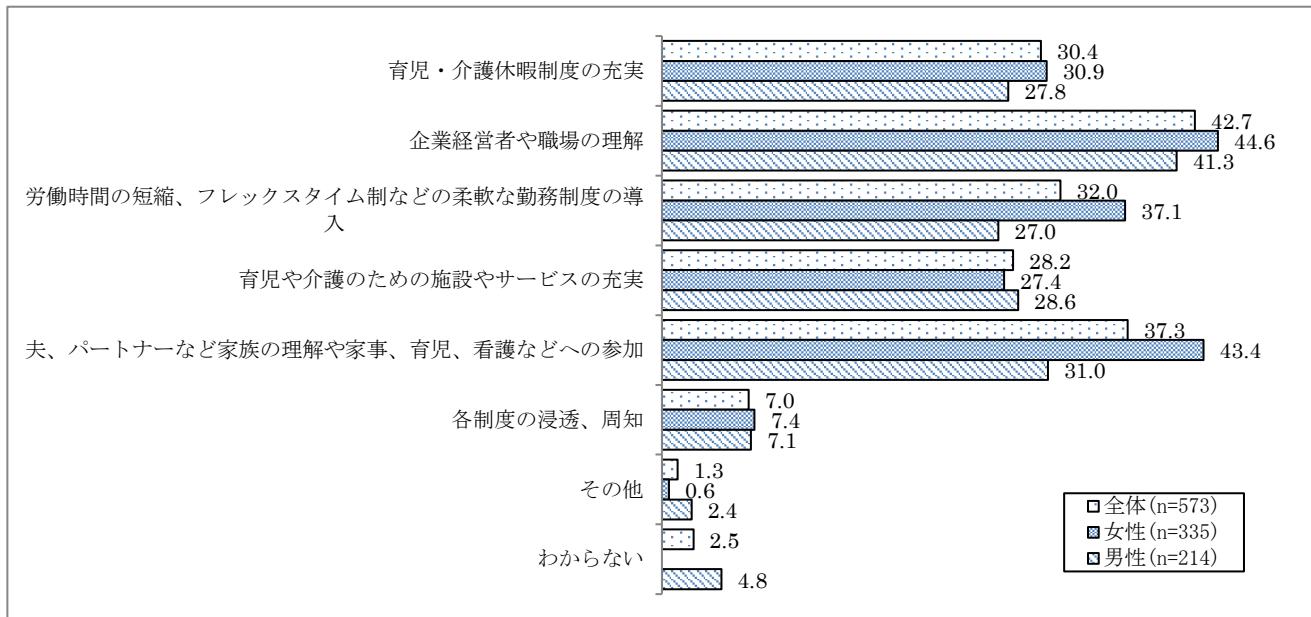
問9. 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(図は3つまで)

全体で最も回答した割合が高いのは「企業経営者や職場の理解」が次いで36%「柔軟な働き方の普及」35%「育児や介護のための施設やサービスの充実」34%です。

性別で比較すると、女性は「育児や介護のための施設やサービスの充実」39%、次いで「夫、パートナー等、家族の理解や家事・育児・看護等への参加」37%。男性は「企業経営者や職場の理解」43%、次いで「柔軟な働き方の普及」36%です。女性は育児や介護等の負担の軽減を、男性は職場環境の改善を優先する結果となっています。



## 《前回》



## 4 仕事と生活の調和について

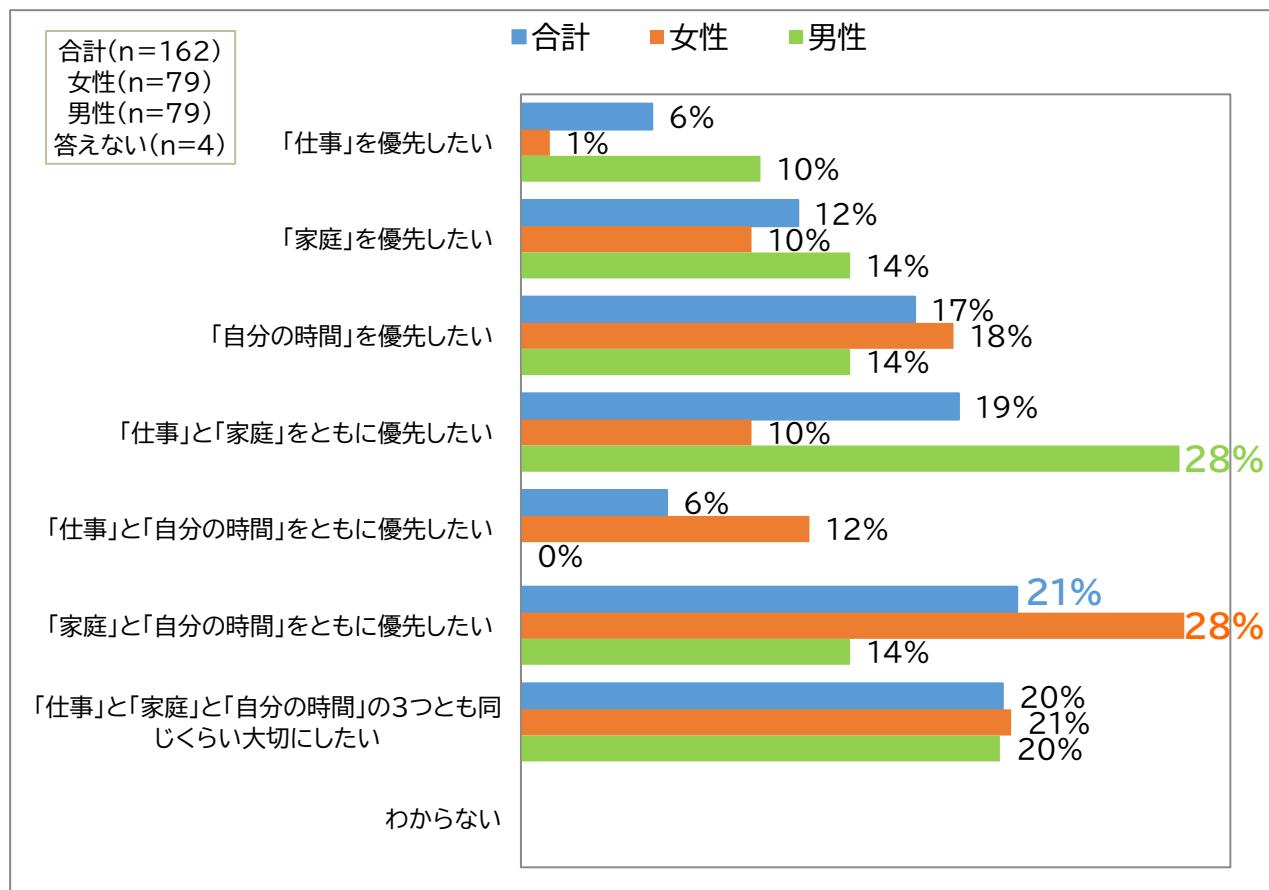
問10. あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の3つのうち何を優先しますか。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

### (1) 希望として(□は1つだけ)

全体では《「家庭」と「自分の時間」をともに優先したいが》21%となっています。次に《「仕事」と「家庭」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい》が 20%、《「仕事」と「家庭」をともに優先したい》が、19%となっています。

男女別で比較をすると、女性が《「家庭」と「自分の時間」をともに優先したい》が 28%、男性は《「仕事」と「家庭」をともに優先したい》が 28%で最も高く、差が出ています。次いで《3つとも優先したい》が高く、男女とも同程度の割合となっています。

前回は男女とも《「仕事」と「家庭」と「個人の生活」を優先したい》が最も高く女性 34%、男性は 23.4%でした。

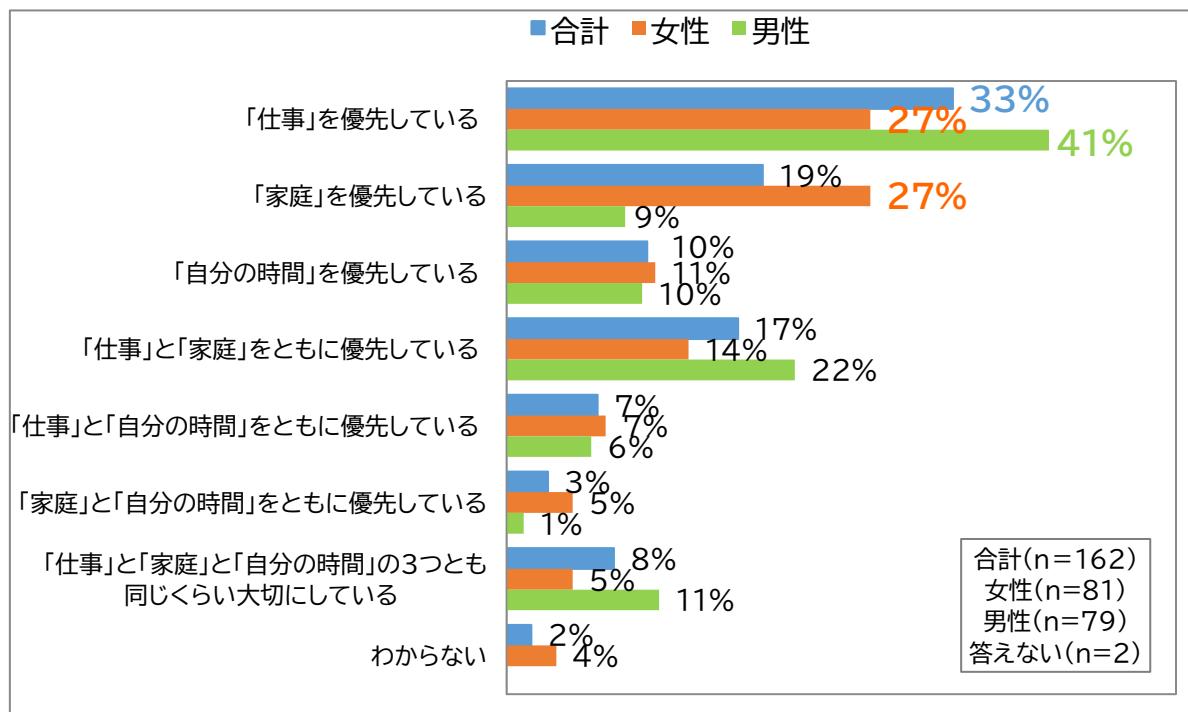


## (2) 現実(現状)として(□は1つだけ)

一方、現実として、前回同様に男女とも《「仕事」を優先》が最も高く33%です。

性別で比較すると、女性は《「仕事」を優先》《「家庭」を優先》が同率27%。男性は《仕事を優先》が41%と、他の項目とくらべても高く、女性より14%高くなっています。《「家庭」を優先》は男性9%となっており、女性より18%低くなっています。

前回と比較すると、女性の《「仕事」と「家庭」を優先》が約10%減り、《「家庭」を優先》が約10%増加しています。



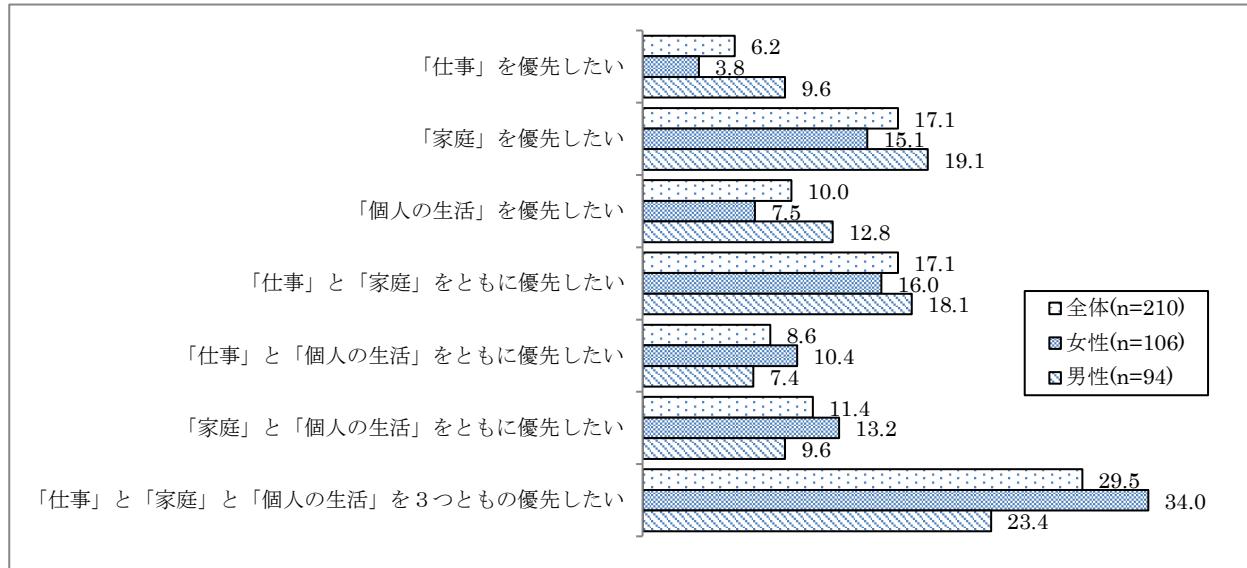
## 希望と現実(現状)の比較

希望では女性は《「家庭」と「自分の時間」をともに優先したい》男性は《「仕事」と「家庭」をともに優先したい》、あるいは男女とも《「仕事」と「家庭」と「自分の時間」の「3つとも大切にしたい」》が、現実では、女性は「仕事」か「家庭」を優先している、男性は「仕事」を優先している割合が高くなっています。また、「3つとも大切にしている」についても全体で8%となっており、希望と現実(現状)にギャップが生じています。

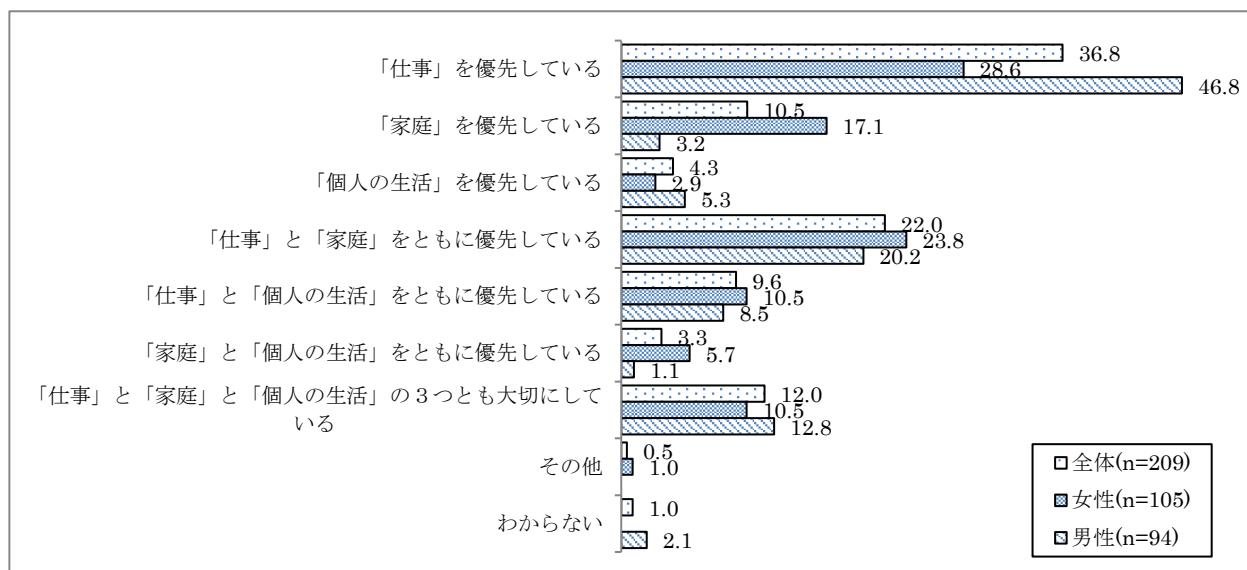
女性は希望で最も多かった《「家庭」と「自分の時間」をともに優先したい》28%でしたが、現実は5%という結果に、男性は《「仕事」と「家庭」をともに優先したい》28%、現実は22%のため、女性の方が差が大きくなっています。

## «前回»

### 希望



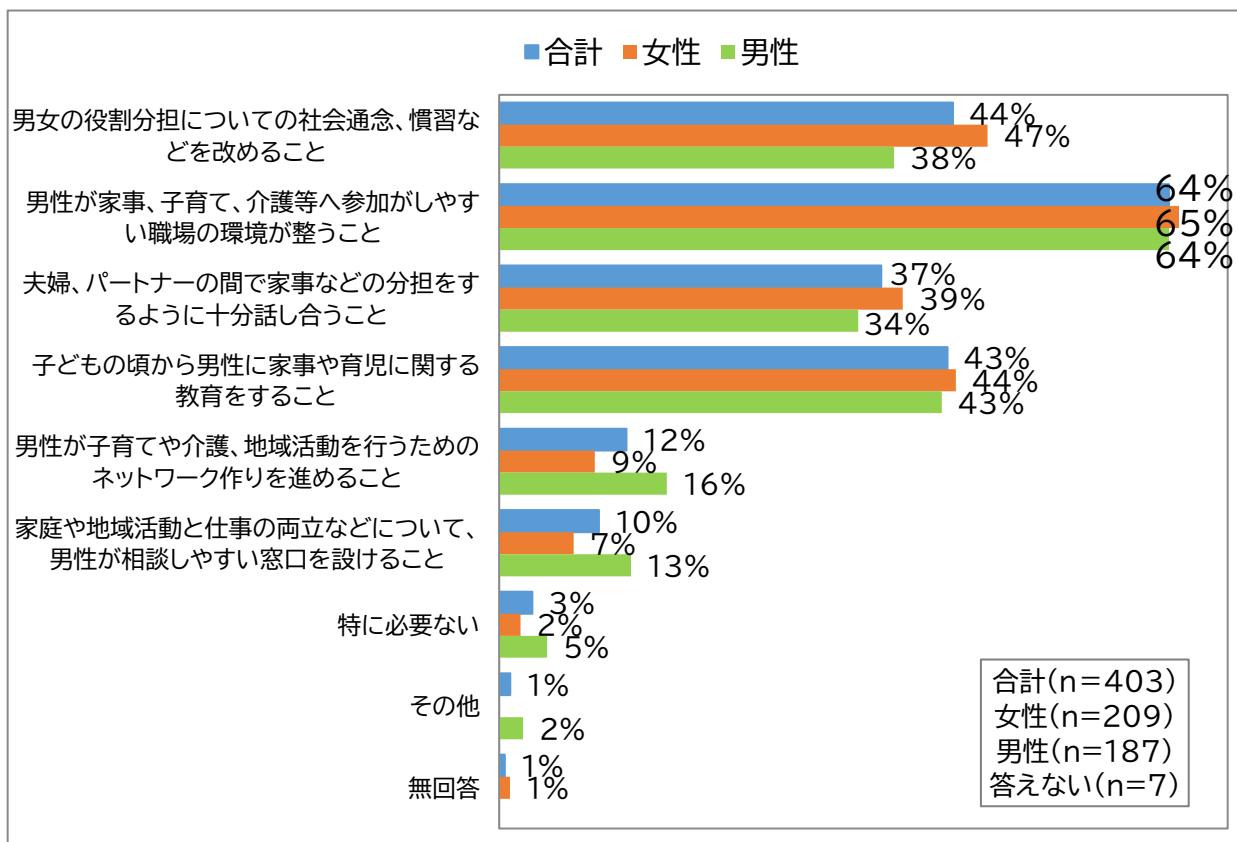
### 現実



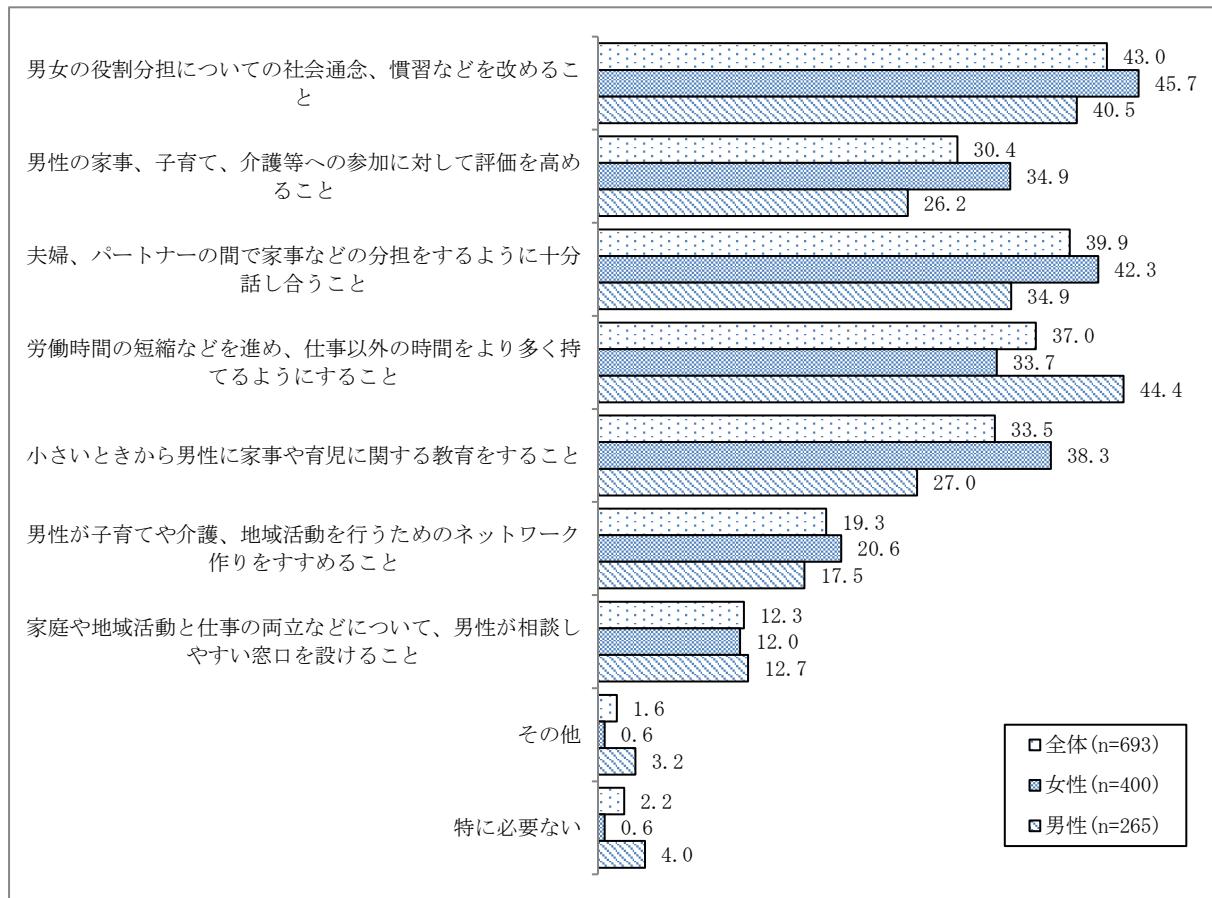
問11. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(□は3つまで)※選択肢変更あり

必要だと思うことは「家事、子育て、介護等へ参加がしやすい職場の環境が整うこと」が64%で最も多くなります。問10の結果も考慮すると、職場の環境の改善を優先する割合が高くなっていると考えられます。

前回調査で最も多かった「男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改めること」43%は次点で44%でした。その次に「子どもの頃から男性に家事や育児に関する教育をすること」43%が続きます。前回は次点だった「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」39.9%は今回は37%です。男女別で見ると上位3項目は同じで、大きな差はありません。



## 《前回》

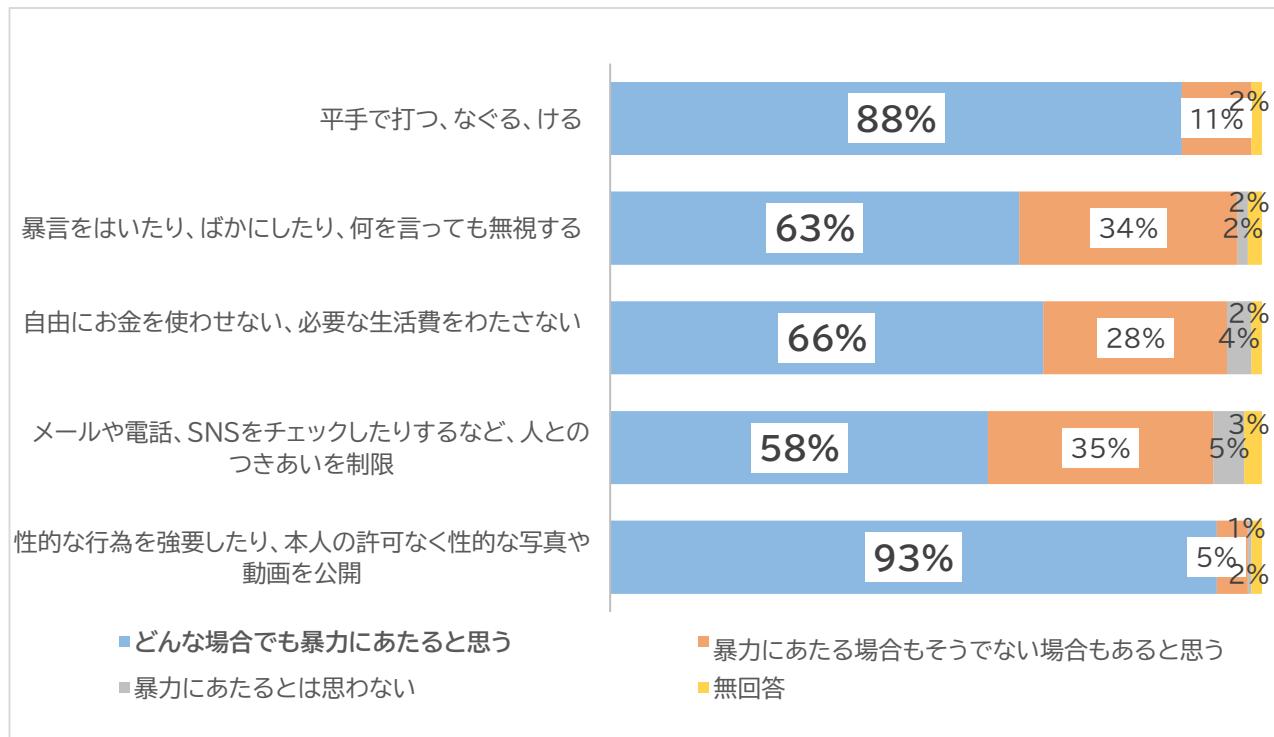


## 5 ドメスティック・バイオレンス (DV) について

### 問12. ★前回から質問項目を集約

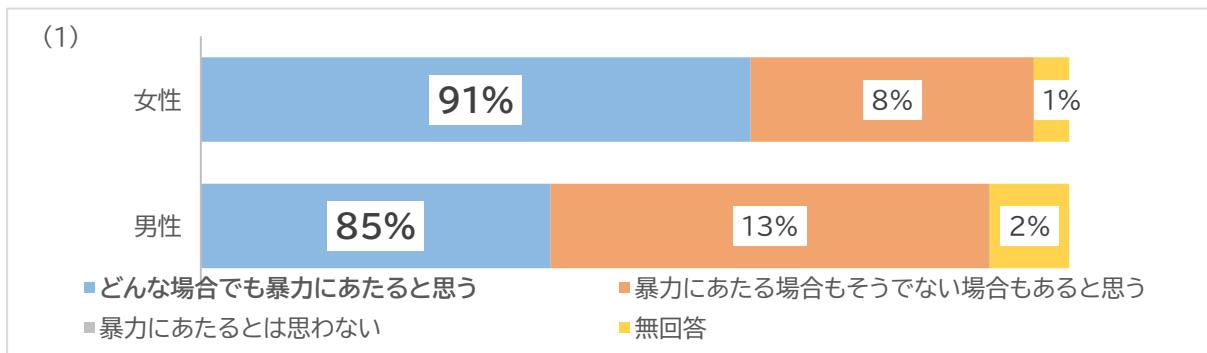
あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。(□はそれぞれ1つずつ)

暴力だと思う事柄について、「人とのつきあいの制限」以外、どの項目も約6割以上が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答しています。前回同様に、女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」を選択する割合は高くなっています、「自由にお金を使わせない、必要な生活費をわたさない」「メールや電話、SNSをチェックする、人とのつきあいを制限」は男性と比べて10%以上高くなっています。

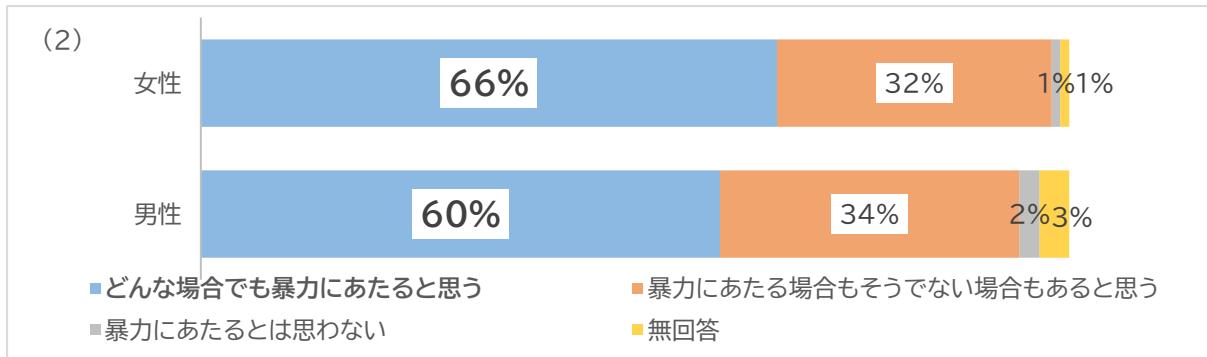


## 《男女別の回答割合》

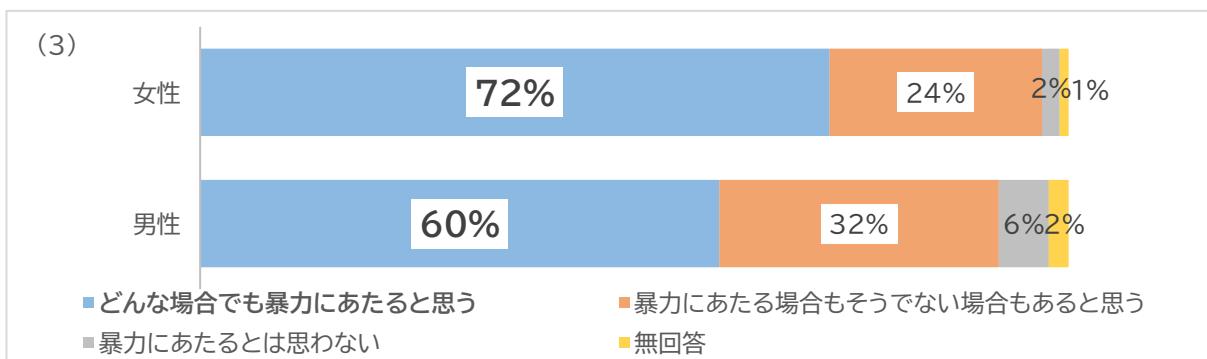
### (1) 平手で打つ、なぐる、ける



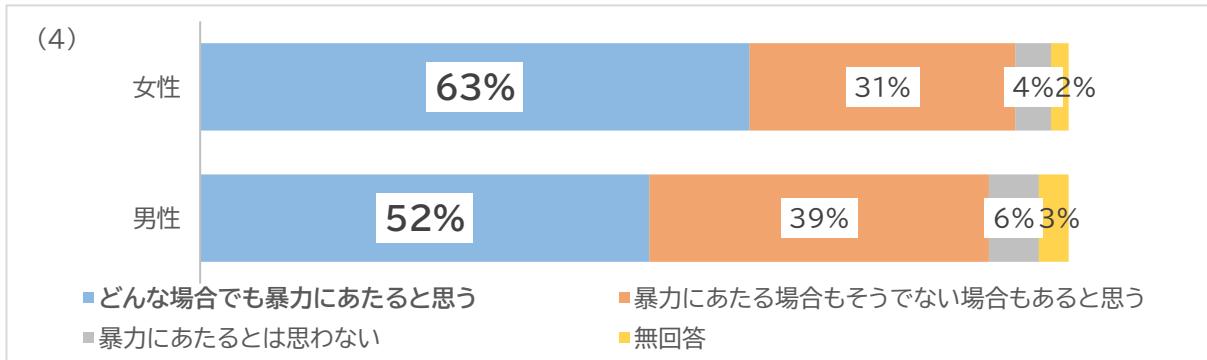
### (2) 暴言をはいたり、ばかにしたり、何を言っても無視する



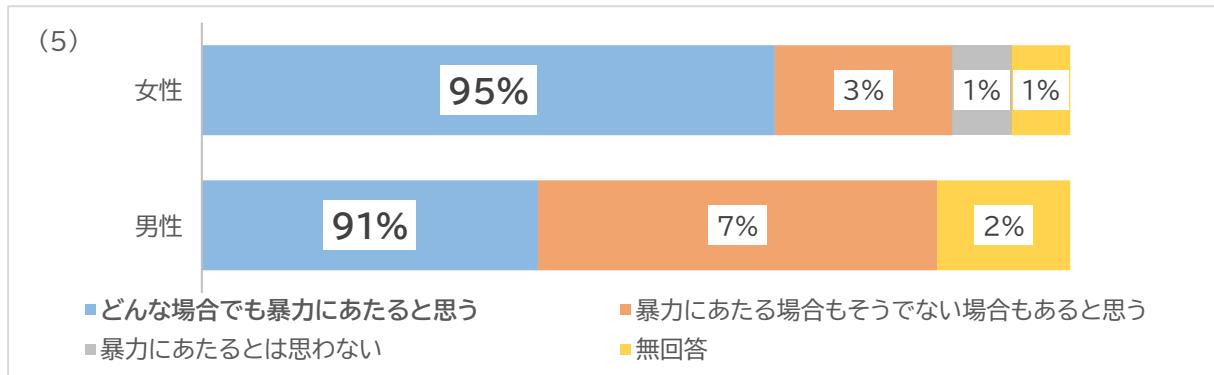
### (3) 自由にお金を使わせない、必要な生活費をわたさない



### (4) 友達や身内とのメールや電話、LINEなどのSNSをチェックしたりするなど、人とのつきあいを制限する

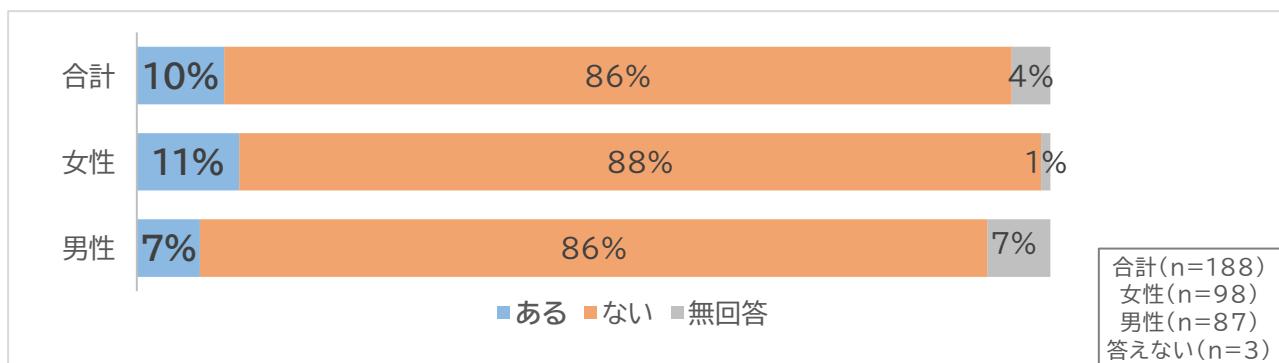


(5) 性的な行為を強要したり、本人の許可なく性的な写真や動画を一般に公開する



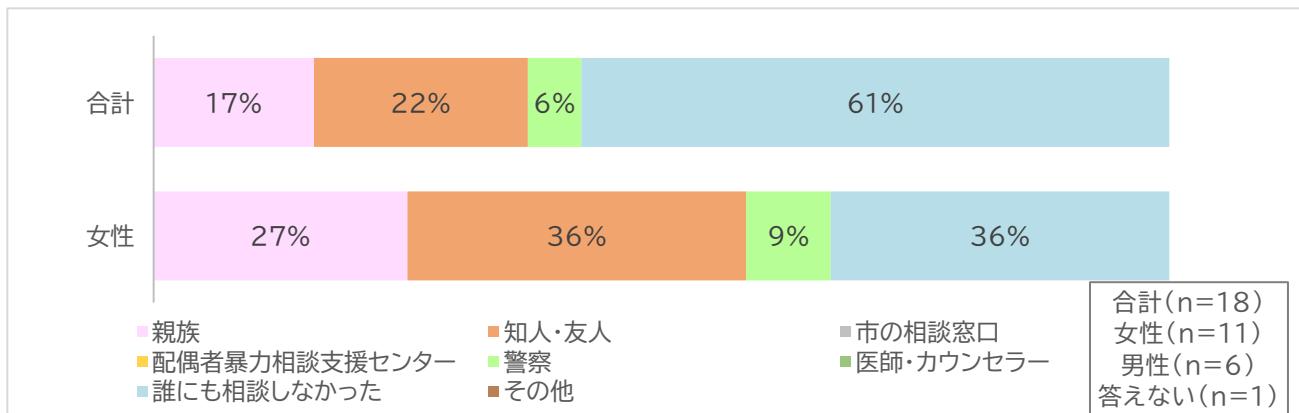
新)問12—1.あなたは、配偶者・パートナーから問12のような行為を受けたことがありますか。

「ある」と答えた人は全体で10%。女性11%、男性7%となり、女性がわずかに多い結果となります。



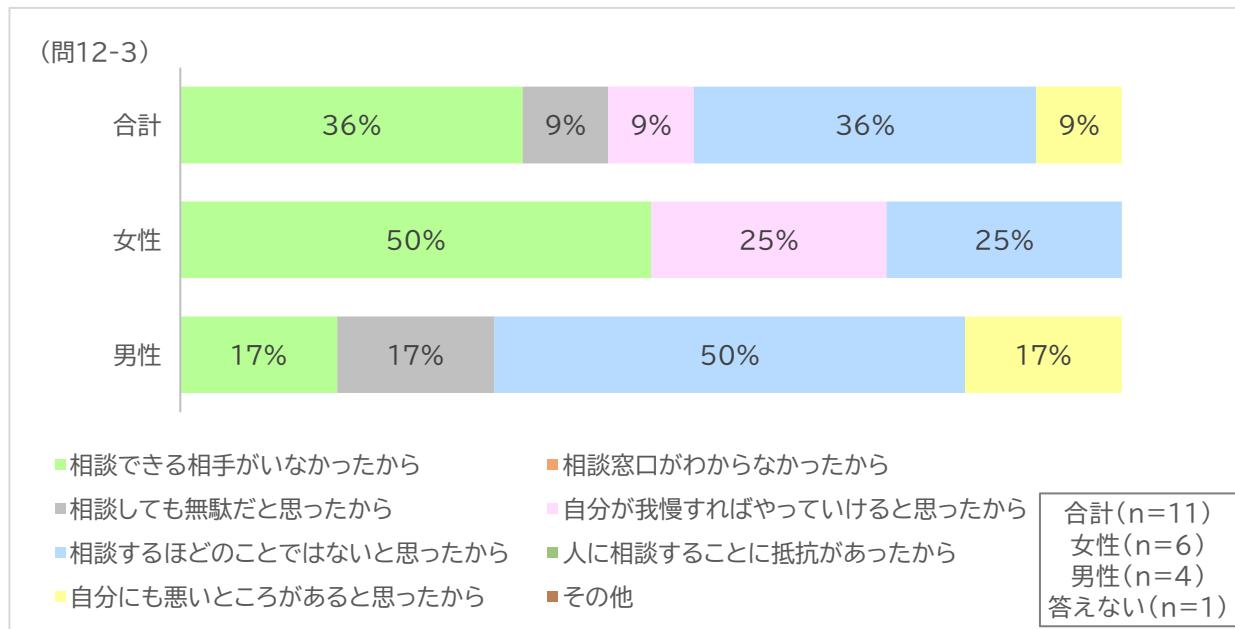
新)問12—2.行為を受けたことが「ある」と回答した人へ。受けた行為を誰かに相談されました

最も割合が高かったのは「誰にも相談しなかった」61%です。次いで「知人・友人」22%、「親族」17%と続きます。男女別で見ると、男性は「誰にも相談しなかった」が100%でした。女性は「誰にも相談しなかった」「知人・友人」が36%、次いで「親族」27%となります。男性の方が相談しない人が多い結果となります。



新)問12-3. 「問12-2」で「誰にも相談しなかった」と回答した人へ。その理由を教えてください。  
(団はいくつでも)

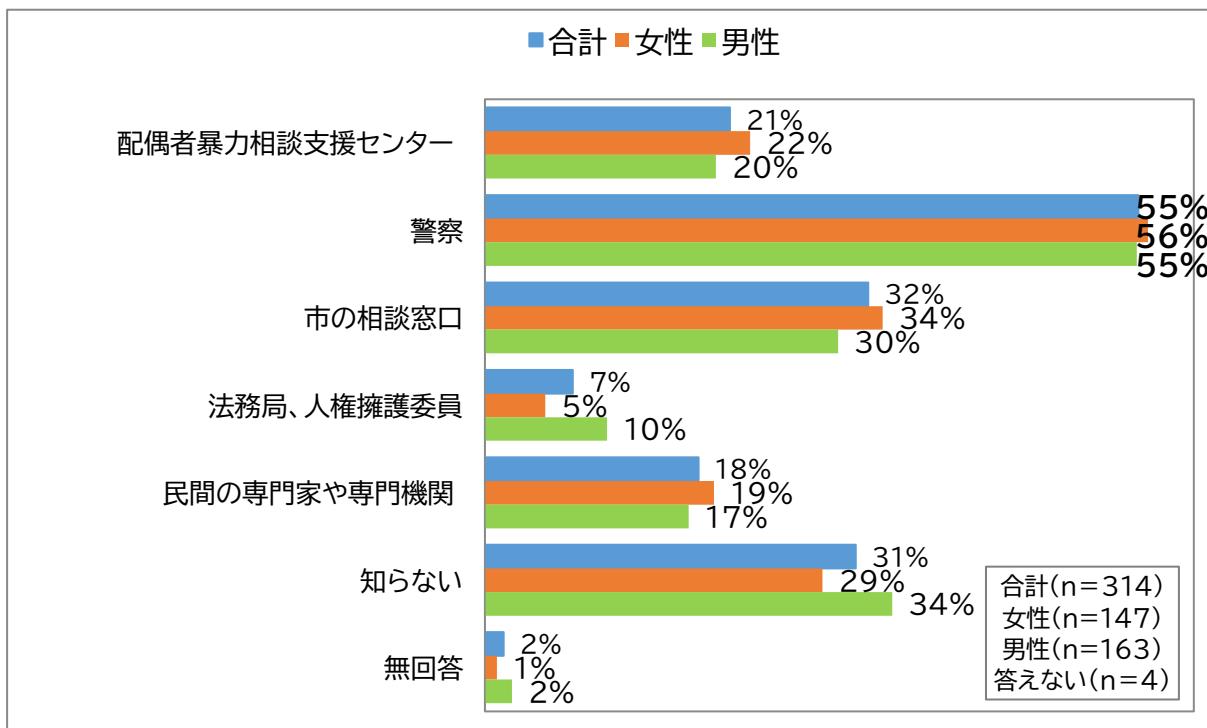
最も割合が高いのが「相談できる相手がいなかったから」「相談するほどのことではないと思ったから」36%です。男女別で見ると、女性は「相談できる相手がいなかったから」、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が5割という結果です。



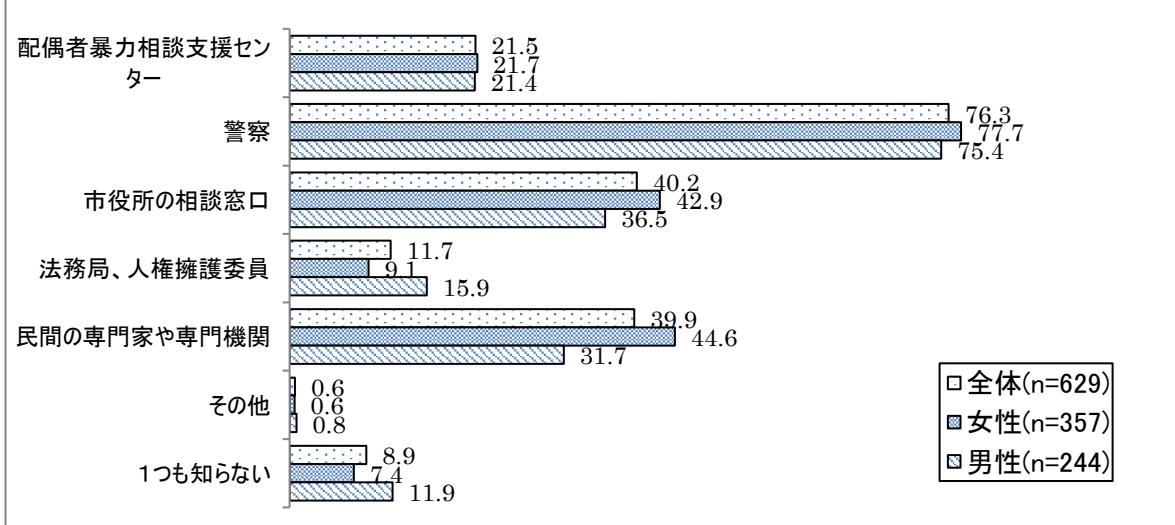
問13. あなたは、配偶者・パートナーからの暴力について、相談窓口としてどのようなものをお知っていますか。また、知っている場合、どのような方法で知りましたか。

【相談窓口】(□はいくつでも)

配偶者等からの暴力(DV)の相談窓口では、前回と同じく「警察」55%(前回 76.3%)で、最もよく認知されています。次いで、「市役所」が 32%(前回 40.2%)、配偶者暴力相談支援センター21%(前回 21.5)です。一方「知らない」と答えた割合は31%(8.9%)です。前回より増加しています。男女別では「法務局、人権擁護委員」以外は女性の認知度の方がわずかに高くなっています。



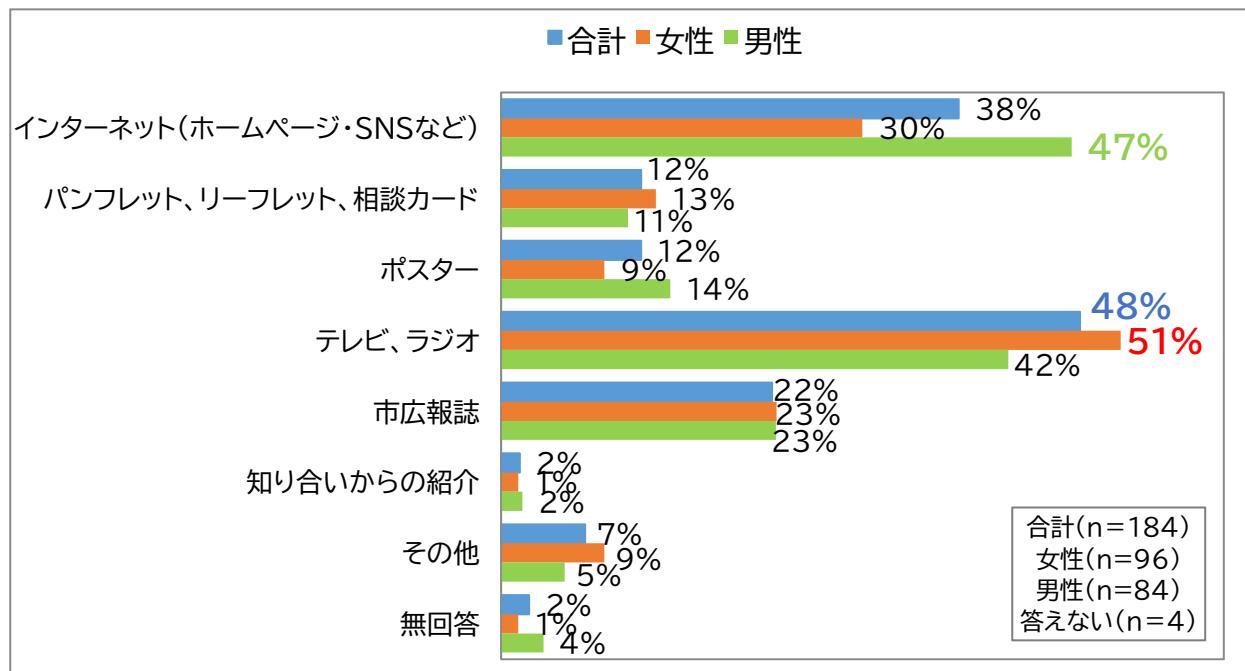
《前回》



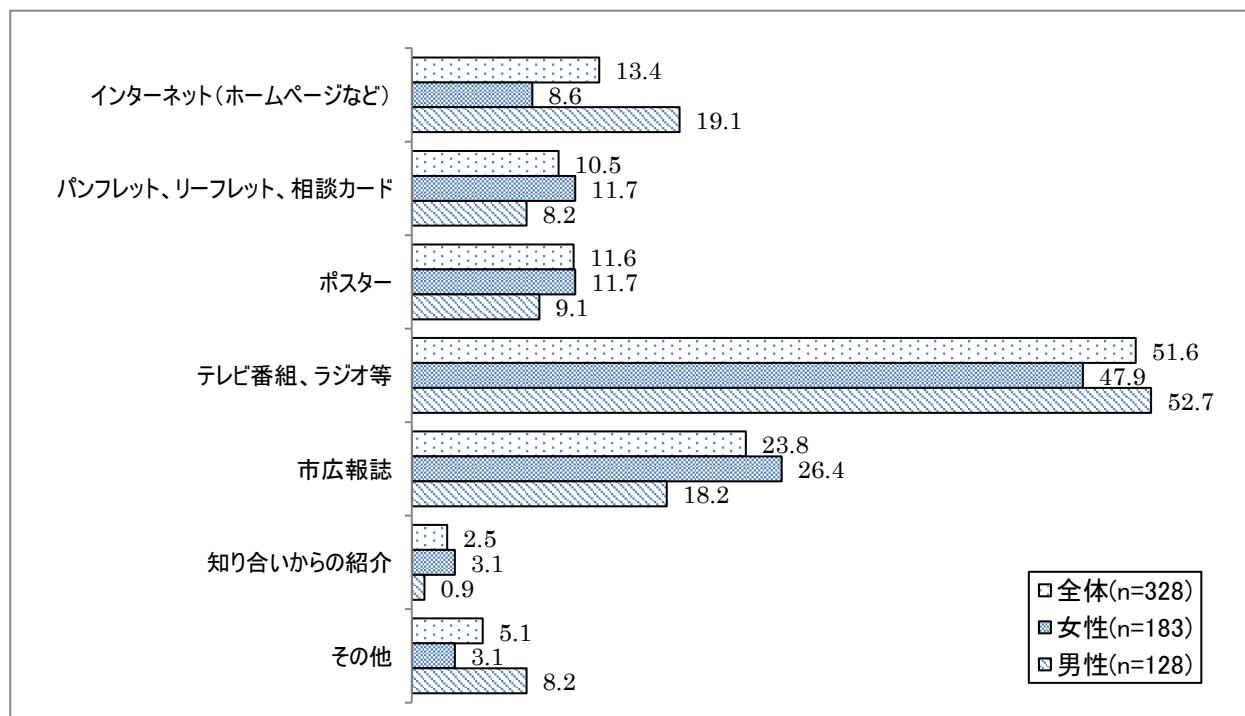
## 【方法】(□はいくつでも)

相談窓口の認知方法は、前回同様「テレビ、ラジオ」が48%(前回49.7%)で最も高くなっています。次に「インターネット」38%(前回12.8%)、「市広報誌」22%(前回22.9%)となります。前回と比較してインターネットで情報を得る人が増加しています。

男女別では、女性は「テレビ、ラジオ」からの割合が高いのに対し、男性は「インターネット」が高くなっています。その他は「学校」「仕事」等。



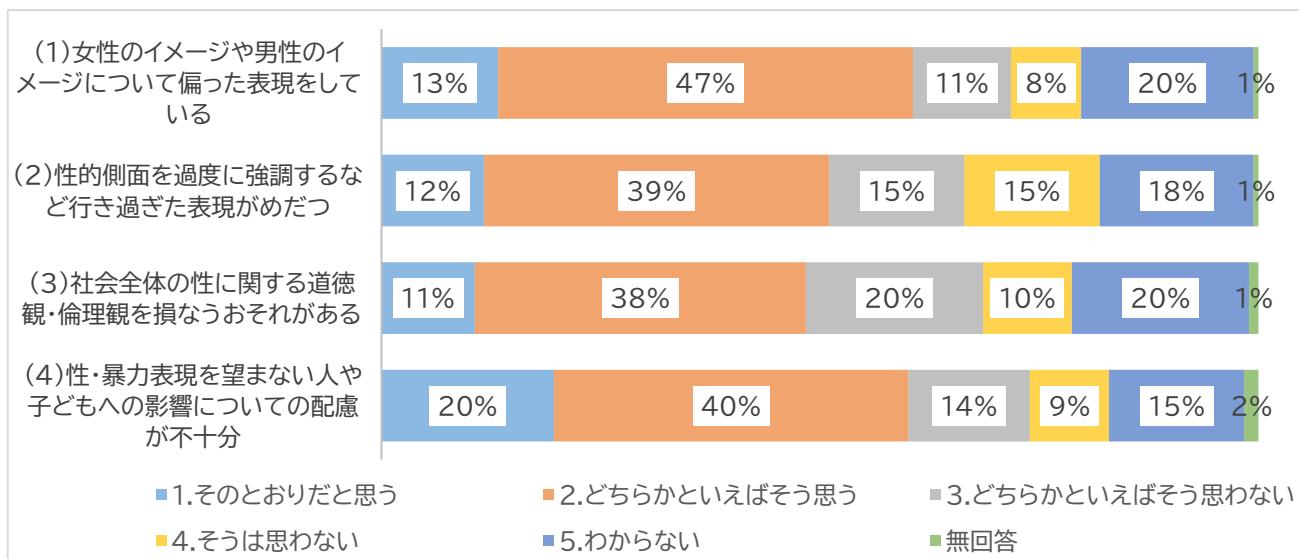
《前回》



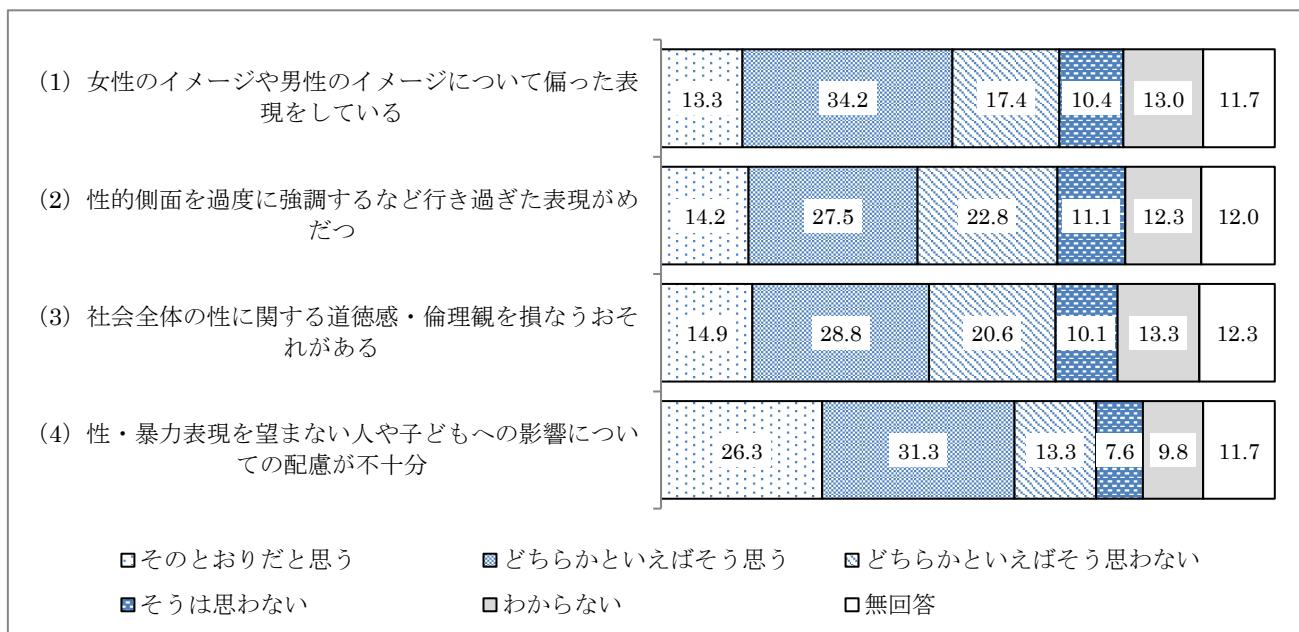
※『そう思う』…「どちらかといえば」と回答した割合も含む

問14. テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアにおける性・暴力表現に関する以下の意見について、あなたはどのように思いますか。(□はそれぞれ1つずつ)

全体では『そう思う』が最も高いのは「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」「性・暴力表現を望まない人や子どもへの影響についての配慮が不十分」で60%となっています。男女別で見ると、大きな差はありませんが、「性的側面を過度に強調するなど行き過ぎた表現がめだつ」について男性の方が『そう思う』が12%高くなっています。



《前回》



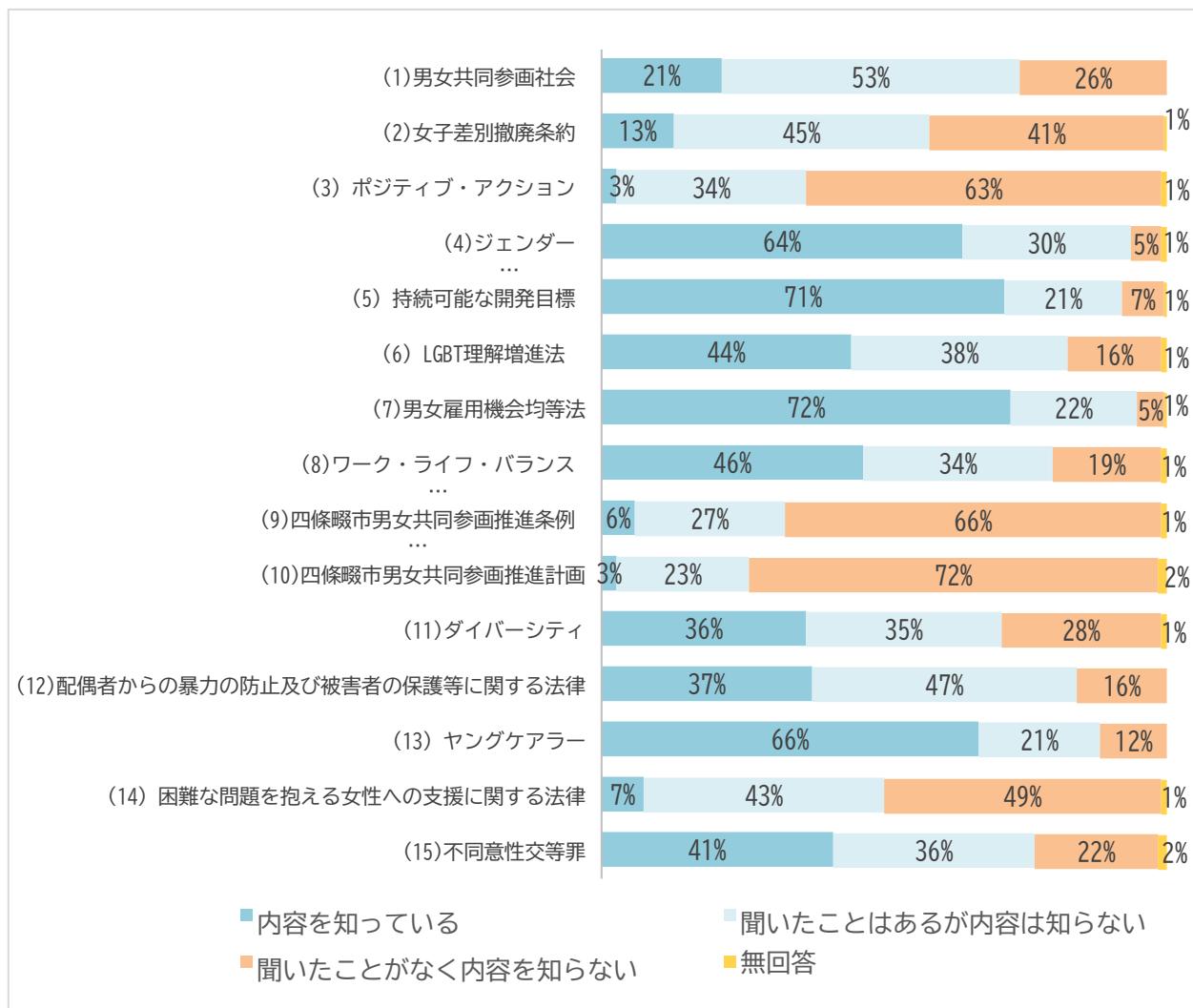
※『知っている』・『聞いたことはあるが内容は知らない』と回答した割合も含む

## 6 男女共同参画社会の実現について

問15. 次にあげる項目のうちで、あなたがご存じのものはありますか。

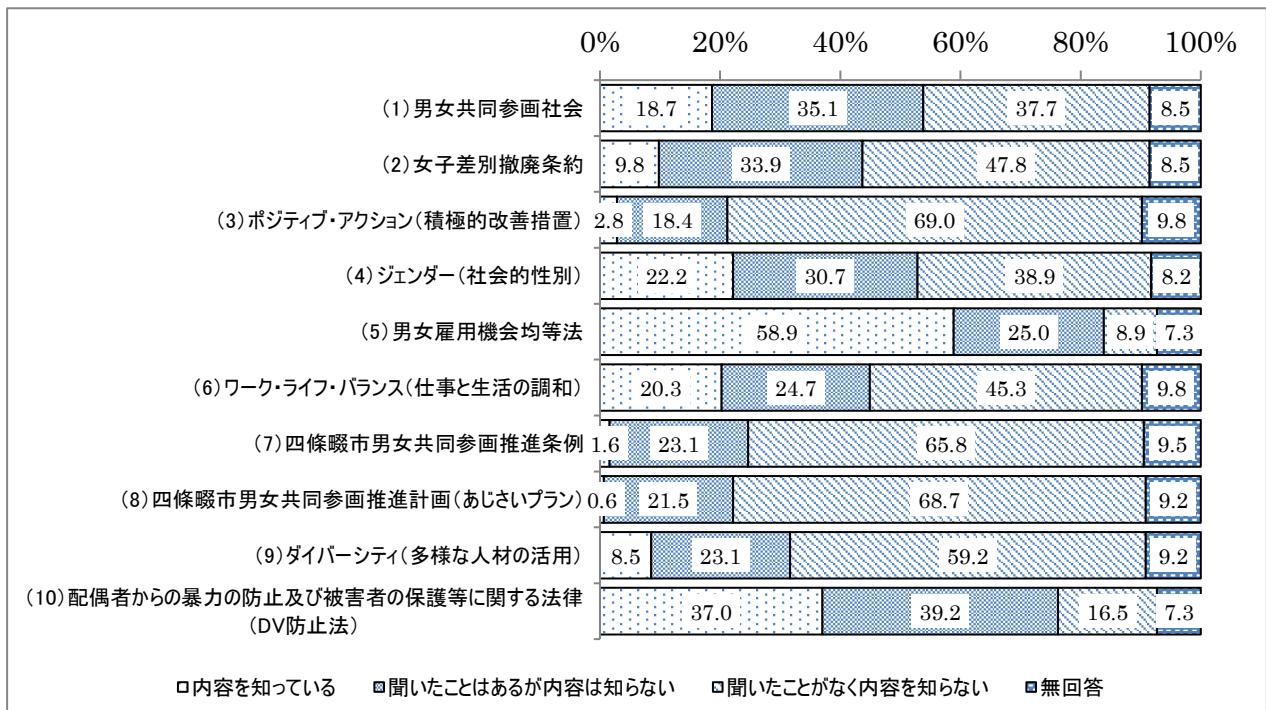
あてはまるものを選んでください。(□はそれぞれ1つずつ)

『知っている』と回答した割合は「(4)ジェンダー」(前回 52.9%)と「(7)男女雇用機会均等法」(前回 83.9%)がともに94%と最も高く、次いで「(5)持続可能な開発目標」が92%となります。一方、『聞いたことがなく内容も知らない』は「(10)四條畷市男女共同参画推進計画」72%(前回 68.7%)が最も高く、次いで「(9)四條畷市男女共同参画推進条例」66%(前回 65.8%)、「(3)ポジティブ・アクション」が63%(前回 69%)となっています。



★(5)、(13)～(15)を新規追加

## 《前回》

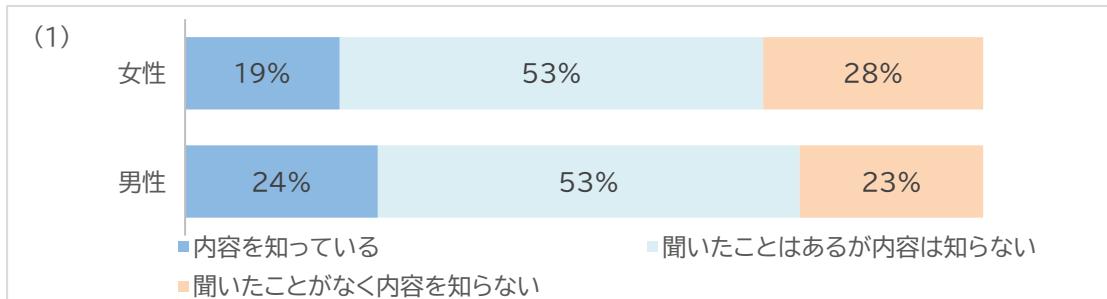


## 《男女別の回答割合》

### (1)男女共同参画社会

『知っている』は、女性が72%、男性が77%（前回女性52.6%、男性57.6%）です。

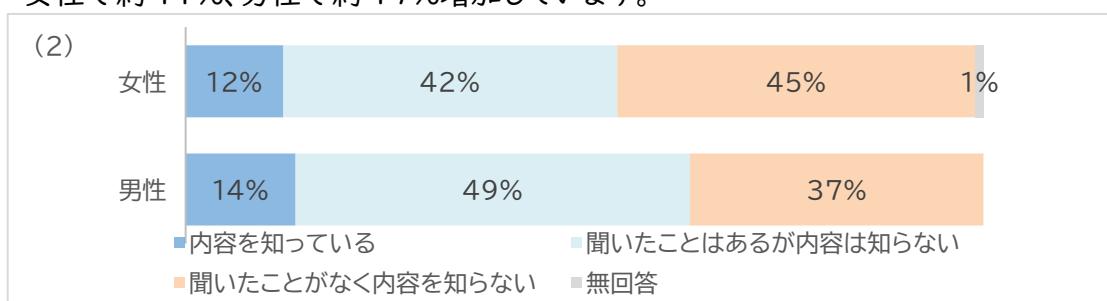
前回より男女とも約20%増加しています。



### (2)女子差別撤廃条約

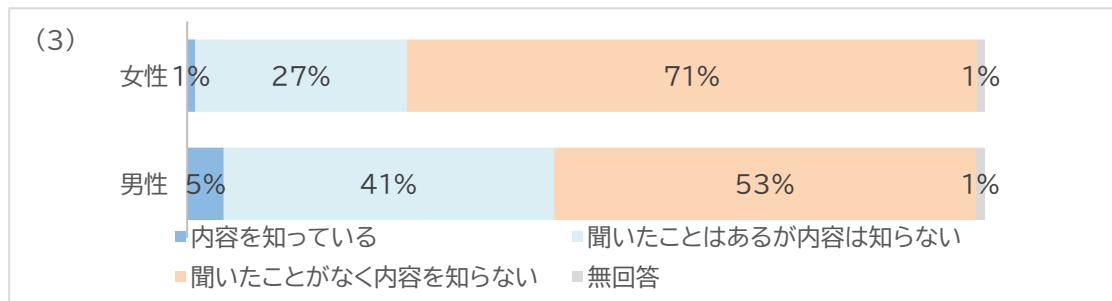
『知っている』は女性54%、男性63%（前回女性42.9%、男性45.6%）です。

女性で約11%、男性で約17%増加しています。



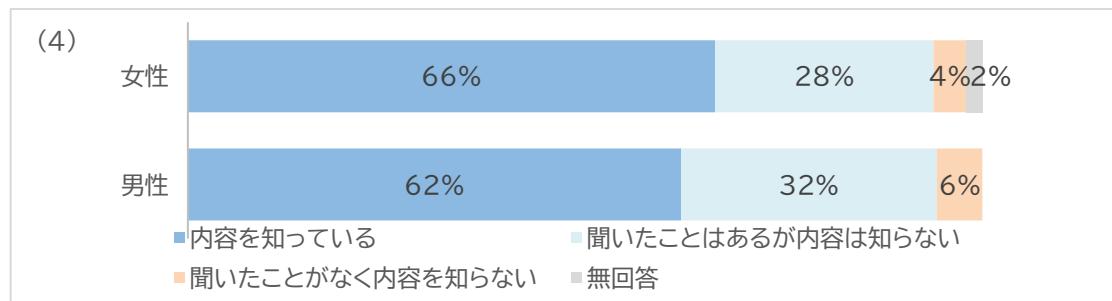
### (3) ポジティブ・アクション

『知っている』は、女性が28%、男性が46%（女性21.7%、男性20.8%）で、前回より男性の認知度が約25%増と大きく増加しています。



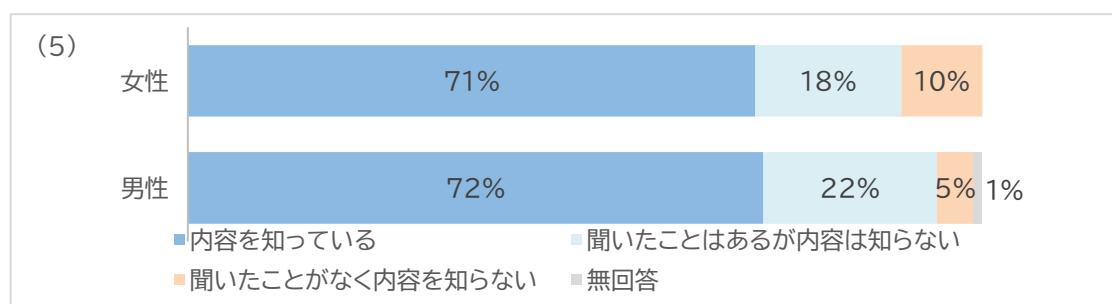
### (4) ジェンダー

『知っている』は、女性94%、男性94%（前回女性55.4%、男性50.4%）と、男女ともに9割台となり、前回より大幅に増加しています。「内容を知っている」の割合も6割を超えています。



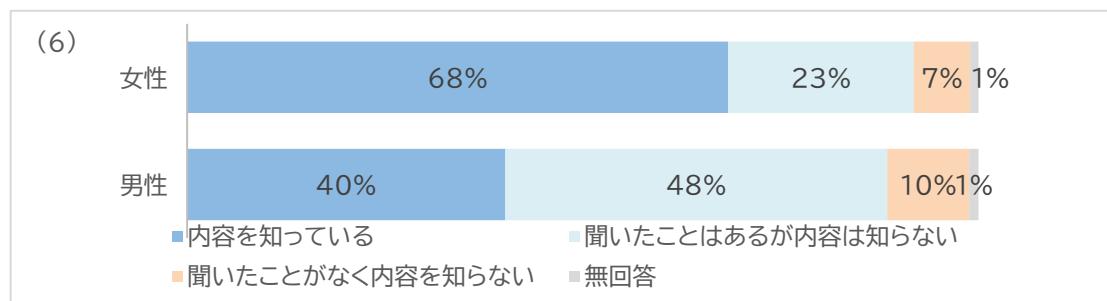
### (5) 持続可能な開発目標

『知っている』は、女性89%、男性94%で高い認知度となっており、男女ともに「内容を知っている」の割合も7割を超えています。特に認知度が高い項目となっています。



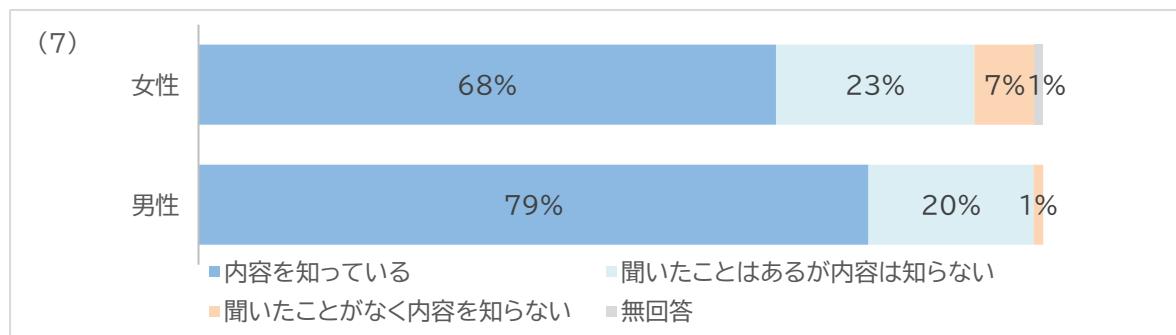
## (6) LGBT 理解増進法

『知っている』は、女性 91%、男性 88%で、高い認知度となっており、性別でみると「内容を知っている」は女性が 28%高い結果となります。



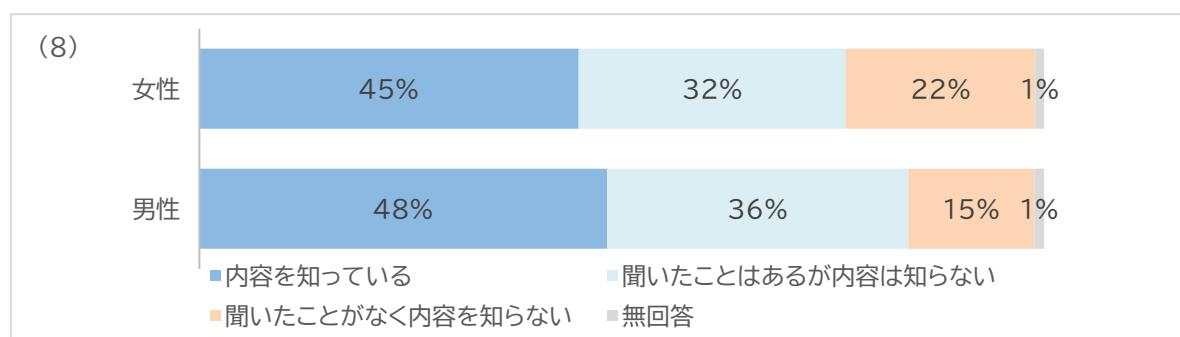
## (7) 男女雇用機会均等法

『知っている』は、女性 91%、男性 99% (前回女性 83.4%、男性 86.4%) と、男女とも高い認知度となっています。性別でみると男性の方が認知度が高い結果となります。



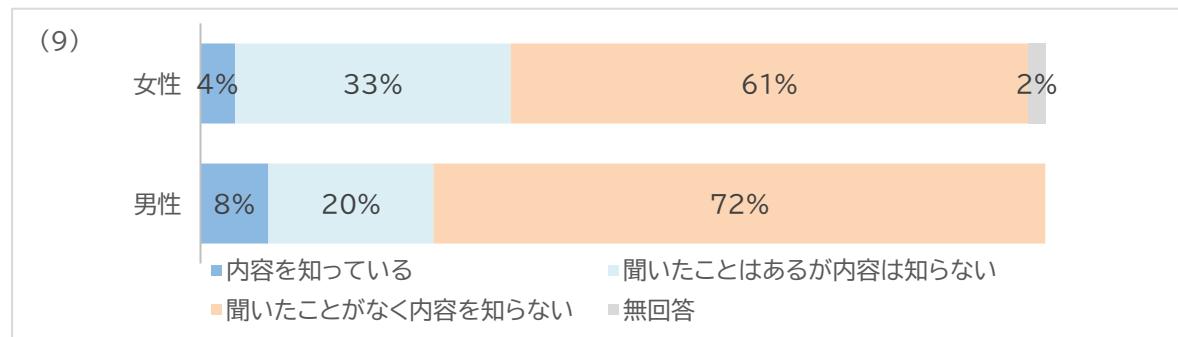
## (8) ワーク・ライフ・バランス

『知っている』は、女性 77%、男性 84% (前回女性 41.2%、男性 48.8%) と、前回より 30% 以上認知度が高くなりました。性別でみると男性の方が認知度が高い結果となります。



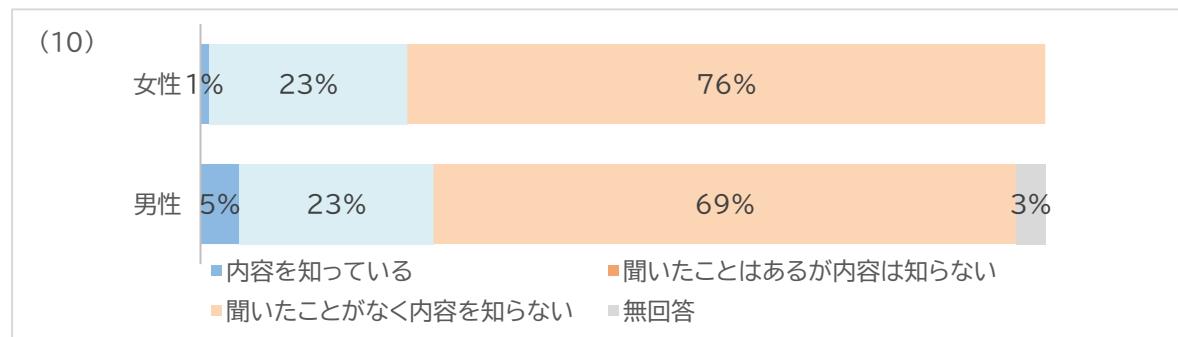
### (9) 四條畷市男女共同参画推進条例

『知っている』は、女性 37%、男性 28%（前回女性 26.2%、男性 21.6%）で、前回より高くなりましたが、『知らない』方が男女とも 60%以上という結果になります。



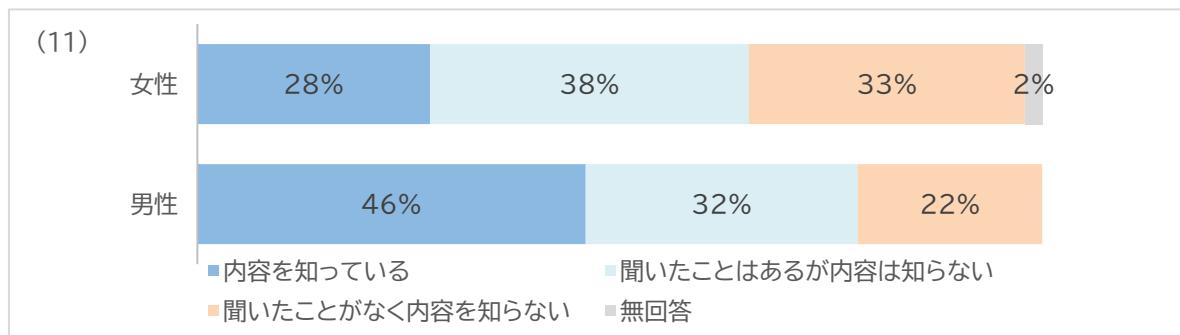
### (10) 四條畷市男女共同参画推進計画（あじさいプラン）

『知っている』は、女性 24%、男性 28%（前回女性 22.3%、男性 21.6%）と、男女ともに2割台となっています。『知らない』は男女ともに7割を超える結果となります。



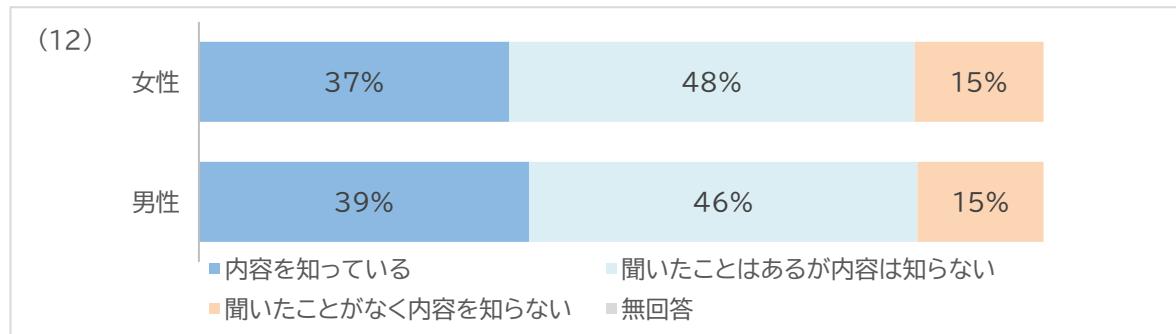
### (11) ダイバーシティ

『知っている』は、女性 66%、男性 78%（女性 29.7%、男性 32.8%）と男女ともに前回より認知度が大幅に高くなっています。



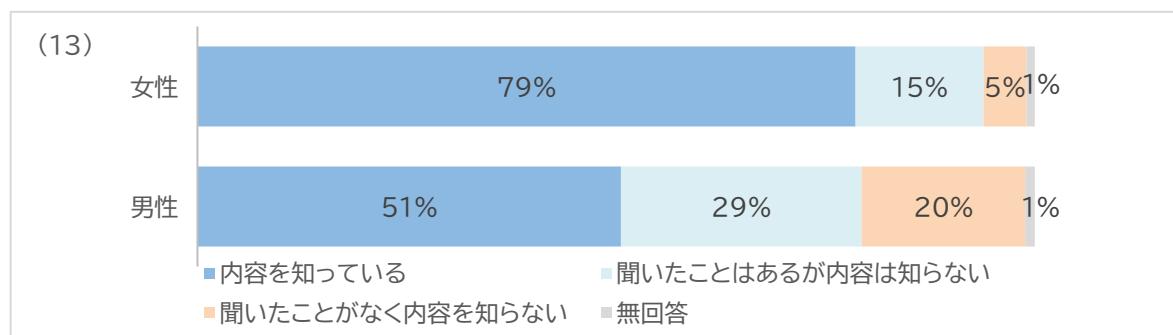
#### (12) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)

『知っている』は、男女ともに85%（前回女性78.3%、男性73.6%）となり、前回より男女とも認知度が上がっています。



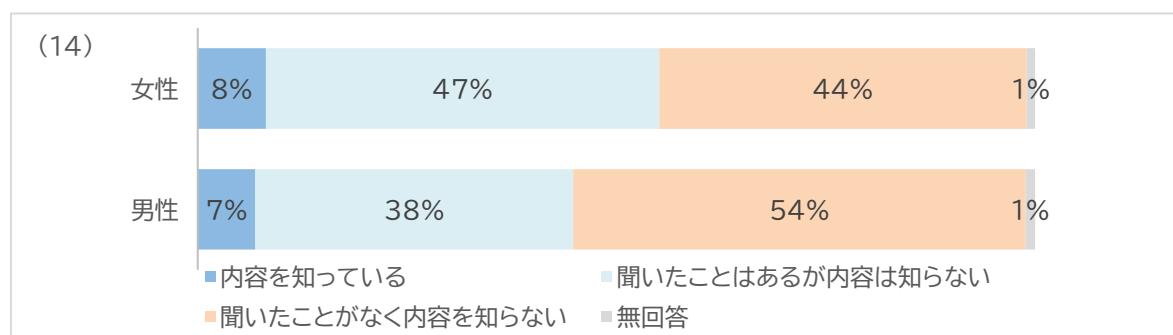
#### (13) ヤングケアラー

『知っている』は、女性 94%、男性 80%で、高い認知度となっており、「内容を知っている」は女性が男性より 28%と大幅に高い結果となります。



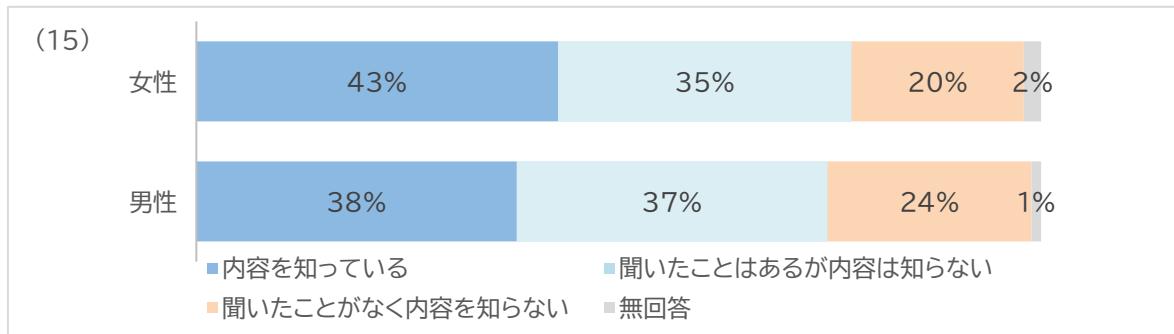
#### (14) 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

『知っている』は、女性 55%、男性 45%で、となっており、女性の方が 10%高くなっています。



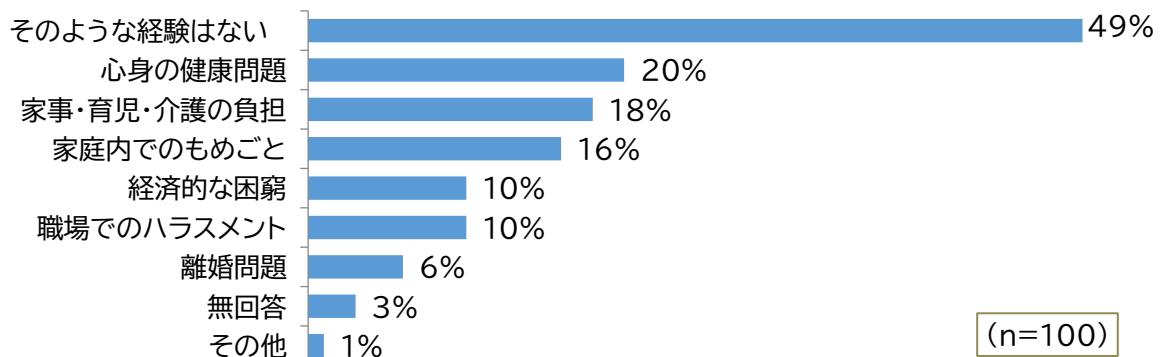
### (15) 不同意性交等罪

『知っている』は、女性 78%、男性 75%となっており、「内容を知っている」も女性がわずかに高い結果となります。



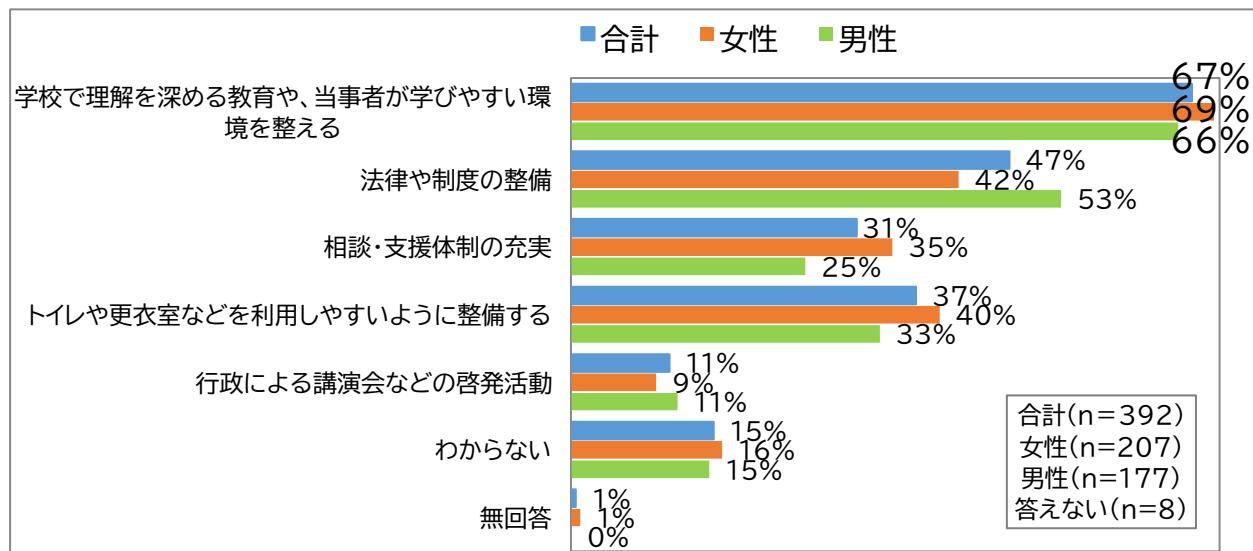
新)問16. 令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。支援を進めていくにあたり、現在の状況についてお聞きします。あなたが自力では解決できない困難な問題として直面したことありますか。(□はいくつでも)

「そのような経験はない」と答えた割合は約5割。困難な問題として直面した割合が多いのが、「心身の健康問題」20%、「家事・育児・介護の負担」18%、「家庭内でのもめごと」16%と続きます。



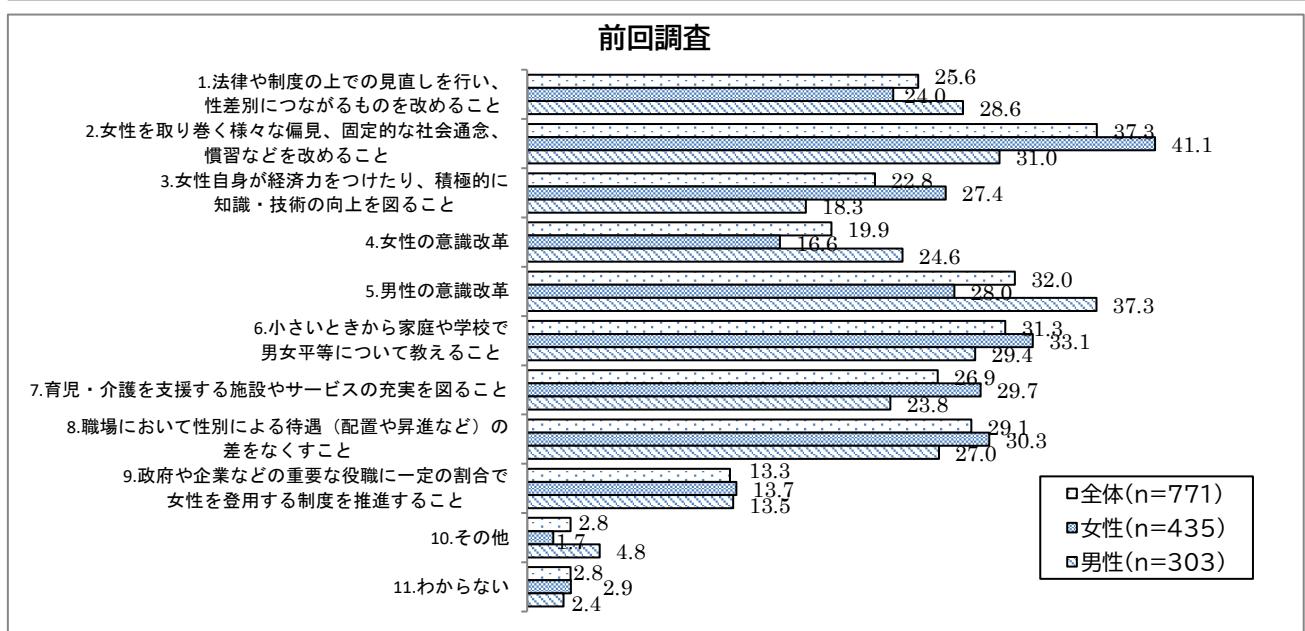
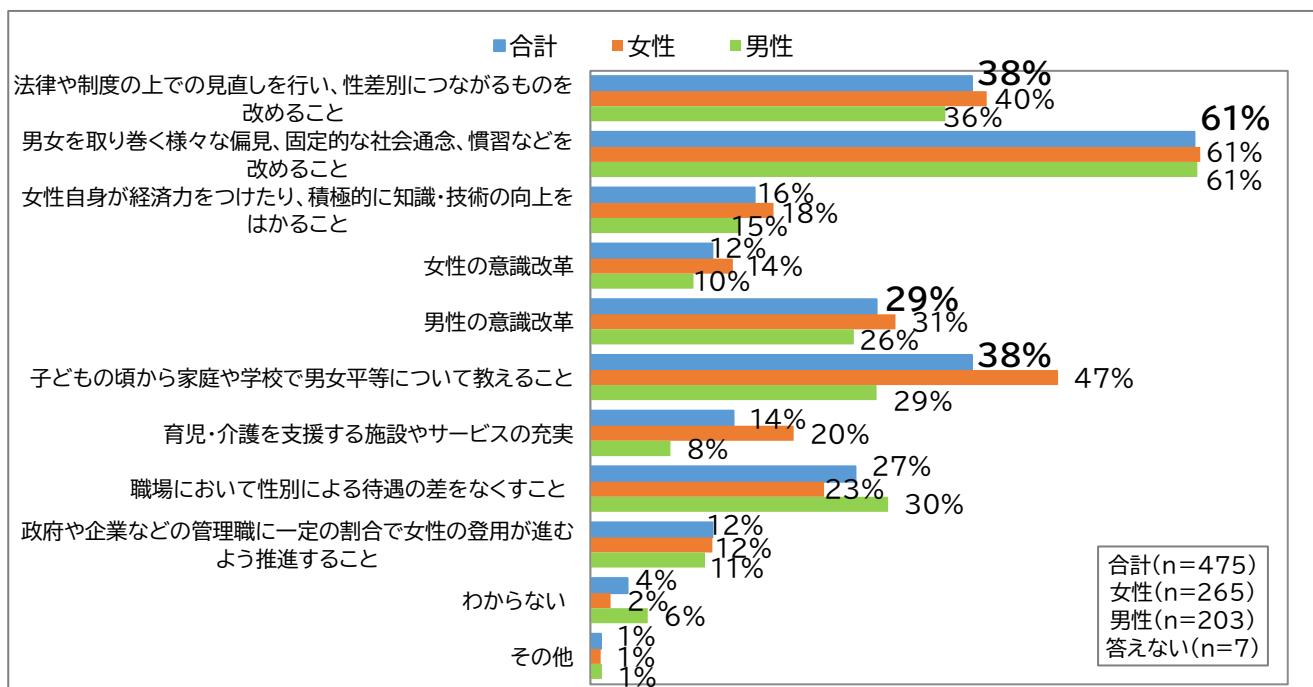
新)問17. 性的マイノリティの人が安心して過ごせる社会をつくるために必要だと思われる取り組みは何ですか(□は3つまで)

割合が高かったのは全体では「学校で理解を深めるための教育や、当事者が学びやすい環境を整える」が 67%、「法律や制度の整備」47%、「トイレや更衣室などを利用しやすいように整備する」37%の順となります。性別でみると、女性は「相談・支援体制の整備」、男性は「法律や制度の整備」を選択する割合が多い結果となります。



問18. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要なものは何ですか。(□は3つまで)

「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改めること」が6割と前回同様最も高くなっています。次に同率38%で「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを見直しすること」「子どもの頃から家庭や学校で男女平等について教えること」が続きます。前回は2番目に多かった「男性の意識改革」は今回は3番目で29%です。また、男女別で見ると、女性は子どもの頃からの家庭や学校での教育が、男性は職場において待遇の差をなくすことがより重要だと考える人が多い結果となります。



## 7 自由意見

男女共同参画社会の実現にあたって、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

全部で24件の回答が得られました。(回答一覧)

女性	40代	<p>子どもを地域で育てられる環境づくり</p> <p>子育て・教育を親と保育園・学校だけで行うのは難しいです</p> <p>子育てを全ての大人がやっていく環境づくり</p> <p>母親が社会に出やすい、負担がすくない環境が大切だと思います。多くの母親が政治に関わることができたら政治も変わると思います。</p>
男性	40代	<p>個人一人一人が意識して行動する必要がある。他人と比較はせず、柔軟な対応を企業や政府、皆がすべき。より良い社会になりますように。まずは、自らの考えに注意しよう。</p>
女性	60代	<p>能力もやる気もない女性については、数合わせのための昇格や議員や役員への登用はかえつて適正ではないと考えるが、その方向に進めることが男女共同参画社会と考えられているのかもと感じる時がある。</p>
女性	40代	<p>女性活躍を謳うかのような印象操作、これまで男女と表記していたものを女性男性に入れ替えて配慮しているようなポーズを発信することはわざとらしく感じることが増えた。(その女性がそれを希望しているなら良い)必要なのは教育、研修であり、建設的な議論を進めるための相互尊重に基づくコミュニケーションであることを、ひとりひとりが社会のリーダーとして発信していく必要性を感じている。最近のランドセルの色が多様化しているような、個人が良いと思うものを選択できる変化はよい変化だと感じる。年代により当たり前の感覚が違うことも含めて発信する必要がある。</p>
女性	40代	<p>社会や家庭においても女性は不利な部分が多々あり共同参画は難しいと感じます。</p> <p>共働きで、子供がいて主人と協力して家事育児していますが、本当に大変です。家事育児を協力分担したとしても残業、出張も頻繁には難しく女性が男性と同等には難しいと感じます。</p>
回答しない	10代	<p>The problem is capitalism and its inherent contradiction as we live in a dictatorship of the bourgeoisie.</p> <p>And that within capitalism it arises the need to divide the working class to lower our collective strength and thusly props up discrimination of any and all types.</p> <p>(訳:課題は資本主義と、私たちが資本家階級の独裁政権下で暮らしている中での本質的な矛盾です。そして資本主義は、労働者階級と貧困層に分け、集合体の力の弱体化を必然的にたらし、ありとあらゆる差別が助長されるのです。)</p>
女性	40代	<p>完全に男女を平等にすることは不可能です。昔に比べたら今でも十分善処されていると思います。良いとこどりせず、お互いを尊重して協力し合うしかないです。</p>

女性	30代	特にないが、あまり男女平等とか、女性だからと言って全て優遇すると、その制度を盾に悪用する人が出て、そこでの男女差別がひろがり、よくない結果になりそうなので、何事もルールを変える時は慎重に！
男性	30代	男女が社会に対して参画してもいいし、参画しなくてもいい、という社会が必要だと思います。現状は経済環境の悪化に伴い、参画せざるを得ない方が多いのではないか。キャリアアップしたい人は心置きなく働き、家庭に入りたい人は将来に不安なく家庭に入ることのできる世の中になることを願います。
女性	50代	言葉や力の強さにまかせて、自らの威儀を身近な人や職場の人達にぶつける男性がまだまだ多いと感じる。女は男に怯えたり虐げられるために生まれてきたわけではないし、見た目だけで性別を分ける世の中も時代遅れだと思う。同じ空の下に生まれてきた人間だということを実感しながら、同じ時間を共に生きていくべきだ。
男性	60代	まずは市議会定数等の男女比を同じにする。
女性	60代	性別に関わらず、誰もがしつかりと社会の中で活かされ生きていける世の中を築けることをねがいます。経済的な自立は重要だと思います。
男性	60代	社会全体の理解と教育。本当の実力主義化を促す。
男性	40代	父子家庭の私からすれば、母子家庭の手厚い補償は平等とは言えませんでした。当時、四條畷市役所に相談に行くも、父子家庭ですか？母子家庭は補助が有りますが、父子家庭はナイナイって言われた事一生忘れない。
女性	70代	年代によって考えが大きく変わっていてそれを変えるのは難しいものが有ると思うので、幼少期からの教育が重要だと思います。早く男女平等な社会になって欲しい
女性	50代	子供の頃から、知る機会に触れる事が大切だと考えています。相談できる場所がある事、相談していい事、知る事で回避できる困難があると感じています。周知することの大切、教育の中から、知る機会が当たり前に存在している安心感を実感できる環境を整えてほしい。
女性	50代	子どもが生まれてからも働きやすい社会にするために保育所等子どもを預けられる施設を増やすことは必要だと思うが、幼い子の身になると、きっと親と一緒にいたいと思っていると思う。それでも仕事を続けたい、仕事が生き甲斐だと思う人はそれで全然構わないと思うが、子どもと一緒にいたいと思う人は子どもと一緒にいられるよう、経済的支援や長期にわたる育休制度、復職支援などを充実させることも必要だと思う。 幼いときに多くの時間を親と過ごし、親の愛情を感じて育つことは子どもの健全育成には大切だと思う。この場合の親というのは父親と母親の両方。子育ては母親だけが担うものではない。子育てしたいと思う人が心置きなく子育てができる環境づくりも必要だと思う。本当は子どもと一緒にいたいのに、経済的に難しいから復職せざるをえないという人も多いのではないか。

女性	20代	私は今正社員として働いているが、妊娠や子育てをしないといけないとなるとキャリアアップが絶たれる不安があります。会社的にも時短勤務になると、新しい資格を取得させてくれない等の不遇もあります。キャリアか子育てか決断をしないといけない日が迫ってきてるというのがすごく怖いです。
男性	40代	女性平均賃金を男性と同じに。また子供を預ける施設の充実。男性も子育ての為、早退、遅刻、休暇が許される雰囲気つくり。
女性	20代	<p>性的マイナリティの人が過ごしやすい社会を目指す事は素晴らしいです。ですが、その為に【心の性】を優先し、公的場所で【身体の性】での判別が無くなるのはあってはなりません。例えば、①男女関係なく使用できるトイレのみにする②心の性を優先した、男女別施設の使用（身体は男性、心は女性の人物に女性更衣室の使用を許可など）</p> <p>性犯罪がこの世から無くならない限り、赤の他人かつ異性と閉鎖的空間で一緒になる環境を作ることはないで欲しい。</p> <p>今まで、変装して同性になりすまし盗撮をする犯罪者がいます。大浴場などでは、同性での性犯罪も起きています。そんな中、男性器がついた女性・女性器がついた男性達が自由に男女別施設を使用出来るようになつたら…性犯罪が横行する未来が見えます。</p> <p>先日も大阪で女装した男性が女性用トイレを使用し、逮捕される事件がありました。</p> <p>性同一性障害の診断書は無く、定期的に女装して複数回女性用トイレを使用していたとのことです。この方をよく知る人なら、この人は他の女性を襲ったりしない。ただ女性らしく振る舞いたいだけの人なのだと理解を得ることが出来ていたかもしれません。現状は、見た目と行動で判断する事しか出来ません。それに赤の他人です。そこまで理解して接する人・時間なんてありません。ここで強調しておきたいのは、男性器と女性器が交わる可能性が高くなる公共施設を増やさないで欲しいという事です。生物学的性を、無視しないで欲しいという事です。心の性（性自認）は本人の自由ですし、そこについて周りが咎めたり、差別や不当な扱いをする事は絶対にあってはなりません。ですが、それは生物学的性とは全く別の話です。現在でも性犯罪は無くなっています。それを忘れずに、よりよい社会になる事を願っています。</p>
女性	40代	近頃、中性的な芸能人が多くなり、それに伴って一般的にも中性的な人が増えて来たと思う。一番良いのは困っている人が意見を出しやすい環境さえ整えば、自然と意見も出てきて、問題点が見えて対策も練れるのではないかと思います。
男性	60代	自治会を通してもっと PR した方がよい。
男性	50代	まずアンケートの回答率を上げるには、少しでもプレゼントでも出したほうがいいと思います。こんな長いアンケートを最後まで回答するモチベーションが生まれません。せめて、このアンケート結果がどう生かされるかを最初に書いてほしいです。参考とするため、とは書かれていますが、これは何もしないと言ってるのと同じ印象があります。本当に意味のあるアンケートをしたいので

		あれば、このアンケート結果をもって何をどう変えていくのかは書けるはずだと思います。次回からご検討ください。
男性	70代	質問項目に対して限られた答えの中から択一を迫る手法はおかしいと思う。選択肢の内容自体に偏見があると見受けられ、選択をはばかれる項目が多い。

## 各設問で「その他」を選択した方の意見

### 問5. 女性が仕事に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。(□は1つだけ)

- ・子供にとって適切な教育環境を整えることができるようすべきである。そのため、その上で働くのであれば働く環境はなんでも構わない。
- ・こうするべきと決めるのではなく その時々の状況で判断すれば良いのではないかと考える・個々人の主義、家庭状況、子どもの状況による。
- ・女性に限らず、各家庭の現状においてフレキシブルに考えれば良い。ある性別において、そうすべきとは考えない。
- ・その家庭の家族構成や収入など、様々な要素が関係する話なので、一概にこうするべきという回答はできないのでは?もっと具体的な設定の元でなければ正確に意見を量れないと思います。
- ・その人その人、様々なので男性女性だからという考えはない
- ・環境が整わなければ、仕事と家庭の両立したくとも出来ることは、思えないです。
- ・個人に合わした仕事、家事、等すればよい。結婚も個人の見解で自由にしても、しなくてもよい。他人と比較しなくてよい。
- ・個人の意志を尊重し、家事、育児と仕事の割合を選択できるのが望ましいと思う。育児期間中に仕事を辞すのではなく日数や時間を減らして継続勤務する

### 問8. 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(□はいくつでも)

- 好景気による企業、社会の余裕。現場も企業も自分のことで精一杯の中人の家庭の事で負荷が増えるのを許容するのは無理がある。
- 家族、職場、本人の相互尊重。

### 問9. 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(□は3つまで)

- 好景気による社会の余裕。

### 問11. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(□は3つまで)

- ・本人の意思
- ・やろうとすれば現時点でもできる。選択肢が外部に求めたり、外部と調整することしか書かれていらない。

問13. あなたは、配偶者・パートナーからの暴力について、相談窓口としてどのようなものをお知りしていますか。また、知っている場合、どのような方法で知りましたか。

- ・公務員をしていたから
- ・学校の授業
- ・仕事の中で
- ・自身がそう言う行為をされても、相談する事はできなかったが、暴力が酷くなつた時に家族に連れて行かれたので
- ・子供の頃からの教育
- ・世の常識である
- ・常識として

新)問16. 令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。支援を進めていくにあたり、現在の状況についてお聞きします。あなたが自力では解決できない困難な問題として直面したことがありますか。(□はいくつでも)

未婚の兄の借金問題

問18. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。(□は3つまで)

差別と区別は混同してはならない。男性だから高給、女性だから薄給ではいけないし、女性だから昇進、男性だから据え置き、ではいけない。大切なのは能力のある人を適切に登用することであって、会社の女性役員数を何%にみたいな目標は任命される女性含めだれも幸せにしない。職場において男女の差で配置待遇を変えない、となると女性にも重たい荷物を運んでいただかなければならぬし、月経などで体調不良であっても通常通りのパフォーマンスを要求せざるをえない。現場仕事終わってから深夜事務仕事もしていただくし、数値の責任は必ず負ってもらう。そういう条件で働き続けることのできる女性には、失礼ながら今のところ私は会ったことがない。その道を本人が望むのであればともに切磋琢磨していくべきだと思うが、女性が活躍しなければならない、という圧力の下の登用であるならば、それは本人のためにもならない。ライフワークバランスを考えた結果、軽作業、薄給で働きたい、という需要も許容すべき。